# 大正大学本『源氏物語』翻刻（若紫・末摘花）

大場　朗
魚尾孝久

## 翻刻の経緯

一　本翻刻は、大正大学附属図書館によって貴重書画像として公開（ホームページ）されている大正大学本源氏物語を、パソコン教室でのリーディングの形式によって授業に取りいれたものである。

一　翻刻は、平成二十年より日本語日本文学コースの授業「古典文学研究」における翻刻を基にして、それぞれ巻別の翻刻担当者によって精査したものである。

一　翻刻にあたっては、学修研究のためであるので、変体仮名の字母漢字も並列表記したところに特色がある。

一　当該授業は現在もおこなわれており、翻刻されたものは順次公開していく。

## 大正大学本源氏物語翻刻凡例

一　本翻刻は、大正大学附属図書館貴重書画像公開（ホームページ）から翻刻し、不明瞭なところは原本と照合する方法によった。

一　翻刻における頁の表記は、検索の便宜を図るため、ホームページにおける頁数を使用した。

例【若紫】5

大正大学本『源氏物語』翻刻（若紫・末摘花）

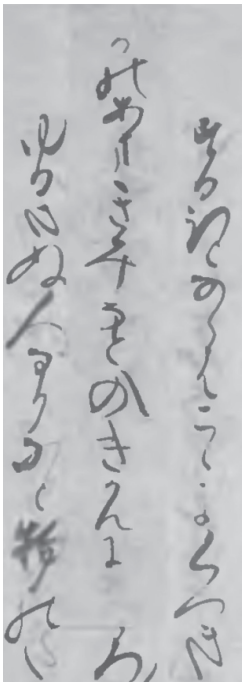
一

一　翻刻にあたっては、「変体仮名字母漢字（青色）」と「平仮名（黒色）」を並列表記した。

例　以徒蓮乃御時尓可女御更衣安未多左不良
　　いつれの御時にか女御更衣あまたさふら

一　附箋によって添付されている場合は、ホームページにしたがい、附箋のみの頁と本文の頁とにわけて翻刻をした。

例　附箋（可能安万幾美奈止乃幾可无尓）
　　（かのあまきみなとのきかんに）



一　行間の文字および補入文字は（　）□にて本文に入れた。

例　古止丹尓（王）留物者　　民部少輔イ乃
　　ことにに（わ）る物は　　民部少輔イの

一　見せ消ちは、そのまま表記して、「＝」取り消し線を伏した。

例「　かゆ　」

一　字母漢字は、旧字と略字が混用されているが、翻刻にあたっては通行体表記とした。

例「禮」→「礼」　「傳」→「伝」

一　漢字は、旧字体と略字体とが混用されているが、通行体表記とした。

例「國」→「国」　「繪」→「絵」
「哥」→「歌」　「佛」→「仏」
「聲」→「声」

一　当て字は、そのまま表記した。

例「さか月」（杯）　「伊与」（伊予）

一　当翻刻における巻別の担当責任者は、次の通りである。

「若紫」　首藤　卓哉
「末摘花」　魚尾　和瑛

（魚尾　孝久）

王可武良左起
わかむらさき

【若紫】1

【若紫】2

【若紫】3

【若紫】4

和良者屋三仁王徒良比給帝与呂徒尓満之奈比可知
わらはやみにわつらひ給てよろつにましなひかち

奈止満以良勢太末遍止志類之奈久天阿末多多比於
なとまいらせたまへとしるしなくてあまたたひお

己利給遣礼者阿累人幾多山尓奈武奈尓可之寺止以婦止
こり給けれはある人きた山になむなにかし寺といふと

古呂尓加之己幾遠己奈比人侍累古曽乃夏毛世尓於己
ころにかしこきをこなひ人侍るこその夏も世におこ

里天人〳〵満之奈比王川良飛之遠屋可天止ゝ武累太
りて人〳〵ましなひわつらひしをやかてとゝむるた

久比安末多侍利幾志ゝ古良加之徒累止起者宇多天侍遠
くひあまた侍りきしゝこらかしつるときはうたて侍を

止久己曽心見佐世給者女奈止幾己由連者免之尓徒可
とくこそ心見させ給はめなときこゆれはめしにつか

者之多流尓於以可ゝ末利天室乃止尓毛満可天春止申多礼者
はしたるにおいかゝまりて室のとにもまかてすと申たれは

以可ゝ波世无以止志乃比帝毛乃世无止乃給帝御止毛尓武徒
いかゝはせんいとしのひてものせんとの給て御ともにむつ

【若紫】5

満之幾四五人者可里之天末多阿可川幾尓於者須也ゝ
ましき四五人はかりしてまたあかつきにおはすやゝ

布可宇以流止己呂成介利屋与比乃徒己毛利奈礼者京
ふかういるところ成けりやよひのつこもりなれは京

乃花左可里盤三那春起丹介利山農佐久良八満多佐可
の花さかりはみなすきにけり山のさくらはまたさか

里尓天以利毛天於者寸累末ゝ仁霞濃多ゝ春末比毛
りにていりもておはするまゝに霞のたゝすまひも

於可之宇見由連八加ゝ流安利幾毛奈良比給者須所世
おかしう見ゆれはかゝるありきもならひ給はす所せ

幾御身尓天女川良之宇於保左礼介利寺濃佐末毛以登
き御身にてめつらしうおほされけり寺のさまもいと

阿者礼奈利美祢多可久婦可支岩農中尓曽比志利
あはれなりみねたかくふかき岩の中にそひしり

入為多里希留乃本利給帝多礼止毛志良勢給者寸
入ゐたりけるのほり給てたれともしらせ給はす

以止以多宇也徒連太末遍連止志累幾御左満奈礼者
いといたうやつれたまへれとしるき御さまなれは

【若紫】6

【若紫】7

阿奈可之己也悲止比女之侍之尓也於者之満春良无以万八
あなかしこやひとひめし侍しにやおはしますらんいまは

古濃世乃己止遠思給者祢八希无可多能於己奈比毛寸天和
この世のことを思給はねはけんかたのおこなひもすてわ

春礼天侍遠以可天加宇於者之満之徒良无止於止呂幾
すれて侍をいかてかうおはしましつらんとおとろき

佐者幾天宇知恵見徒ゝ見多天末川累以止多宇止幾大
さはきてうちゑみつゝ見たてまつるいとたうとき大

登己奈利介利左流部幾毛乃徒久利帝春可勢多天満
とこなりけりさるへきものつくりてすかせたてま

徒利可知奈止満以累保止日多可久左之阿可利奴寸己之太
つりかちなとまいるほと日たかくさしあかりぬすこした

知以天徒ゝ見王多之太末遍者多可幾止己呂尓天古ゝ可之
ちいてつゝ見わたしたまへはたかきところにてこゝかし

己楚宇保宇止毛阿良者仁見於呂佐類ゝ多ゝ古乃徒ゝ良
こそうほうともあらはに見おろさるゝたゝこのつゝら

於利濃志毛仁於那之小柴奈礼止宇流者之宇志王多
おりのしもにおなし小柴なれとうるはしうしわた

【若紫】8

志帝幾与希奈累屋良宇奈登徒ゝ希天木多知以止与之
してきよけなるやらうなとつゝけて木たちいとよし

阿累者奈仁人農春武尓加止止比太万遍者御止毛奈留人
あるはなに人のすむにかととひたまへは御ともなる人

古礼奈无奈丹可之曽宇徒農此布多止勢古毛利侍可多尓
これなんなにかしそうつの此ふたとせこもり侍かたに

波遍累奈留心者川可之幾人春武奈流止己呂尓己曽
はへるなる心はつかしき人すむなるところにこそ

阿奈礼安也之宇毛阿末利屋徒之希留可那幾ゝ裳古曽
あなれあやしうもあまりやつしけるかなきゝもこそ

春礼奈止乃給幾与希那累王良波奈止阿末多以帝幾天
すれなとの給きよけなるわらはなとあまたいてきて

安可多天末川利者那於利奈止春流毛阿良者仁美由可之
あかたてまつりはなおりなとするもあらはにみゆかし

古尓女己曽安利遣礼曽宇徒者与毛左也宇尓者寸遍
こに女こそありけれそうつはよもさやうにはすへ

多万者之越以可奈累人奈良武止久知〳〵以婦於利天
たまはしをいかなる人ならむとくち〳〵いふおりて

【若紫】9

乃曽久毛阿利於可之希奈流女子止毛和可幾人王良波部
のそくもありおかしけなる女子ともわかき人わらはへ

奈武見由留止以婦君盤遠己奈比之給川ゝ日多久流末ゝ
なむ見ゆるといふ君はをこなひし給つゝ日たくるまゝ

尓以可奈良武止於保之多留遠止可宇満幾良者佐世給天於毛
にいかならむとおほしたるをとかうまきらはさせ給ておも

本之以連奴奈无与久侍止幾己由礼者志利遍乃山部
ほしいれぬなんよく侍ときこゆれはしりへの山へ

多知以天ゝ京乃可多越見給婦者類可尓霞王多里天与
たちいてゝ京のかたを見給ふはるかに霞わたりてよ

毛濃木春恵曽己者可登奈久遣不利和多連累程恵尓以止
もの木すゑそこはかとなくけふりわたれる程ゑにいと

与久裳尓多累可那可ゝ類止己呂尓寸武人心尓思日乃己
よくもにたるかなかゝるところにすむ人心に思ひのこ

春事盤阿良之可之登乃給遍者己連者以止阿左久侍人
す事はあらしかしとの給へはこれはいとあさく侍人

乃国奈止仁者遍累海山農阿利左満奈止越御覧世佐
の国なとにはへる海山のありさまなとを御覧せさ

【若紫】10

世天侍良者以可仁御恵以見之宇満左良勢給者无
せて侍らはいかに御ゑいみしうまさらせ給はん

富士乃山奈仁可之乃多希奈止加多里幾己由留毛
富士の山なにかしのたけなとかたりきこゆるも

安利又尓之能国農於毛之路幾浦〳〵以曽乃宇偏遠
あり又にしの国のおもしろき浦〳〵いそのうへを

以比川ゝ久流毛安利帝与呂徒尓末幾良者之幾己
いひつゝくるもありてよろつにまきらはしきこ

遊知可幾止己呂尓八者利満乃安可之乃宇良古曽奈越
ゆちかきところにははりまのあかしのうらこそなを

古止仁侍連奈尓乃以多利布可幾久万八奈遣礼止多ゝ
ことに侍れなにのいたりふかきくまはなけれとたゝ

宇見農於毛天遠見王多之多累保止奈武安也之
うみのおもてを見わたしたるほとなむあやし

宇古止所尓似春由本比可奈留止己呂尓侍留加乃国
うこと所に似すゆほひかなるところに侍るかの国

濃左幾乃可見志保知乃女可之川幾多累家以止以多之
のさきのかみしほちの女かしつきたる家いといたし

【若紫】11

加之大臣乃後尓天以帝多地毛春遍可利計累人農
かし大臣の後にていてたちもすへかりける人の

世乃比可毛乃尓天満之良比毛世須近衛中将遠寿
世のひかものにてましらひもせす近衛中将をす

天ゝ申太万波連利遣留徒可左奈礼止加乃国農人尓毛
てゝ申たまはれりけるつかさなれとかの国の人にも

寸己之安那川良礼帝奈仁乃女以保久尓天可又都尓毛
すこしあなつられてなにのめいほくにてか又都にも

可遍良无止以比帝加之良毛於呂之侍尓希類遠須己之
かへらんといひてかしらもおろし侍にけるをすこし

於久満利多累山春見毛世天佐累海徒良尓以天為多流
おくまりたる山すみもせてさる海つらにいてゐたる

比可〳〵之幾屋宇奈礼止希仁可乃国農宇知尓佐毛
ひか〳〵しきやうなれとけにかの国のうちにさも

人農古毛利為怒遍幾止己呂〳〵八安良奈可良布可起
人のこもりゐぬへきところ〳〵はありながらふかき

里者人者那連古ゝ呂春己久和可幾左以之乃思王比奴
里は人はなれこゝろすこくわかきさいしの思わひぬ

【若紫】12

遍幾仁与利可川盤心遠屋連流春満井尓奈武侍左以
へきによりかつは心をやれるすまゐになむ侍さい

徒己呂末可里久多利天侍之徒井天尓安利左満美多
つころまかりくたりて侍しつゐてにありさまみた

末部尓与利天侍之可者京尓天己曽止己呂衣奴也宇成
まへによりて侍しかは京にてこそところえぬやう成

希連楚古良者累可尓以可女之宇志女天徒久連累左満
けれそこらはるかにいかめしうしめてつくれるさま

佐者以遍止国乃川可左尓天之遠幾介留事奈礼八残
さはいへと国のつかさにてしをきける事なれは残

乃与者比遊多可仁布部幾心可末遍毛尓奈久志多利
のよはひゆたかにふへき心かまへもになくしたり

介利後乃世濃川止女毛以止与久志帝中〳〵保宇之
けり後の世のつとめもいとよくして中〳〵ほうし

満左里之多流人尓奈武侍介留止申世波左天曽乃女
まさりしたる人になむ侍けると申せはさてその女

者止止比給不希之宇者阿良須可多知心者衣奈止侍留
はととひ給ふけしうはあらすかたち心はえなと侍る

【若紫】13

奈利代〳〵乃国乃司奈止与宇為古止尓之天佐累部幾心
なり代〳〵の国の司なとようねことにしてさるへき心
者遍美春奈礼止佐良尓宇希比可春和可身乃可久以多川良
はへみすなれとさらにうけひかすわか身のかくいたつら
尓志徒女流多尓安累遠古濃人悲止利尓己曽阿連思不
にしつめるたにあるをこの人ひとりにこそあれ思ふ
佐万己止奈利毛之和連尓遠久連天曽乃心左之止計春
さまことなりもしわれにをくれてその心さしとけす
古濃思遠幾徒累春久勢太可者ゝ海尓以利祢止川祢尓
この思をきつるすくせたかはゝ海にいりねとつねに
由以己无志遠幾天侍留奈流止幾己遊連者幾見毛遠可之
ゆいこんしをきて侍るなるときこゆれはきみもをかし
止幾ゝ給人〳〵海龍王乃幾左支仁奈留部幾以川幾武春女
ときゝ給人〳〵海龍王のきさきになるへきいつきむすめ
那奈利心多可幾久流之也止天王良婦可久以不者波利満乃
なり心たかきくるしやとてわらふかくいふははりまの
可見乃子能蔵人与利古止之閑宇婦利衣多留也介利以止
かみの子の蔵人よりことしかうふりえたる也けりいと

【若紫】14

春幾多流毛乃奈礼者加乃入道乃遊以己无屋布利徒遍
すきたるものなれはかの入道のゆいこんやふりつへ
幾心盤阿良無可之佐帝多ゝ春見与累奈良武止以比安部利
き心はあらむかしさてたゝすみよるならむといひあへり
以帝奈尓之仁左以不止毛井奈可比多良无遠左奈久与里
いてなにしにさいふともゐなかひたらんをさなくより
左流止己呂尓於比出天布留女比多留於也尓乃三志多可比多良
さるところにおひ出てふるめひたるおやにのみしたかひたら
武者波ゝ古曽由遍阿留部遣礼良幾和可人王良波奈止都乃
むははゝこそゆへあるへけれよきわか人わらはなと都の
屋無己止那幾所〳〵与里流以尓布礼天多川祢止利天満者
やむことなき所〳〵よりるいにふれてたつねとりてまは
由久古曽毛天奈須奈連奈佐希那幾人尓奈利由可者左天
ゆくこそもてなすなれなさけなき人になりゆかはさて
心也春久天之毛盈遠幾多良之遠也奈止以婦毛安利君
心やすくてしもえをきたらしをやなといふもあり君
奈仁古ゝ呂安利天海乃曽己満天布可宇思以流良无曽己
なにこゝろありて海のそこまてふかう思いるらんそこ

【若紫】15

乃美累女毛物武徒可之宇奈止乃給天多ゝ奈良須於毛本之
のみるめも物むつかしうなとの給てたゝならすおもほし
多利加也宇尓天毛奈部帝奈良須毛天比可見多累事古乃見
たりかやうにてもなへてならすもてひかみたる事このみ
給不御心奈礼者御美ゝ止ゝ満良武遠也止見多天末川累暮
給ふ御心なれは御みゝとゝまらむをやと見たてまつる暮
閑ゝ里奴礼止於己良勢給者須成奴留尓己曽八阿良女者也
かゝりぬれとおこらせ給はす成ぬるにこそはあらめはや
加遍良世給奈武止阿累遠大止己御物乃希奈止久者ゝ礼
かへらせ給なむとあるを大とこ御物のけなとくはゝれ
流左末仁於八之満之希留遠古与比盤奈越之徒可尓加知奈止
るさまにおはしましけるをこよひはなをしつかにかちなと
万以利天以帝左世給部止申須左毛阿累事止美那人申春
まいりていてさせ給へと申すさもある事とみな人申す
君毛可ゝ流多比祢毛奈良比給者祢八佐春可仁遠可之久天左良
君もかゝるたひねもならひ給はねはさすかにをかしくてさら
者阿可月尓止乃給日毛以止奈可幾尓川礼〳〵奈連者夕暮乃
はあか月にとの給日もいとなかきにつれ〳〵なれは夕暮の

七

【若紫】16

以多宇霞多累尓満幾連天加濃小柴可幾乃毛止仁多地
いたう霞たるにまきれてかの小柴かきのもとにたち

出給不人〳〵盤可編之給帝古礼三川乃阿曽无止乃曽幾給
出給ふ人〳〵はかへし給てこれみつのあそんとのそき給

遍者多ゝ古乃尓之於毛天尓之裳持仏春遍多天末川利天
へはたゝこのにしおもてにしも持仏すへたてまつりて

於己奈不安万成介利寸多礼春己之安計帝者那多天末川累
おこなふあま成けりすたれすこしあけてはなたてまつる

女利中濃者之良尓与里為天希宇曽久濃宇遍尓経遠
めり中のはしらによりゐてけうそくのうへに経を

遠支天以止奈也末之希仁与見井多流阿万君多ゝ人登
をきていとなやましけによみゐたるあま君たゝ人と

美衣須四十阿末利尓天以止志呂久安天尓屋世多礼止徒良
みえす四十あまりにていとしろくあてにやせたれとつら

川幾布久良可仁末見乃保止可見乃宇川久之希仁曽可礼多留
つきふくらかにまみのほとかみのうつくしけにそかれたる

春恵毛中〳〵奈可幾良利毛古良奈宇以末女可之幾毛乃可那
すゑも中〳〵なかきよりもこよなういまめかしきものかな

【若紫】17

止阿者礼尓見太末不幾与希那累於止奈婦多利波可利左天者
とあはれに見たまふきよけなるおとなふたりはかりさては

和良者遍曽以天以利安曽不中尓十者可里尓也安良无登
わらはへそいていりあそふ中に十はかりにやあらんと

美衣天志呂幾幾奴山吹奈止濃奈礼多留幾天者之里幾
みえてしろききぬ山吹なとのなれたるきてはしりき

多累女子阿末多見衣川留子止毛仁尓留遍宇裳阿良寿
たる女子あまた見えつる子ともにこるへうもあらす

以三之宇於比左幾美衣天宇川久之希那累可多知也可見盤
いみしうおひさきみえてうつくしけなるかたち也かみは

安不幾越日呂希多流屋宇仁遊良〳〵止之天加保者以止阿可
あふきをひろけたるやうにゆら〳〵としてかほはいとあか

久春利那之天多天利奈仁古止曽也王良波部止者良多知太万
くすりなしてたてりなにことそやわらはへとはらたちたま

遍累可止天阿万幾見乃美安希多流尓須己之於保衣多留所
へるかとてあまきみのみあけたるにすこしおほえたる所

阿連者子奈女利止美給不春ゝ免乃己遠以奴幾可尓可之
あれは子なめりとみ給ふすゝめのこをいぬきかにかし

【若紫】18

徒累布勢古乃宇知尓古女多利川留物遠止天以止久地於之
つるふせこのうちにこめたりつる物をとていとくちおし

止於毛遍利己乃井多流於止那連以乃心奈之濃可ゝ留和左
とおもへりこのゐたるおとなれいの心なしのかゝるわさ

遠之天左以奈末流ゝ己曽以止心川幾奈希連以徒可多部可満
をしてさいなまるゝこそいと心つきなけれいつかたへかま

加利奴留以止於可之宇屋宇〳〵奈利川累毛乃遠加良須奈止
かりぬるいとおかしうやう〳〵なりつるものをからすなと

裳己曽見徒久礼止天多知天由久可見由留ゝ加尓以止奈可久
もこそ見つくれとてたちてゆくかみゆるゝかにいとなかく

女也春幾人奈利小納言乃女能止故曽人以婦女留八古濃子
めやすき人なり少納言のめのとこそ人いふめるはこの子

乃宇之呂三奈留遍之安万幾見以天阿奈於左奈也以婦
のうしろみなるへしあまきみいてあなおさなやいふ

可比奈宇物之給可奈遠能可加久希婦阿春仁於保由留命
かひなう物し給かなをのかかくけふあすにおほゆる命

遠者奈尓止毛於保之多良天春ゝ免志多比給不本止与徒三
をはなにともおほしたらてすゝめしたひ給ふほとよつみ

【若紫】19

宇累己止曽登川祢尓幾己由留遠心宇久止天古地屋止以部者
うることそとつねにきこゆるを心うくとてこちやといへは

徒以為多里川良川幾以止良宇太希尓天万遊乃王多里
ついゐたりつらつきいとらうたけにてまゆのわたり

宇知遣不利以者計奈久加以屋利多累比多以川幾加武左
うちけふりいはけなくかいやりたるひたいつきかむさ

之以見之宇ゝ徒久之祢比由可武左満遊可之幾人可那
しいみしうゝつくしねひゆかむさまゆかしき人かな

止免止満利給左流者加幾利奈久心遠徒久之幾己由留人
とめとまり給さるはかきりなく心をつくしきこゆる人

尓以登与宇仁多天末川連流可満毛良類ゝ奈利介利止思不
にいとようにたてまつれるかまもらるゝなりけりと思ふ

尓毛涙曽於川留阿万君可見遠加幾奈天川ゝ希川累己止
にも涙そおつるあま君かみをかきなてつゝけつること

遠者宇流左可里給遍止於可之乃御久之也以止者可那宇物
をはうるさかり給へとおかしの御くしやいとはかなう物

志給己曽阿者礼尓宇之路女多遣礼閑者可里尓奈礼者以止
し給こそあはれにうしろめたけれかはかりになれはいと

【若紫】20

加ゝ良奴人毛阿累毛乃越古比女幾見盤十二尓天殿尓遠久連
かゝらぬ人もあるものをこひめきみは十二にて殿にをくれ

給之本止以見之宇物者於毛比志利給之曽可之多ゝ以万遠
給しほといみしう物はおもひしり給しそかしたゝいまを

乃連見春天多天末川良波以可天世尓於者世武止寸良無止
のれ見すてたてまつらはいかて世におはせむとすらむと

天以三之久奈久遠美給不毛春ゝ呂尓可那之於左那心知
ていみしくなくをみ給ふもすゝろにかなしおさな心ち

尓毛佐春可仁宇知満毛利天布之女仁奈利天宇川布之多流尓
にもさすかにうちまもりてふしめになりてうつふしたるに

古保連可ゝ里多累可見徒也〳〵止女天多宇見由
こほれかゝりたるかみつや〳〵とめてたう見ゆ

於比多ゝ武案利加毛之良奴王可草遠ゝ久良須露曽
おひたゝむありかもしらぬわか草をゝくらす露そ

幾衣武空那支又為多累於止那希仁止宇地奈幾天
きえむ空なき又ゐたるおとなけにとうちなきて

者川草濃於比由久春恵毛之良怒末仁以可天可露乃
はつ草のおひゆくすゑもしらぬまにいかてか露の

【若紫】21

幾衣武止春良舞止幾古由留保止尓曽宇川阿奈多与利
きえむとすらむときこゆるほとにそうつあなたより

幾天古奈多八阿良波尓也侍良无希婦之裳者之仁於八之
きてこなたはあらはにや侍らんけふしもはしにおはし

満之希流可奈己乃可見乃比志利能者宇仁源氏乃中将王良
ましけるかなこのかみのひしりのはうに源氏の中将わら

者也三満之奈比尓物之給希留遠多ゝ以万奈武幾ゝ川希
はやみましなひに物し給けるをたゝいまなむきゝつけ

侍以三之宇忍給遣礼者志利侍良天古ゝ尓侍奈可良御登
侍いみしう忍給けれはしり侍らてこゝに侍なから御と

布良比尓毛満宇天佐利希留登乃給部者安那以美之也以止
ふらひにもまうてさりけるとの給へはあないみしやいと

安也之幾左末越人也三川良无止天寸多礼於呂之徒己乃世
あやしきさまを人やみつらんとてすたれおろしつこの世

尓能ゝ志利給不光源氏可ゝ流川為天仁美多天末川利太万
にのゝしり給ふ光源氏かゝるつゐてにみたてまつりたま

者武也世遠春天多累法師乃心知尓毛以三之宇世濃宇連
はむや世をすてたる法師の心ちにもいみしう世のうれ

【若紫】22

遍和春礼与者比乃不累人農御安利佐万也以天御世于楚
へわすれよはひのふる人の御ありさま也いて御せうそ

己幾己衣无止天多川遠止春礼者可遍利給奴阿者礼奈留人
こきこえんとてたつをとすれはかへり給ぬあはれなる人

遠美川累可那加ゝ連者古濃春幾物止毛閑ゝ流安利幾越乃三
をみつるかなかゝれはこのすき物ともかゝるありきをのみ

志帝与久佐累末之幾人遠毛見徒久流成介利多万佐可
してよくさるましき人をも見つくる成けりたまさか

尓多知以徒累多仁可久思乃本加奈留己止越美留与登於可
にたちいつるたにかく思のほかなることをみるよとおか

之宇於毛本須左天毛以止宇川久之可利川留知己可那奈仁
しうおもほすさてもいとうつくしかりつるちこかなに

人奈良舞加乃人農御加者利尓阿希久礼乃奈久佐女尓
人ならむかの人の御かはりにあけくれのなくさめに

毛見者也止於毛不心布可宇徒幾奴宇知婦之給遍留尓
も見はやとおもふ心ふかうつきぬうちふし給へるに

楚宇川乃御天之古礼三徒遠与比以帝佐春保止奈幾所
そうつの御てしこれみつをよひいてさすほとなき所

【若紫】23

奈礼者幾見毛屋可天幾ゝ給与起里於者之満之希累与之
なれはきみもやかてきゝ給よきりおはしましけるよし

多ゝ以万奈無人申春仁於止呂幾奈可良佐布良婦部幾越
たゝいまなむ人申すにおとろきなからさふらふへきを

奈仁可之此寺仁古毛利侍止者志路之免之奈可良志乃者
なにかし此寺にこもり侍とはしろしめしなからしのは

勢給遍累遠宇礼者之久思給部天奈無草乃御武之路
せ給へるをうれはしく思給へてなむ草の御むしろ

毛古濃者宇仁己曽満宇希侍部遣礼以止本以奈幾事止申
もこのはうにこそまうけ侍へけれいとほいなき事と申

給遍利以奴留十与日乃程与利和良者也三仁王川良比侍遠
給へりいぬる十よ日の程よりわらはやみにわつらひ侍を

多比可左奈利天多遍可多宇波部連者人乃遠之部乃末ゝ仁尋
たひかさなりてたへかたうはへれは人のをしへのまゝに尋

以利侍川連止加也宇奈留人農志類之阿良者左奴止幾者
いり侍つれとかやうなる人のしるしあらはさぬときは

志多奈可流部幾毛多ゝ那累与里八以登於之宇思給部川ゝ
したなかるへきもたゝなるよりはいとおしう思給へつゝ

【若紫】24

美帝奈武以多宇忍侍川累以万曽那多尓毛止乃給遍利
みてなむいたう忍侍つるいまそなたにもとの給へり

春那者知僧都万以利給部利保宇之奈礼止以登心者川
すなはち僧都まいり給へりほうしなれといと心はつ

加之久人可良毛也武古止那久与仁於毛者礼多末部留人
かしく人からもやむことなくよにおもはれたまへる人

奈礼者可流〳〵志幾御安利佐末越者之太奈宇於毛保寿
なれはかる〳〵しき御ありさまをはしたなうおもほす

閑久古毛連留本止乃御物可多里奈止幾古衣給帝於那之
かくこもれるほとの御物かたりなときこえ給ておなし

柴乃以本利奈連止須己之春ゝ之幾水農流毛御覧
柴のいほりなれとすこしすゝしき水の流も御覧

勢左世无止世地尓幾古衣給部者加乃末多三奴人〳〵尓古登〳〵
せさせんとせちにきこえ給へはかのまたみぬ人〳〵にこと〳〵

之宇以比幾可世徒累遠徒ゝ満之宇於保世登安者礼
しういひきかせつるをつゝましうおほせとあはれ

奈利川留安利左満毛以不可之宇天於者之奴希仁以止心
なりつるありさまもいふかしうておはしぬけにいと心

【若紫】25

古止仁与之安利天於那之木草遠毛宇遍奈之給遍利
ことによしありておなし木草をもうへなし給へり

月毛奈幾古呂奈礼者屋利水丹閑ゝ里火止本之登宇
月もなきころなれはやり水にかゝり火とほしとう

路奈止裳万以利多利美那三於毛天以止幾与希仁之
ろなともまいりたりみなみおもていときよけにし

徒良比給遍利曽良多幾物心尓久ゝ加保利以天名香乃
つらひ給へりそらたき物心にくゝかほりいて名香の

可奈止尓本比美知多流尓幾見乃御遠比風以登己止奈礼者
かなとにほひみちたるにきみの御をひ風いとことなれは

宇地農人〳〵毛心徒可比春遍可免利僧都世濃川祢奈幾
うちの人〳〵も心つかひすへかめり僧都世のつねなき

御物可多里後乃世乃事奈止幾古衣志良世給不王可徒三
御物かたり後の世の事なときこえしらせ給ふわかつみ

乃保止於曽呂之宇阿知幾奈幾古止仁心遠志女天以希留
のほとおそろしうあちきなきことに心をしめていける

加幾利古連遠於毛比奈也武部幾奈女利満之帝乃知乃世濃
かきりこれをおもひなやむへきなめりましてのちの世の

【若紫】26

以三之可流遍幾越於保之徒ゝ希天加也宇奈留須末井毛世満
いみしかるへきをおほしつゝけてかやうなるすまゐもせま

本之宇於保衣給毛乃可良飛累乃面影心耳可ゝ里天恋志
ほしうおほえ給ものからひるの面影心にかゝりて恋し

希礼者古ゝ尓毛能之給者多連尓可多川祢幾古衣満本之幾
けれはこゝにものし給はたれにかたつねきこえまほしき

由女遠見給之可那遣不奈武思阿者勢川累止幾己盈給部
ゆめを見給しかなけふなむ思あはせつるときこえ給へ

者宇知和良比帝宇地川希奈累御夢可多里尓曽侍奈流
はうちわらひてうちつけなる御夢かたりにそ侍なる

多川祢左勢給天毛御心遠止利世佐勢給奴部之故按察
たつねさせ給ても御心をとりせさせ給ぬへし故按察

大納言八世耳奈久天久之久奈利侍奴連者盈志呂之
大納言は世になくて久しくなり侍ぬれはえしろし

女左之閑之曽濃北乃可多奈武奈尓可之可以毛宇登耳
めさしかしその北のかたなむなにかしかいもうとに

侍可濃安世地可久連天乃知世遠曽武幾天侍可古乃古呂
侍かのあせちかくれてのち世をそむきて侍かこのころ

【若紫】27

王徒良婦己止侍丹与利天京尓毛満可天祢者多乃毛之所尓
わつらふこと侍によりて京にもまかてねはたのもし所に

古毛利天毛能之侍也止幾古衣給可濃大納言乃御武春免
こもりてものし侍也ときこえ給かの大納言の御むすめ

毛能之給不止幾ゝ給之盤春起〳〵之幾可多尓阿良天満
ものし給ふときゝ給しはすき〳〵しきかたにあらてま

女也可尓幾己由留奈利止遠之安天仁乃給部八武春免堂ゝ
めやかにきこゆるなりとをしあてにの給へはむすめたゝ

悲止利侍之宇世天此十与年尓也奈利侍奴良无故大納言
ひとり侍しうせて此十よ年にやなり侍ぬらん故大納言

宇地尓多天末川良武止閑之古宇以川幾侍之遠曽濃保以
うちにたてまつらむとかしこういつき侍しをそのほい

乃己止久毛ゝ能之侍良天春幾侍尓之加者多ゝ古濃安万君
のことくもゝのし侍らてすき侍にしかはたゝこのあま君

比止利毛天安川可比侍之保止尓以可奈流人農志和左尓可兵部
ひとりもてあつかひ侍しほとにいかなる人のしわさにか兵部

卿宮奈武志乃比帝加多良比川幾給部利希流遠毛止能北農
卿宮なむしのひてかたらひつき給へりけるをもとの北の

【若紫】28

可多屋己止奈久奈止之天也春可良奴事於保久天安希久礼
かたやことなくなとしてやすからぬ事おほくてあけくれ

毛乃越於毛比天奈無奈久成侍尓之物思日尓屋末比徒
ものをおもひてなむなく成侍にし物思ひにやまひつ

久毛能止免尓知可久見給遍之奈止申給佐良者曽乃子
くものとめにちかく見給へしなと申給さらはその子

成介利止於毛保之阿者世給徒美己乃御春知尓天加乃人
成けりとおもほしあはせ給つみこの御すちにてかの人

尓毛加与比幾古衣多流尓也止以止ゝ阿者礼耳美万保之人
にもかよひきこえたるにやといとゝあはれにみまほし人

濃本止毛阿天尓於可之宇中〳〵乃左可志良心奈久宇知
のほともあてにおかしう中〳〵のさかしら心なくうち

加多良比天心乃末ゝ仁遠之遍於保之多天ゝ見者也止於毛
かたらひて心のまゝにをしへおほしたてゝ見はやとおも

保春以止阿者礼耳毛能之給古止可那曽礼盤止ゝ免多末不
ほすいとあはれにものし給ことかなそれはとゝめたまふ

閑多見毛奈幾可止於左那可利川留由久恵乃猶多之可仁
かたみもなきかとおさなかりつるゆくゑの猶たしかに

【若紫】29

志良満本之久天止比多末遍者奈久奈利侍之保止耳
しらまほしくてとひたまへはなくなり侍しほとに

古曽侍之可曽礼毛女尓天曽礼尓川計帝物思農毛与
こそ侍しかそれも女にてそれにつけて物思のもよ

保之尓奈武与者比乃春恵丹思給部奈計幾侍女流止幾古衣
ほしになむよはひのすゑに思給へなけき侍めるときこえ

給左連波与止於保左流安也之幾事奈礼止於佐奈幾御
給されはよとおほさるあやしき事なれとおさなき御

宇之路美尓於毛本春遍久幾古衣給天无也思心安利天
うしろみにおもほすへくきこえ給てんや思心ありて

由幾可ゝ徒良婦方裳侍奈可良世丹心乃志末奴尓也阿良无
ゆきかゝつらふ方も侍なから世に心のしまぬにやあらん

悲止利春見尓天乃三奈無満多尓計奈幾保止ゝ川祢乃人
ひとりすみにてのみなむまたにけなきほとゝつねの人

尓於毛保之奈須良遍天者之太奈久也奈止乃給部者以登
におもほしなすらへてはしたなくやなとの給へはいと

宇礼之可流部幾於本世己止奈留越末多武希仁以者希奈幾
うれしかるへきおほせことなるをまたむけにいはけなき

【若紫】30

保止尓侍連者太者不連尓天毛御覧之可多久也曽毛〳〵女
ほとに侍れはたはふれにても御覧しかたくやそも〳〵女

盤人尓毛天奈左礼天於止那尓毛奈利給毛乃奈礼者久者之
は人にもてなされておとなにもなり給ものなれはくはし

倶盤盈止利申左須可濃遠者仁可多良比侍利天幾古衣佐
くはえとり申さすかのをはにかたらひ侍りてきこえさ

世武止寸久与可仁以比帝物古者幾左満之給遍連者和可幾
せむとすくよかにいひて物こはきさまし給へれはわかき

御心丹者川可之久天盈与久裳幾古衣給者須阿弥陀
御心にはつかしくてえよくもきこえ給はす阿弥陀

本止希物之給堂尓春流己止侍己呂丹奈武曽也以末多徒止女
ほとけ物し給堂にすること侍ころになむそやいまたつとめ

侍良須春久之天左婦良者无止天乃本利給奴君盤心地毛
侍らすすくしてさふらはんとてのほり給ぬ君は心地も

以登奈也末之幾尓雨春己之宇知曽ゝ幾山可世比屋ゝ可仁
いとなやましきに雨すこしうちそゝき山かせひやゝかに

布幾多流尓瀧農与止見毛満左里天遠止太可宇幾己
ふきたるに瀧のよとみもまさりてをとたかうきこ

【若紫】31

遊春己之祢布多希那累止幾也宇乃声多衣〳〵幾己由留
ゆすこしねふたけなるときやうの声たえ〳〵きこゆる
奈止寸ゝ呂奈累人毛所可良物安者礼奈利満之帝於毛
なとすゝろなる人も所から物あはれなりましておも
保之女久良須己止於保久天末止呂満連給者須初夜登
ほしめくらすことおほくてまとろまれ給はす初夜と
以比志可止毛夜毛以多宇婦希丹介利宇知尓毛人農祢怒
いひしかとも夜もいたうふけにけりうちにも人のねぬ
希者比之累久天以止忍多礼止春ゝ濃気宇曽久仁飛支
けはひしるくていと忍たれとすゝのけうそくにひき
奈良佐累ゝ遠止本濃幾古衣奈川可之宇ゝ地曽与女久遠止
ならさるゝをとほのきこえなつかしうゝちそよめくをと
奈比安天者可奈利登幾ゝ給天保止毛那久知可遣礼者止仁
なひあてはかなりときゝ給てほともなくちかけれはとに
多天和多之多流比也宇婦農中越春己之比幾安計帝扇
たてわたしたるひやうふの中をすこしひきあけて扇
遠奈良之給部者於保衣奈幾心知春部可女礼止幾ゝ之良怒
をならし給へはおほえなき心ちすへかめれときゝしらぬ

【若紫】32

屋宇尓也止天井左里以徒累人安奈利須己之志曽幾天
やうにやとてゐさりいつる人あなりすこししそきて
安也之飛可美ゝ尓也止多止留遠幾ゝ給帝仏乃御志累部者久良
あやしひかみゝにやとたとるをきゝ給て仏の御しるへはくら
幾丹入天毛佐良尓多可不末之可奈累毛能遠止乃給御
きに入てもさらにたかふましかなるものをとの給御
声乃以止和可宇阿帝奈留尓宇知以天无古者徒可比毛者川可
声のいとわかうあてなるにうちいてんこはつかひもはつか
志遣礼止以可奈流可多濃御志流部尓可者於保川可那久登幾己遊
しけれといかなるかたの御しるへにかはおほつかなくときこゆ
希仁宇知川計奈利止於保女幾給者无裳古止者里奈礼止
けにうちつけなりとおほめき給はんもことはりなれと
者川草能王可葉乃宇部遠三川累与利旅祢乃袖毛
はつ草のわか葉のうへをみつるより旅ねの袖も
露曽加者可怒止幾古衣給比天无屋止乃給不佐良丹加屋宇
露そかはかぬときこえ給ひてんやとの給ふさらにかやう
濃御世宇楚己宇計給王久部幾人毛物之給者奴佐末波
の御せうそこうけ給わくへき人も物し給はぬさまは

【若紫】33

志呂之女之多利希奈留越堂礼尓加者登幾己遊遠乃
しろしめしたりけなるをたれにかはときこゆをの
徒可良左流也宇阿利帝幾古由累奈良武止思奈之給部可
つからさるやうありてきこゆるならむと思なし給へか
之止乃給部者以利天幾古遊安那以万女可之古濃幾見也
しとの給へはいりてきこゆあないまめかしこのきみや
与川比多留保止尓於者寸累止楚於本春良無左類尓天八
よつひたるほとにおはするとそおほすらむさるにては
閑乃若草遠以可天幾以給遍留事曽登佐万〳〵安也志
かの若草をいかてきい給へる事そとさま〳〵あやし
幾仁心美多礼天比左之宇奈礼者奈左遣那之止天
きに心みたれてひさしうなれはなさけなしとて
満久良由不古与比者可里乃露希左越美山農苔耳
まくらゆふこよひはかりの露けさをみ山の苔に
久良遍佐良奈武比可多宇侍毛能遠止幾古衣給可也宇能
くらへさらなむひかたう侍ものをときこえ給かやうの
徒帝奈留御世宇楚古者満多左良仁幾古衣之良須奈良者奴
つてなる御せうそこはまたさらにきこえしらすならはぬ

【若紫】34

古止尓奈無加多之希那久止毛可ゝ流徒井帝仁末女〳〵之
ことになむかたしけなくともかゝるつゐてにまめ〳〵し
久幾古衣佐春部支事奈止幾古衣給部連者安万幾見
くきこえさすへき事なときこえ給へれはあまきみ
比可古止幾ゝ給遍累奈良武以止者川可之幾御希者比丹
ひかこときゝ給へるならむいとはつかしき御けはひに
奈尓己止越可者以良遍幾己衣无止乃給部者ゝ之太奈宇毛
なにことをかはいらへきこえんとの給へはゝしたなうも
己曽於保世登人〳〵幾古遊希仁王可屋可奈留人古曽宇多
こそおほせと人〳〵きこゆけにわかやかなる人こそうた
天毛阿良免末女也可丹乃給可多之遣那之止天井左里与利
てもあらめまめやかにの給かたしけなしとてゐさりより
多万遍利宇地川希尓安左者可那利止御覧世良礼奴部幾
たまへりうちつけにあさはかなりと御覧せられぬへき
川為天奈礼止心尓者左毛於保衣侍良祢八仏盤遠乃徒可良
つゐてなれと心にはさもおほえ侍らねは仏はをのつから
止天於止那〳〵之宇者川可之希奈流尓徒ゝ満連天止見尓毛
とておとな〳〵しうはつかしけなるにつゝまれてとみにも

【若紫】35

盈宇知以天給者須希仁思給与利加多幾徒井帝仁可久末天
えうちいて給はすけに思給よりかたきつゐてにかくまて
乃給者世幾古衣佐春流毛以可ゝ登乃給布阿者礼尓宇希給者留
の給はせきこえさするもいかゝとの給ふあはれにうけ給はる
御安利左末遠可濃春起給丹遣无御可者利尓於保之奈以
御ありさまをかのすき給にけん御かはりにおほしない
天无也以不可比奈幾保止乃与者比尓天武徒末之可留部幾
てんやいふかひなきほとのよはひにてむつましかるへき
人尓毛多知遠久礼侍尓介礼者阿也之宇宇起多累也宇尓天
人にもたちをくれ侍にけれはあやしううきたるやうにて
止之月越己曽加左祢侍連於那之左満丹毛能之給奈留越多久
とし月をこそかさね侍れおなしさまにものし給なるをたく
比尓奈佐世給遍止以登幾古衣満本之幾遠可ゝ流於利侍閑多久
ひになさせ給へといときこえまほしきをかゝるおり侍かたく
天奈武於保左連无所遠毛者ゝ加良須宇知以天侍奴留止幾己
てなむおほされん所をもはゝからすうちいて侍ぬるときこ
衣給部者以止宇礼之宇思日給奴部幾御己止那可良毛幾古之
え給へはいとうれしう思ひ給ぬへき御ことなからもきこし

【若紫】36

免之比可女多流己止奈止也侍良舞止徒ゝ末之宇奈武安也
めしひかめたることなとや侍らむとつゝましうなむあや
志幾身悲止川遠多能毛之人丹春流人奈無侍連止以登
しき身ひとつをたのもし人にする人なむ侍れといと
末多以婦可比奈幾保止尓天御覧之由留佐累ゝ方毛侍利可多
またいふかひなきほとにて御覧しゆるさるゝ方も侍りかた
介那連者盈奈武宇希給止ゝ女良礼左利希流止乃給三那
けなれはえなむうけ給とゝめられさりけるとの給みな
於保川可那可良須宇希太万者流毛乃越所世宇於本之波ゝ可良
おほつかなからすうけたまはるものを所せうおほしはゝから
天思給部与留左満己止奈類心乃本止越御覧世与登幾古衣給部止
て思給へよるさまことなる心のほとを御覧せよときこえ給へと
以止尓希奈幾己止越左裳之良天乃給止於毛保之帝心止計
いとにけなきことをさもしらての給とおもほして心とけ
多累御以良遍毛那之曽宇川於八之奴礼者与之加宇幾古衣
たる御いらへもなしそうつおはしぬれはよしかうきこえ
曽女侍利奴連者以登太乃毛之宇奈无止天遠之多天給徒
そめ侍りぬれはいとたのもしうなんとてをしたて給つ

【若紫】37

阿可川幾可多仁成丹遣礼者法花三昧於己奈不堂乃世无保宇
あかつきかたに成にけれは法花三昧おこなふ堂のせんほう

乃声山於呂之尓徒幾天幾古衣久流以止太宇止久瀧乃遠止丹
の声山おろしにつきてきこえくるいとたうとく瀧のをとに

飛ゝ幾安比多里
ひゝきあひたり

婦支末与不深山遠呂之尓由女佐女天涙毛与保春多起乃
ふきまよふ深山をろしにゆめさめて涙もよほすたきの

遠止可那
をとかな

佐之久見耳袖奴良之希流山水丹寸女流心盤佐者幾
さしくみに袖ぬらしける山水にすめる心はさはき

屋者寸累美ゝ奈礼侍利尓介利屋止幾古衣給安計由久空八
やはするみゝなれ侍りにけりやときこえ給あけゆく空は

以止以多宇加春見帝山乃鳥止毛曽己者可登奈久佐衣徒利
いといたうかすみて山の鳥ともそこはかとなくさえつり

安比多利名毛志良奴木草乃者那止毛色〳〵知利満之里
あひたり名もしらぬ木草のはなとも色〳〵ちりましり

【若紫】38

丹之幾越志希流止見由留耳鹿農多ゝ春見安利倶裳
にしきをしけると見ゆるに鹿のたゝすみありくも

女川良之宇見給丹奈也末之佐毛満幾礼者天奴比志利宇
めつらしう見給になやましさもまきれはてぬひしりう

古幾毛盈世祢止登可宇之天己之武万以良勢給可連多流声
こきもえせねととかうしてこしむまいらせ給かれたる声

乃以止以多宇春起飛可女流毛阿者礼丹久宇徒幾天多良仁
のいといたうすきひかめるもあはれにくうつきてたらに

与見多利御武可遍乃人〳〵万以利天於己多利給遍留与呂己比
よみたり御むかへの人〳〵まいりておこたり給へるよろこひ

幾己衣宇知与利毛御徒可比安利僧都美衣奴左満農御久多
きこえうちよりも御つかひあり僧都みえぬさまの御くた

物奈仁久礼止多尓乃底末天本利以天ゝ以止奈見幾古衣給不
物なにくれとたにの底まてほりいてゝいとなみきこえ給ふ

古止之者可里乃知可比布可宇侍利帝御遠久里尓毛衣満
ことしはかりのちかひふかう侍りて御をくりにもえま

以利侍末之幾己止中〳〵尓毛思給部良流部幾可那止乃給
いり侍ましきこと中〳〵にも思給へらるへきかなとの給

【若紫】39

天於保三幾万以利給山水丹心止末里侍奴礼止内与利於本
ておほみきまいり給山水に心とまり侍ぬれと内よりおほ

徒可奈可良勢給遍流毛加之古介礼者奈武以万古乃花農於
つかなからせ給へるもかしこけれはなむいまこの花のお

里寸久佐春満以利己无
りすくさすまいりこん

宮人耳遊幾天加多良武山左久良風与利左起耳
宮人にゆきてかたらむ山さくら風よりさきに

幾天毛美留遍久止乃給不御毛天那之古者徒可比左部女毛安也
きてもみるへくとの給ふ御もてなしこはつかひさへめもあや

奈流耳
なるに

宇止無希濃花末知衣多流心知之天深山左久良人女
うとむけの花まちえたる心ちして深山さくらにめ

古曽宇川良祢止幾古衣給部者保ゝ衣見帝時安利天悲止多比
こそうつらねときこえ給へはほゝえみて時ありてひとたひ

飛良久奈流八加多可奈累物遠止乃給不比之里御加者良遣給者利天
ひらくなるはかたかなる物をとの給ふひしり御かはらけ給はりて

【若紫】40

於久山農松乃戸保曽遠満連丹安計帝末多三奴花
おく山の松のとほそをまれにあけてまたみぬ花

乃閑本越美留可那止宇知奈幾天見多天末川累聖御満毛利
のかほをみるかなとうちなきて見たてまつる聖御まもり

丹止己多天万徒留見多末比天僧都志也宇止久太子乃久
にとこたてまつる見たまひて僧都しやうとく太子のく

多良与里盈給遍利希留金剛子能春ゝ濃玉乃佐宇曽久
たらよりえ給へりける金剛子のすゝの玉のさうそく

志多流屋可天曽濃国与利入多留者己乃可良女比多留越春幾多留
したるやかてその国より入たるはこのからめひたるをすきたる

布久路尓以連天五葉乃衣多尓徒希天古武瑠璃乃徒本止毛
ふくろにいれて五葉のえたにつけてこむ瑠璃のつほとも

耳御薬止毛入帝藤佐久良奈止仁川希天所尓徒希多流御
に御薬とも入て藤さくらなとにつけて所につけたる御

遠久利物止毛佐ゝ希多天万徒利給不君飛之里与利
をくり物ともさゝけたてまつり給ふ君ひしりより

者之免読経之徒累法師乃布世満宇計乃毛能止毛
はしめ読経しつる法師のふせまうけのものとも

【若紫】41

佐万〳〵尓止利仁川可者之多利遣礼者曽濃王多里乃
さま〳〵にとりにつかはしたりけれはそのわたりの

山可川末天左流部幾物止毛給比春幾也宇奈止志帝以天
山かつまてさるへき物とも給ひすきやうなとしていて

給宇地尓僧都以利給天加乃幾古衣給之事末祢比
給うちに僧都いり給てかのきこえ給し事まねひ

幾古衣給部止登毛加久毛多ゝ以末波幾古衣无可多那之毛
きこえ給へとともかくもたゝいまはきこえんかたなしも

之御心左之阿良者以万四五年遠春久之天古曽盤
し御心さしあらはいま四五年をすくしてこそは

止毛加宇毛登乃給部者左奈無止於那之左満丹能三阿留遠
ともかうもとの給へはさなむとおなしさまにのみあるを

保以奈之止於毛本春御世宇楚己僧都乃毛止奈留知以
ほいなしとおもほす御せうそこ僧都のもとなるちい

左幾和良者之天
さきわらはして

由不万久礼本乃可尓者那農色遠見帝希左八霞
ゆふまくれほのかにはなの色を見てけさは霞

【若紫】42

乃多知曽王徒良婦御可遍之
のたちそわつらふ御かへし

満古止尓也者那農阿多利八多知宇幾止加春武留空
まことにやはなのあたりはたちうきとかすむる空

濃希之幾遠毛三无登与之阿留天乃以止阿天奈留遠
のけしきをもみんとよしあるてのいとあてなるを

宇知春天可比太末遍利御車尓多天末川累本止大殿
うちすてかひたまへり御車にたてまつるほと大殿

与利以徒知止毛那久天於者之満之尓介留事止天御武可部乃
よりいつちともなくておはしましにける事とて御むかへの

人〳〵幾武多知奈止阿末多万以利給部利頭中将左中
人〳〵きむたちなとあまたまいり給へり頭中将左中

弁佐良奴君達毛志多比幾古衣天加也宇能御止毛仁盤徒
弁さらぬ君達もしたひきこえてかやうの御ともにはつ

加宇末川利侍良武止思給不累遠阿左満之久遠久良加
かうまつり侍らむと思給ふるをあさましくをくらか

左勢給部累事止宇良見幾古衣天以止以見之幾花
させ給へる事とうらみきこえていといみしき花

【若紫】43

濃可希尓志者之裳屋春良者須太知帰奈无八阿可奴王左那
のかけにしはしもやすらはすたち帰なんはあかぬわさな

止乃給不岩可久礼農苔能宇遍尓奈三井帝加者良希
との給ふ岩かくれの苔のうへになみゐてかはらけ

万以累於地久累水能左満奈止由遍阿累瀧乃毛登也
まいるおちくる水のさまなとゆへある瀧のもと也

頭中将布止古呂奈利希留布惠止利以天ゝ婦幾須末之多利
頭中将ふところなりけるふゑとりいてゝふきすましたり

弁能君安不幾者可那宇宇知奈良志帝止与宇良能寺乃西
弁の君あふきはかなううちならしてとようらの寺の西

奈留也止宇多婦人与利盤古止那累君多知奈留遠源氏乃
なるやとうたふ人よりはことなる君たちなるを源氏の

幾見以止以多宇ゝ地奈也見帝岩尓与里井給遍留八多久
きみいといたうゝちなやみて岩によりゐ給へるはたく

比奈久遊ゝ之幾御安利左満尓曽奈仁古止尓毛免宇川累満
ひなくゆゝしき御ありさまにそなにことにもめうつるま

志可利希留礼以乃飛知里幾布倶随身佐宇能布惠毛多
しかりけるれいのひちりきふく随身さうのふゑもた

【若紫】44

勢多累春幾物奈止安利曽宇川琴遠身徒可良毛天万以利
せたるすき物なとありそうつ琴をみつからもてまいり

帝古礼多ゝ御天悲止川阿曽者之天於那之宇者山乃止利裳
てこれたゝ御てひとつあそはしておなしうは山のとりも

於止呂可之侍良武止世地尓幾古衣給部者見多利心知以止多部
おとろかし侍らむとせちにきこえ給へはみたり心ちいとたへ

加多幾毛乃越止幾古衣太末遍止希尓久可良須閑幾奈良之
かたきものをときこえたまへとけにくからすかきならし

天三那多知給奴阿可須久知於之止以婦可比奈幾法師王良
てみなたち給ぬあかすくちおしといふかひなき法師わら

波部毛涙遠於止之安部利満之帝宇知尓盤老多留阿万君
はへも涙をおとしあへりましてうちには老たるあま君

多知奈止満多更尓可ゝ留人農御阿利左末越見左里川礼者
たちなとまた更にかゝる人の御ありさまを見さりつれは

此世農毛能止毛於保衣給者寸止幾己盈安遍利僧都毛
此世のものともおほえ給はすときこえあへり僧都も

阿者礼奈尓乃契尓天加ゝ流御左満奈可良以止武徒可之幾
あはれなにの契にてかゝる御さまなからいとむつかしき

【若紫】45

日本濃春恵乃世尓武末礼給徒良无止美留丹以止奈无可那之
日本のすゑの世にむまれ給つらんとみるにいとなんかなし

幾止天女越之乃己比給不此王可幾見遠左那心知仁女天
きとてめをしのこひ給ふ此わかきみをさな心ちにめて

多幾人可那止見給帝宮農御安利左満与利毛末左里給
たき人かなと見給て宮の御ありさまよりもまさり給

遍累可那奈止乃給不左良八加乃人農御子尓奈利天於者之
へるかななとの給ふさらはかの人の御子になりておはし

満世与止幾己由連者宇知宇那川幾天以止与宇阿利奈无登
ませよときこゆれはうちうなつきていとようありなんと

於毛保之多利比為那安曽比尓毛恵可比給不尓毛源氏乃君止
おもほしたりひゐなあそひにもゑかひ給ふにも源氏の君と

徒久利以天ゝ幾与良奈留幾奴幾世閑之徒幾給幾見八
つくりいてゝきよらなるきぬきせかしつき給きみは

末川内尓万以利給帝日己呂農御物可多里奈止幾古衣給
まつ内にまいり給て日ころの御物かたりなときこえ給

以登以多宇於止呂遍仁介利止天遊ゝ之止於保之免之多里
いといたうおとろへにけりとてゆゝしとおほしめしたり

【若紫】46

聖乃多宇登可利希留古止奈登止者勢給具者之久楚宇之
聖のたうとかりけることなととはせ給くはしくそうし

太末遍者阿闍梨奈止尓毛奈留部幾毛能尓古曽阿奈礼遠己
たまへは阿闍梨なとにもなるへきものにこそあなれをこ

奈比農良宇八徒毛里天大屋希仁志呂之女左礼左利介留
なひのらうはつもりて大やけにしろしめされさりける

事止多宇登可利乃給者世介利大殿万以利安比給帝御
事とたうとかりの給はせけり大殿まいりあひ給て御

武可遍尓毛登思給比川連止志乃比多留御阿利幾仁以可ゝ止
むかへにもと思給ひつれとしのひたる御ありきにいかゝと

思者ゝ加利天奈武乃止也可尓一二日宇知屋春見給部止天屋
思はゝかりてなむのとやかに一二日うちやすみ給へとてや

可天御遠久利徒可宇末川良无止申給部者左之裳於保左袮止
かて御をくりつかうまつらんと申給へはさしもおほさねと

飛可佐連天満可天給不王可御車尓乃世多天万徒利給天
ひかされてまかて給ふわか御車にのせたてまつり給て

見徒可良八比幾以利天多天末川連利毛天可之川幾幾古衣
みつからはひきいりてたてまつれりもてかしつききこえ

【若紫】47

太万遍累御心波部乃阿者礼奈留越曽佐春可仁心久累之宇
たまへる御心はへのあはれなるをそさすかに心くるしう

於毛保之希留殿尓毛於者之満春良武止心徒可比之給天
おもほしける殿にもおはしますらむと心つかひし給て

久之宇見給者奴本止尓以止ゝ玉濃宇天奈仁美可幾之
久しう見給はぬほとにいとゝ玉のうてなにみかきし

徒良比与呂川遠止ゝ能遍給部利女君連以乃者比閑久礼
つらひよろつをとゝのへ給へり女君れいのはひかくれ

帝止見尓毛以帝給者奴遠於止ゝ世知尓幾古衣給帝加良宇
てとみにもいて給はぬをおとゝせちにきこえ給てからう

之天和多里給遍利堂ゝ恵尓可幾多累毛能ゝ姫君農
してわたり給へりたゝゑにかきたるものゝ姫君の

也宇仁志春部良礼天宇知美之路幾給不事毛加多久宇
やうにしすへられてうちみしろき給ふ事もかたくう

流者之宇天毛能之給部者思不己止毛宇知加春女山美知乃
るはしうてものし給へは思ふこともうちかすめ山みちの

物可多里遠毛幾己衣无以婦可比安利帝於可之宇地以良
物かたりをもきこえんいふかひありておかしうちいら

【若紫】48

遍給者ゝ己曽阿者礼奈良免与仁盤心毛止希須宇止久
へ給はゝこそあはれならめよには心もとけすうとく

者川可之幾毛能尓於毛本之帝止之濃可左奈流尓曽部天御
はつかしきものにおもほしてとしのかさなるにそへて御

古ゝ呂乃部多天毛満左流遠以止具類之久於毛者須尓時〳〵盤
こゝろのへたてもまさるをいとくるしくおもはすに時〳〵は

世濃川袮奈累御希之幾越見者也多遍閑多宇和川良比侍
世のつねなる御けしきを見はやたへかたうわつらひ侍

之遠毛以可ゝ登多仁止不良比給者奴己曽免徒良之可良奴
しをもいかゝとたにとふらひ給はぬこそめつらしからぬ

事奈礼止奈越宇良女之宇登幾古衣給不加良宇之帝
事なれとなをうらめしうときこえ給ふからうして

止者怒盤川良幾物尓也阿良无止志利女仁見遠古世給部留
とはぬはつらき物にやあらんとしりめに見をこせ給へる

末見以止者川可之希仁遣多可宇宇川久之希奈留御可多知也
まみいとはつかしけにけたかううつくしけなる御かたち也

満連〳〵盤阿左末之能御己止也止者奴奈止以婦幾者ゝ古止尓
まれ〳〵はあさましの御ことやとはぬなといふきはゝことに

【若紫】49

古曽侍奈連心宇久裳乃給奈須可奈世止ゝ毛仁者之太
こそ侍なれ心うくもの給なすかな世とゝもにはした

奈幾御毛天奈之遠毛之於毛保之奈越累於利毛也登
なき御もてなしをもしおもほしなをるおりもやと

止佐万加宇左満尓古ゝ路三幾己由留遠以止ゝ於毛本之宇止
とさまかうさまにこゝろみきこゆるをいとゝおもほしうと

武奈女流可之与之也以乃知多仁止天与流乃於満之尓以利
むなめるかしよしやいのちたにとてよるのおましにいり

給奴女君布止裳以利給者須幾古衣王徒良飛給天
給ぬ女君ふともいり給はすきこえわつらひ給て

宇地奈介幾天婦之給遍留毛奈満心徒幾奈幾尓也阿良
うちなけきてふし給へるもなま心つきなきにやあら

無祢布多希仁毛天那之帝止可宇世遠於毛本之美多留ゝ
むねふたけにもてなしてとかう世をおもほしみたるゝ

古止於保可利己濃若草能於比以天无本止乃奈越遊可之
ことおほかりこの若草のおひいてんほとのなをゆかし

幾越尓遣奈幾保止ゝ於毛遍利之毛己止者里曽可之
きをにけなきほとゝおもへりしもことはりそかし

【若紫】50

以比与利加多幾古止尓毛阿累可那以可尓加末遍天多ゝ心
いひよりかたきことにもあるかないかにかまへてたゝ心

屋春久武可部止里天阿希久礼農奈久佐女仁三无兵部卿
やすくむかへとりてあけくれのなくさめにみん兵部卿

宮盤以登安帝仁奈万女比太末遍連止尓本比也可丹奈止毛
宮はいとあてになまめひたまへれとにほひやかになとも

阿良怒遠以可天加乃一曽宇仁於保衣給徒良无悲止川后者良
あらぬをいかてかの一そうにおほえ給つらんひとつ后はら

奈礼者尓也奈止於毛本春由可里以止武徒末之幾仁以可天
なれはにやなとおもほすゆかりいとむつましきにいかて

可登布可宇於毛保遊又乃日御不三多天末川利給遍利
かとふかうおもほゆ又の日御ふみたてまつり給へり

僧都尓毛保乃免可之給偏之安万宇遍尓者毛天波
僧都にもほのめかし給へしあまうへにはもては

奈礼多里之御希之幾乃徒ゝ末之左仁思給不累佐万
なれたりし御けしきのつゝましさに思給ふるさま

遠毛衣阿良者之波天侍良須成尓之遠奈武加者可里
をもえあらはしはて侍らす成にしをなむかはかり

【若紫】51

幾己由留尓天毛遠之奈遍多良奴心左之濃本止越御
きこゆるにてもをしなへたらぬ心さしのほとを御

覧之志良者以可尓宇礼之宇奈止阿利中尓知以左久
覧ししらはいかにうれしうなとあり中にちいさく

比幾武春比帝
ひきむすひて

面影盤身遠毛者那連春山左久良心農加幾利
面影は身をもはなれす山さくら心のかきり

止女天己之加止夜農万毛風毛宇之路女多久奈止阿利
とめてこしかと夜のまも風もうしろめたくなとあり

御天奈止波左流毛乃尓帝多ゝ者可那久遠之徒ゝ見給
御てなとはさるものにてたゝはかなくをしつゝ見給

遍累左満毛佐多春幾多累御女止毛尓者免毛安也尓
へるさまもさたすきたる御めともにはめもあやに

古乃末之宇美由阿奈可多者良以多也以可ゝ幾己衣无止
このましうみゆあなかたはらいたやいかゝきこえんと

於毛保之王徒良婦由久天乃御己止八奈越左里尓毛思
おもほしわつらふゆくての御ことはなをさりにも思

【若紫】52

給部奈左礼之遠布利波部左勢給遍累尓幾古衣佐世无方
給へなされしをふりはへさせ給へるにきこえさせん方

奈久奈武末多難波津遠多仁者可〳〵之具川ゝ遣流
なくなむまた難波津をたにはか〳〵しくつゝける

良佐女礼者可比奈久奈无左天毛
らさめれはかひなくなんさても

阿良之吹於乃遍乃左久良知良奴末越心止女希留
あらし吹おのへのさくらちらぬまを心とめける

本止濃者可那左以止ゝ宇之路女多宇登安利僧都農
ほとのはかなさいとゝうしろめたうとあり僧都の

御返毛於那之左満奈礼者久地於之倶天二三日阿利天
御返もおなしさまなれはくちおしくて二三日ありて

古連三川遠曽多天末川連給不少納言乃女乃止ゝ以布
これみつをそたてまつれ給ふ少納言のめのとゝいふ

安流遍之多川祢帝具者之久加多良遍奈止乃給
あるへしたつねてくはしくかたらへなとの給

志良須左毛加ゝ良奴久万奈幾御心可奈左者可里以者
しらすさもかゝらぬくまなき御心かなさはかりいは

【若紫】53

希奈世奈里之計者比遠止末本奈良祢止毛美之程
けなせなりしけはひをとまほならねともみし程

遠思屋累毛於可之和左止加宇御布三阿留遠僧都毛
を思やるもおかしわさとかう御ふみあるを僧都も

可之古末里幾古衣給少納言尓勢宇曽己之天阿比
かしこまりきこえ給小納言にせうそこしてあひ

多利久者之倶於毛保之乃給左満於保可多能御阿利左
たりくはしくおもほしの給さまおほかたの御ありさ

万奈登可多累己止葉於保可留人尓天徒幾〳〵志宇以比
まなとかたること葉おほかる人にてつき〳〵しういひ

徒ゝ久礼止以止王利奈幾御本止越以可尓於毛保春尓可遊ゝ
つゝくれといとわりなき御ほとをいかにおもほすにかゆゝ

之宇奈無太連毛〳〵於本之希留御不三尓毛以止祢武比
しうなむたれも〳〵おほしける御ふみにもいとねむ比

丹加比給帝礼以農中尓加乃御者那知可幾奈无奈越見
にかひ給てれいの中にかの御はなちかきなんなを見

給万保之幾止天
給まほしきとて

【若紫】54

阿左可也万安左久毛人遠思者怒尓奈止山乃井乃
あさかやまあさくも人を思はぬになと山の井の

可計者那累良无御可遍之
かけはなるらん御かへし

久見曽免天具屋之止幾ゝ之也万能井乃安左
くみそめてくやしときゝしやまの井のあさ

幾奈可良也可希遠美春部幾己礼三川毛於那之己止遠幾
きなからやかけをみすへきこれみつもおなしことをき

古遊古乃王徒良比給己止与呂志久盤此己呂春久之天京
こゆこのわつらひ給ことよろしくは此ころすくして京

乃殿尓和多里給帝奈无幾古衣左寸部幾止阿累遠心
の殿にわたり給てなんきこえさすへきとあるを心

毛登奈宇於毛保春藤徒本乃宮奈也三給事安利天
もとなうおもほす藤つほの宮なやみ給事ありて

満可天給部利宇偏乃於保徒可奈可利奈希幾幾古衣給
まかて給へりうへのおほつかなかりなけききこえ給

御希之幾毛以止〳〵於之宇見多天末川利奈可良閑ゝ流
御けしきもいと〳〵おしう見たてまつりなからかゝる

【若紫】55

於利多仁止心毛阿久可礼末止比帝以徒久尓毛〳〵満宇天
おりたにと心もあくかれまとひていつくにも〳〵まうて

太万者須内尓天毛佐止尓天毛飛累盤川久〳〵登奈可女
たまはす内にてもさとにてもひるはつく〳〵となかめ

久良之帝暮連者王命婦遠世女安利幾給以可ゝ多者
くらして暮れは王命婦をせめありき給いかゝたは

加利介无以登王利那久帝見多天万川累程左部宇川ゝ止八
かりけんいとわりなくて見たてまつる程さへうつゝとは

於本衣奴曽和比之幾也宮毛阿左満之可里之遠於保之
おほえぬそわひしきや宮もあさましかりしをおほし

以徒累多尓与止ゝ毛能御物於毛飛奈留越左天多仁屋三那
いつるたによとゝもの御物おもひなるをさてたにやみな

武止婦可宇於保之多留尓以止心宇久天以三之幾御希之幾
むとふかうおほしたるにいと心うくていみしき御けしき

奈流毛能可良奈徒可之宇羅宇多希尓佐利止天宇地止遣
なるものからなつかしうらうたけにさりとてうちとけ

春心布可宇者川可之希那留御毛天那之奈止能奈越人尓
す心ふかうはつかしけなる御もてなしなとのなを人に

【若紫】56

似左世給者奴遠奈止可奈乃女那累己止多仁宇知満之里給
似させ給はぬをなとかなのめなることたにうちましり給

盤佐利遣无止徒良宇佐部曽於保左流ゝ奈仁己止遠閑者
はさりけんとつらうさへそおほさるゝなにことをかは

幾古依徒久之給者无久良婦乃山尓屋止利毛止良満本之
きこえつくし給はんくらふの山にやとりもとらまほし

希奈礼止安也尓久奈留美之可夜尓天阿左満之宇中〳〵也
けなれとあやにくなるみしか夜にてあさましう中〳〵也

見天毛又安不夜末連奈留夢乃宇知尓屋可天満幾留ゝ
見ても又あふ夜まれなる夢のうちにやかてまきるゝ

王可身止毛可那止武世可遍良世給毛左須可尓以三之遣礼者
わか身ともかなとむせかへらせ給もさすかにいみしけれは

世可多里尓人也徒多遍舞多久比奈久宇起身遠
世かたりに人やつたへむたくひなくうき身を

佐女奴夢尓奈之天毛於毛保之美多連多留左満毛以登
さめぬ夢になしてもおもほしみたれたるさまもいと

古止者利尓可多之希那之命婦農君曽御奈越之奈止八
ことはりにかたしけなし命婦の君そ御なをしなとは

【若紫】57

加幾安川女毛天幾多留殿尓於者之天奈幾祢尓婦之久良之
かきあつめもてきたる殿におはしてなきねにふしくらし

給川御布三奈止毛礼以乃御覧之以連怒与之乃三阿
給つ御ふみなともれいの御覧しいれぬよしのみあ

礼者川祢乃己止奈可良毛徒良宇以三之久於毛保之本
れはつねのことなからもつらういみしくおもほしほ

連天内部毛万以良天二三日古毛利於者須連者又以可奈留
れて内へもまいらて二三日こもりおはすれは又いかなる

尓可止御心宇己可世給遍可女流毛於曽路之久乃三於本衣給
にかと御心うこかせ給へかめるもおそろしくのみおほえ給

宮毛登以止心宇幾身奈利介利止於毛保之奈計久耳
宮もといと心うき身なりけりとお毛ほしなけくに

奈也末之佐毛満左里給帝止久万以利給遍幾御徒可比之
なやましさもまさり給てとくまいり給へき御つかひし

幾礼止於毛保之毛多ゝ須万己止尓御心知連以乃屋宇丹毛
きれとおもほしもたゝすまことに御心ちれいのやうにも

於者之満左奴者以可奈累丹可止人之連須於保春古止毛安利
おはしまさぬはいかなるにかと人しれすおほすこともあり

【若紫】58

希礼者古ゝ呂宇久以可奈良无止乃三於毛保之見多留安川幾
けれはこゝろうくいかならんとのみおもほしみたるあつき

保止盤以止ゝ於幾毛阿可利給者須三月尓奈利給部者以止志
ほとはいとゝおきもあかり給はす三月になり給へはいとし

流幾保止尓天人〳〵三奉利止可武累毛阿左満之幾御春久
るきほとにて人〳〵み奉りとかむるもあさましき御すく

世濃本止心宇之人盤思与良怒己止奈礼者此月末天曽宇
せのほと心うし人は思よらぬことなれは此月まてそう

勢左世給者佐利計累事止於止呂幾幾己由和可御心
せさせ給はさりける事とおとろききこゆわか御心

日止川尓者志流宇於毛本之和久己止毛安利介利御遊殿
ひとつにはしるうおもほしわくこともありけり御ゆ殿

奈止仁毛志多之宇徒可宇末川里天奈仁事濃御希之幾越
なとにもしたしうつかうまつりてなに事の御けしきを

毛志累久見多天末川利志連累御免乃止古乃弁命婦
もしるく見たてまつりしれる御めのとこの弁命婦

奈止楚安也之止於毛遍止可多見尓以比安者須部幾仁安良祢者
なとそあやしとおもへとかたみにいひあはすへきにあらねは

【若紫】59

奈越乃可連加多閑利遣流御春久勢遠曽命婦盤阿左満
なをのかれかたかりける御すくせをそ命婦はあさま

志止思不内尓者御物農希乃末幾礼尓天止見尓希之幾奈久
しと思ふ内には御物のけのまきれにてとみにけしきなく

於者之満之遣留程尓止曽楚宇之介无可之美那人毛左能三
おはしましける程にとそそうしけんかしみな人もさのみ

思介利以止ゝ阿者礼尓加幾利奈宇於毛保左礼天御使奈止乃
思けりいとゝあはれにかきりなうおもほされて御使なとの

飛万那幾毛曽良於曽呂之宇物遠於毛保春事比末奈之
ひまなきもそらおそろしう物をおもほす事ひまなし

中将農君毛於止呂〳〵志宇佐万己止那累夢遠見給帝
中将の君もおとろ〳〵しうさまことなる夢を見給て

阿者春留毛乃越女之帝止者勢給部者遠与比奈宇於毛
あはするものをめしてとはせ給へはをよひなうおも

保之可希努春知乃古止遠阿者世介利曽濃中尓太可比女
ほしかけぬすちのことをあはせけりその中にたかひめ

安利帝徒ゝ志末世給部幾事奈无侍留止以婦尓王川良八
ありてつゝしませ給へき事なん侍るといふにわつらは

【若紫】60

志久於保衣天身徒可良濃夢尓者阿良累人農御己止遠可
しくおほえてみつからの夢にはあらる人の御ことをか

堂流奈利此夢安婦末天又人耳末祢布奈止乃給天心乃
たるなり此夢あふまて又人にまねふなとの給て心の

中尓盤以可那留事奈良無止於毛保之和多留尓古濃女宮
中にはいかなる事ならむとおもほしわたるにこの女宮

乃御事幾ゝ給天毛之佐累屋宇毛也止於裳保之阿
の御事きゝ給てもしさるやうもやとおもほしあ

者勢給丹以止ゝ志久以見之幾古止乃葉遠徒具之幾古衣
はせ給にいとゝしくいみしきことの葉をつくしきこえ

太末部止命婦毛思不耳以止武久徒希宇和川良者之佐
たまへと命婦も思ふにいとむくつけうわつらはしさ

満左利天更尓多者可流遍支可多那之者可那幾御悲止久多里
まさりて更にたはかるへきかたなしはかなき御ひとくたり

乃御返之能多万佐可成之毛多衣波帝丹多利七月耳
の御返しのたまさか成しもたえはてにたり七月に

奈利天曽満以利給介留女川良之久阿者礼尓天以止ゝ之支
なりてそまいり給けるめつらしくあはれにていとゝしき

【若紫】62

於保无思日濃本登加幾利那之春己之婦久良可仁奈利給天
おほん思ひのほとかきりなしすこしふくらかになり給て

宇地奈也三於毛也世給遍留波多希仁尓累物奈久女天多之連以
うちなやみおもやせ給へるはたけにこる物なくめてたしれい

乃明暮古那多丹能三於者之満之天御安曽比毛也宇〳〵於
の明暮こなたにのみおはしまして御あそひもやう〳〵お

閑之幾空奈礼者源氏乃君毛以止末那久免之末川八之
かしき空なれは源氏の君もいとまなくめしまつはし

川ゝ御古登笛奈止佐万〳〵尓津可不万川良世給不以三之宇
つゝ御こと笛なとさま〳〵につかふまつらせ給ふいみしう

徒ゝ見給遍止忍可多幾希之幾乃毛利以川累於利〳〵宮
つゝみ給へと忍かたきけしきのもりいつるおり〳〵宮

裳左寸可奈留事止毛遠於保久於毛本之津ゝ希ゝ里加乃
もさすかなる事ともをおほくおもほしつゝけゝりかの

山寺濃人盤与呂之宇成帝出給丹介利京濃御春見可
山寺の人はよろしう成て出給にけり京の御すみか

多川祢天時〳〵御世宇曽己奈登安利於那之左満丹乃三阿留
たつねて時〳〵御せうそこなとありおなしさまにのみある

【若紫】61

毛古止者利奈流宇知丹此月己呂盤阿里之尓万佐累毛乃
もことはりなるうちに此月ころはありしにまさるもの

思丹己止事奈久天春起由久秋農春恵徒可多以止物心本曽
思にこと事なくてすきゆく秋のすゑつかたいと物心ほそ

久帝奈計幾給月乃於可之幾夜忍多留止己呂丹加良宇
くてなけき給月のおかしき夜忍たるところにからう

志天思多知給遍累遠時雨女比天宇地曽ゝ倶於者寸留
して思たち給へるを時雨めひてうちそゝくおはする

所盤六條京極王多里尓天内与利奈連波春己之保止
所は六條京極わたりにて内よりなれはすこしほと

止越幾心知春流尓阿連多累家濃木多地以止物布利天
とをき心ちするにあれたる家の木たちいと物ふりて

古久良宇見衣多累安利礼以農御止毛仁者奈礼努惟
こくらう見えたるありれいの御ともにはなれぬ惟

光奈武故按察乃大納言能家尓侍り悲止比毛能ゝ太
光なむ故按察の大納言の家に侍りひとひものゝた

与利尓止不良比天侍之加者可能安末宇遍以多宇与八利
よりにとふらひて侍しかはかのあまうへいたうよはり

【若紫】63

給尓多礼者奈仁事毛於保衣寸止奈無申侍之止幾己遊
給にたれはなに事もおほえすとなむ申侍しときこゆ

礼者阿八礼乃己止也止不良婦遍可利介留遠奈止可佐奈无止毛
れはあはれのことやとふらふへかりけるをなとかさなんとも

能世左里之止乃給部者人以連帝安奈以世佐春和左止加宇
のせさりしとの給へは人いれてあないせさすわさとかう

多知与里給遍留事止以者勢多連八入帝加久御止不良
たちより給へる事といはせたれは入てかく御とふら

比尓奈武於八之満之多留登以婦尓於止呂幾天以止可多者良以
ひになむおはしましたるといふにおとろきていとかたはらい

多起己止可那此日己呂武遣仁以止太乃毛之遣奈久奈良勢
たきことかな此日ころむけにいとたのもしけなくならせ

給丹多礼八御多以女无奈止毛安流末之止以遍止毛返之多天
給にたれは御たいめんなともあるましといへとも返したて

万徒良武盤加之古之止天南乃比左之日幾徒久呂比天
まつらむはかしこしとて南のひさしひきつくろひて

以里多天末川累以止武津可之遣仁侍女礼止加之古末利遠
いりたてまつるいとむつかしけに侍れとかしこまりを

【若紫】64

堂尓止天奈武由久里奈宇物布可幾御末之所尓奈登幾
たにとてなむゆくりなう物ふかき御まし所になとき

古遊希仁可ゝ留止己呂盤礼以丹太可比天於保左留徒祢尓思給
こゆけにかゝるところはれいにたかひておほさるつねに思給

多地奈可良可比奈幾左満尓乃三毛天奈佐世給尓徒ゝ万礼
たちなからかひなきさまにのみもてなさせ給につゝまれ

侍天奈無奈也末勢給事遠毛久止毛宇希太万八良
侍てなむなやませ給事をもくともうけたまはら

左利計留於保川可奈佐止幾己衣給三多里心知以徒止毛奈久
さりけるおほつかなさときこえ給みたり心ちいつともなく

能三侍遠加幾利乃左末仁奈利侍帝以止可多之希那久多知
のみ侍をかきりのさまになり侍ていとかたしけなくたち

与良勢給遍累尓身徒可良幾古盈左世奴己止乃給者寸留
よらせ給へるにみつからきこえさせぬことの給はする

古止乃春地多万佐可尓毛於毛保之可者良奴屋宇侍良八可久
ことのすちたまさかにもおもほしかはらぬやう侍らはかく

王利那幾齢春幾侍利天加奈良須閑春末遍佐世給部以三
わりなき齢すき侍りてかならすかすまへさせ給へいみ

【若紫】65

志宇心本曽希仁見給部遠久奈武祢可比侍留道農保多之尓思
しう心ほそけに見給へをくなむねかひ侍る道のほたしに思

給部良礼努部幾奈止幾古衣給部利以止知可遣礼者心本曽希
給へられぬへきなときこえ給へりいとちかけれは心ほそけ

奈流御声多衣〳〵幾古衣天以登可多之希那幾和左尓毛侍哉
なる御声たえ〳〵きこえていとかたしけなきわさにも侍哉

此君多仁可之古末利毛幾己盈給川部支保止奈良満之
此君たにかしこまりもきこえ給つへきほとならまし

加者止乃給安者礼尓幾給帝奈仁可阿左宇思給部良无古止
かはとの給あはれにき給てなにかあさう思給へらんこと

由部可宇寸幾〳〵之幾左末越美衣多天末川良武以可奈留契
ゆへかうすき〳〵しきさまをみえたてまつらむいかなる契

尓可見多天末川里曽免之与利阿者礼尓思幾己由留毛安也
にか見たてまつりそめしよりあはれに思きこゆるもあや

志幾末天此世乃己止尓盤於保衣侍良奴奈登乃給天加比
しきまて此世のことにはおほえ侍らぬなとの給てかひ

奈幾心知能三之侍遠可乃以者希奈宇毛能之給御悲止
なき心ちのみし侍をかのいはけなうものし給御ひと

【若紫】66

己恵以可天止乃給遍者以天也与呂川於毛保之志良奴左満尓御
こゑいかてとの給へはいてやよろつおもほししらぬさまに御

止濃古毛利入天奈止幾己由留於利志毛阿奈太与利久流遠止
とのこもり入てなときこゆるおりしもあなたよりくるをと

之天宇遍己曽此寺仁安利之源氏乃君己曽於者之太奈礼
してうへこそ此寺にありし源氏の君こそおはしたなれ

奈止見給八奴止乃給不遠人〳〵以止可多八良以多之止思帝
なと見給はぬとの給ふを人〳〵いとかたはらいたしと思て

阿奈加末止幾己遊以左美之可者心知乃安之左奈久佐三幾止
あなかまときこゆいさみしかは心ちのあしさなくさみきと

乃給之可波曽加之止閑之古幾己止幾ゝ盈多利止於毛保
の給しかはそかしとかしこきこときゝえたりとおもほ

之帝乃給不以止於可之止幾ゝ給部止人〳〵乃久留之止思日
しての給ふいとおかしときゝ給へと人〳〵のくるしと思ひ

多礼八幾可怒屋宇尓天満女也可奈累御止不良遠幾古衣
たれはきかぬやうにてまめやかなる御とふらをきこえ

遠支給天可遍利給奴希仁以婦可比奈乃希者比也佐利
をき給てかへり給ぬけにいふかひなのけはひやさり

【若紫】67

止毛以登与久遠之部天无止於毛保春又乃日毛以止末女也可尓
ともいとよくをしへてんとおもほす又の日もいとまめやかに

止不良比幾古衣給不連以乃知以左倶帝
とふらひきこえ給ふれいのちいさくて

以者希奈幾多川農一声幾ゝ之与利葦末仁奈川
いはけなきたつの一声きゝしより葦まになつ

武舟曽衣奈良奴於那之人尓也止古登左良於佐奈久加幾那之
む舟そえならぬおなし人にやとことさらおさなくかきなし

太末遍累毛以三之宇於可之遣那連者屋可天於本武本耳止
たまへるもいみしうおかしけなれはやかておほむ本にと

人〳〵幾古遊少納言曽幾古衣多累止者世太末遍累八遣不
人〳〵きこゆ少納言そきこえたるとはせたまへるはけふ

遠毛過之加多希奈累左満尓天山寺丹満可利和多累本登
をも過しかたけなるさまにて山寺にまかりわたるほと

尓天加宇止者勢給遍累加之古末里八此世奈良天毛
にてかうとはせ給へるかしこまりは此世ならても

幾古衣佐世无登安利以止阿者礼止於毛本春秋乃夕盤
きこえさせんとありいとあはれとおもほす秋の夕は

【若紫】68

満之帝心農以止末那久於毛保之美多留ゝ人農御安多里
まして心のいとまなくおもほしみたるゝ人の御あたり

尓古ゝ呂遠可希天安那可知奈留遊可利毛多川祢万本之
にこゝろをかけてあなかちなるゆかりもたつねまほし

幾心末左里給奈留遍之幾衣无空奈幾止安利之
き心まさり給なるへしきえん空なきとありし

由不遍於本之以天良礼帝恋之久裳又見於止利也
ゆふへおほしいてられて恋しくも又見おとりや

世武止左須可尓安也宇之
せむとさすかにあやうし

手仁川見天以徒之可毛三无紫乃祢耳加与比
手につみていつしかもみん紫のねにかよひ

希流野部農和可草十月尓朱雀院農行幸安留
ける野へのわか草十月に朱雀院の行幸ある

遍之末比人奈登屋無己止奈幾家乃子止毛上達部
へしまひ人なとやむことなき家の子とも上達部

殿上人登毛奈止毛曽乃可多仁川幾〳〵之幾盤美奈衣良
殿上人ともなともそのかたにつき〳〵しきはみなえら

【若紫】69

世給部連者美己多知大臣与利者之免天止里〳〵能左盈
せ給へれはみこたち大臣よりはしめてとり〳〵のさえ

登毛奈良比給布以止万那之山佐止人尓毛比左志宇遠
ともならひ給ふいとまなし山さと人にもひさしうを

止川連給者佐利希留越於毛保之出帝婦利波遍徒可者之
とつれ給はさりけるをおもほし出てふりはへつかはし

多利遣連八僧都乃返事能三安利多知奴類月乃廿日
たりけれは僧都の返事のみありたちぬる月の廿日

乃本登尓奈武川井丹武奈之久見給部奈之天世間乃多宇
のほとになむつねにむなしく見給へなして世間のたう

里奈連止可那之三思給不累奈止阿留遠見給不丹世中
りなれとかなしみ思給ふるなとあるを見給ふに世中

濃者可那左裳安者連丹宇者路女多計尓於毛遍利之
のはかなさもあはれにうしろめたけにおもへりし

人毛以可那良无於佐幾保止尓恋也春良武故美也春无
人もいかならんおさきほとに恋やすらむ故みやすん

所尓遠久礼多天末川里之奈止波可〳〵之加良祢止思
所にをくれたてまつりしなとはか〳〵しからねと思

【若紫】70

以帝阿左可良須止不良比給遍利少納言由部奈可良寸御
いてあさからすとふらひ給へり少納言ゆへなからす御

加遍利奈止幾古衣多利以三奈止春起天京乃殿尓奈止
かへりなときこえたりいみなとすきて京の殿になと

幾ゝ給部者保止遍天身徒可良能止可奈流夜於者之多利以止
きゝ給へはほとへてみつからのとかなる夜おはしたりいと

寸己遣仁安連多流所農人春久奈ゝ流尓以可仁於左那支人於曽
すこけにあれたる所の人すくなゝるにいかにおさなき人おそ

路之加良无止美遊礼以乃止己呂尓入堂天万徒利天少納
ろしからんとみゆれいのところに入たてまつりて少納

言御安利左満奈止宇知奈幾川ゝ幾古衣徒ゝ久累尓安以
言御ありさまなとうちなきつゝきこえつゝくるにあい

奈宇御袖毛多ゝ奈良須宮尓和多之多天末川良武止侍遠
なう御袖もたゝならす宮にわたしたてまつらむと侍を

古比女君乃以止奈佐希奈久宇幾毛能丹思幾古盈多万
こひめ君のいとなさけなくうきものに思きこえたま

遍里之尓以止武希仁知己奈良奴与王比乃又者可〳〵之
へりしにいとむけにちこならぬよわひの又はか〳〵し

【若紫】71

宇人農遠毛武幾越毛見志利給者須中空奈累御
う人のをもむきをも見しり給はす中空なる御

保止尓天阿末多毛能之給奈流中濃安那川良者之幾人
ほとにてあまたものし給なる中のあなつらはしき人

尓天也末之里給者无奈登春幾給奴留裳与登止毛仁
にてやましり給はんなとすき給ぬるもよとともに

於毛保之歎川累毛之累幾己止於本久侍尓加久可多
おもほし歎つるもしるきことおほく侍にかくかた

志希奈幾奈介乃御己止乃葉盤後農御心毛太止利幾古衣
しけなきなけの御ことの葉は後の御心もたとりきこえ

左勢春以止宇礼之宇思給部良連奴部幾於利婦之丹
させすいとうれしう思給へられぬへきおりふしに

侍奈可良須己之裳奈春良比奈留佐末尓毛物之給者
侍なからすこしもなすらひなるさまにも物し給は

寿御年与利毛和可比帝奈良飛給遍連八以登可太八良以
す御年よりもわかひてならひ給へれはいとかたはらい

太久侍止幾己遊奈尓可加宇久利返之幾古衣志良春留
たく侍ときこゆなにかかうくり返しきこえしらする

【若紫】72

心農保止遠徒ゝ見給良无曽濃以婦可比奈幾御安利佐
心のほとをつゝみ給らんそのいふかひなき御ありさ

万濃安者礼丹遊可之宇於保衣給毛契己止尓奈武心
まのあはれにゆかしうおほえ給も契ことになむ心

奈可良思之良礼希留奈越人徒帝奈良天幾古衣志良
なから思しられけるなを人つてならてきこえしら

勢者也
せはや

阿之和可乃宇良尓美留女者加多久止毛古者多知奈
あしわかのうらにみるめはかたくともこはたちな

加良可遍累波可者免左満之可良武止乃給遍八希尓己
からかへる波かはめさましからむとの給へはけにこ

曽以登可之古遣礼止天
そいとかしこけれとて

与流波農心毛之良天和可濃宇良仁玉藻奈
よる波の心もしらてわかのうらに玉藻な

飛可无本登曽宇幾多類王利那幾事止幾己由留
ひかんほとそうきたるわりなき事ときこゆる

【若紫】73

左満農奈礼堂累尓須己之川三由留佐連給奈曽古衣左
さまのなれたるにすこしつみゆるされ給なそこえさ

良无登宇知寸之給遍累遠身丹之見帝和可幾人
らんとうちすし給へるを身にしみてわかき人

人思遍利君盤宇部遠恋幾古衣給帝奈幾布之太末
人思へり君はうへを恋きこえ給てなきふしたま

遍類丹御阿曽比可多幾止毛能奈越之幾多留人農
へるに御あそひかたきとものなをしきたる人の

於者寸留八宮乃於者之満春奈女利止幾己由連者於幾
おはするは宮のおはしますなめりときこゆれはおき

以帝給天少納言与奈遠之幾多里川良无盤以徒良
いて給て少納言よなをしきたりつらんはいつら

宮濃於者春流可止天与利於者之多累御声以止羅宇
宮のおはするかとてよりおはしたる御声いとらう

多之宮尓盤安良祢止又於毛保之者那徒遍宇毛阿良春
たし宮にはあらねと又おもほしはなつへうもあらす

古地止乃給不遠者川可之加利之人止左須可尓幾ゝ
こちとの給ふをはつかしかりし人とさすかにきゝ

【若紫】74

奈之天阿之宇以比帝介利止於本之天免乃止尓佐之
なしてあしういひてけりとおほしてめのとにさし

与利帝以左可之祢布多起丹止乃給部者以万佐良丹奈止
よりていさかしねふたきにとの給へはいまさらになと

忍給良无此飛左乃宇遍尓於保止乃古毛礼与以万須古
忍給らん此ひさのうへにおほとのこもれよいますこ

之与里給部止乃給部者女能止乃左礼者己曽加宇世徒可
しより給へとの給へはめのとのされはこそかう世つか

奴御程尓天奈武止天遠之与勢多天末川里多礼八奈仁
ぬ御程にてなむとてをしよせたてまつりたれはなに

心毛那久為給部累丹手越左之以連天佐久利給部連
心もなくゐ給へるに手をさしいれてさくり給へれ

者奈与ゝ加奈累御曽仁可見盤徒也〳〵止加ゝ里天春恵
はなよゝかなる御そにかみはつや〳〵とかゝりてすゑ

濃布左也可尓左具利徒遣良礼多累本登以止宇川久
のふさやかにさくりつけられたるほといとうつく

志宇思屋良類ゝ手越止良遍給部連者宇多天連
しう思やらるゝ手をとらへ給へれはうたてれ

【若紫】75

以奈良奴人農加久知可川幾太末遍類盤遠曽路之宇天
いならぬ人のかくちかつきたまへるはをそろしうて

祢奈武止以婦毛乃越止天志井帝比幾以利給丹川幾天春部
ねなむといふものをとてしゐてひきいり給につきてすへ

里以利帝以末波万呂曽思不遍支人奈宇止見給曽止乃
りいりていまはまろそ思ふへき人なうと見給そとの

太末不女能止以帝安奈宇多天也遊ゝ之宇毛侍留可那幾
たまふめのといてあなうたてやゆゝしうも侍るかなき

古衣佐世之良勢給止毛佐良尓奈仁乃志累之毛侍良之
こえさせしらせ給ともさらになにのしるしも侍らし

毛乃越止天久流之希仁思多礼者佐利止毛加ゝ留御保止越
ものをとてくるしけに思たれはさりともかゝる御ほとを

以可ゝ盤阿良武於多ゝ世仁之良奴心左之濃本止越見者天
いかゝはあらむおたゝ世にしらぬ心さしのほとを見はて

給部止乃給不霰布利阿連天春己幾夜農佐万奈利
給へとの給ふ霰ふりあれてすこき夜のさまなり

以可天加宇人春久奈仁心保曽宇天過之給良无止宇知
いかてかう人すくなに心ほそうて過し給らんとうち

【若紫】76

奈以給帝以止見春天加多幾保止奈礼者美可宇之満以利祢物
ない給ていと見すてかたきほとなれはみかうしまいりね物

於曽呂之幾夜農佐万奈女累遠止乃井人尓天侍良舞
おそろしき夜のさまなめるをとのゐ人にて侍らむ

人〳〵知可宇左婦良者礼与加之止天以止奈連閑保尓御
人〳〵ちかうさふらはれよかしとていとなれかほに御

帳農宇地尓以利給部者安也之宇思乃外尓毛止阿幾
帳のうちにいり給へはあやしう思の外にもとあき

連天誰毛〳〵為多里女能止盤宇之路女多宇和利奈之止
れて誰も〳〵ゐたりめのとはうしろめたうわりなしと

於毛遍止阿良満之宇幾古衣佐者久部幾本登奈良祢八宇知
おもへとあらましうきこえさはくへきほとならねはうち

歎川ゝ井多利和可君盤以止於曽呂之久以可奈良武登
歎つゝゐたりわか君はいとおそろしくいかならむと

王那ゝ可礼帝以止宇徒久之幾御者多川幾毛曽ゝ路左武遣
わなゝかれていとうつくしき御はたつきもそゝろさむけ

丹於毛保之多累遠羅宇多久於保衣帝飛止遍者可里遠
におもほしたるをらうたくおほえてひとへはかりを

【若紫】77

遠之久ゝ見天和可御心地毛可川盤宇多天於本盈給部止
をしくゝみてわか御心地もかつはうたておほえ給へと

阿者礼尓宇知可多良比給天以左給部与於可之幾恵奈止於
あはれにうちかたらひ給ていさ給へよおかしきゑなとお

本久日比奈安曽比奈登春累止己呂尓止心尓徒久部幾己止
ほくひひなあそひなとするところにと心につくへきこと

遠乃給希者比農以止奈川可之幾越於左那支心知尓毛以止
をの給けはひのいとなつかしきをおさなき心ちにもいと

以多宇毛遠知須左寸可仁武川可之宇祢毛以良寿見
いたうもをちすさすかにむつかしうねもいらすみ

志呂幾布之給遍利夜悲止与風布幾阿留ゝ仁希尓加宇於
しろきふし給へり夜ひとよ風ふきあるゝにけにかうお

者世左良末之加者以可仁心本曽加良満之於那之久八与呂之
はせさらましかはいかに心ほそからましおなしくはよろし

幾保止尓於者之満左末之加者登左ゝ女起安部利免能止盤
きほとにおはしまさましかはとさゝめきあへりめのとは

宇之路女多左仁以止知可宇左婦良不可世須己之不幾也三太
うしろめたさにいとちかうさふらふかせすこしふきやみた

【若紫】78

流尓夜布可宇出給不毛古止阿利加本奈利也以止阿者
るに夜ふかう出給ふもことありかほなりやいとあは

連丹見多天末川連累御安利左末越以末者満之天加多
れに見たてまつれる御ありさまをいまはましてかた

時農末毛於本川可那可留遍之安希久礼奈可免侍所尓
時のまもおほつかなかるへしあけくれなかめ侍所に

王多之堂天末川良无加久天乃三八以可ゝ物遠知之給者
わたしたてまつらんかくてのみはいかゝ物をちし給は

佐利介利登乃給部者宮毛御武可遍尓奈止幾古衣給女礼
さりけりとの給へは宮も御むかへになときこえ給めれ

止古濃御四十九日春久之天也奈登思給不留止幾己由連八
とこの御四十九日すくしてやなと思給ふるときこゆれは

太乃毛之幾春知那可良毛与曽〳〵尓帝奈良比給部累盤
たのもしきすちなからもよそ〳〵にてならひ給へるは

於那之宇古曽宇登宇於保衣給者免以万与里見多天
おなしうこそうとうおほえ給はめいまより見たて

末川連登阿左加良奴心左之盤満左利奴遍久奈武止天
まつれとあさからぬ心さしはまさりぬへくなむとて

【若紫】79

加以奈帝川ゝ可遍利見可知丹天出給努以三之宇幾利
かいなてつゝかへり見かちにて出給ぬいみしうきり

和多連流空毛多ゝ奈良奴尓霜盤以止志呂宇遠幾天万
わたれる空もたゝならぬに霜はいとしろうをきてま

己止濃希左宇毛於可之加利奴部幾仁左宇〳〵志宇思於者須
ことのけさうもおかしかりぬへきにさう〳〵しう思おはす

以登忍天加与比給止己呂乃道奈利希留遠於毛保之以天ゝ
いと忍てかよひ給ところの道なりけるをおもほしいてゝ

門宇知多ゝ可勢給部止幾ゝ徒久留人奈之可比奈久天御止毛
門うちたゝかせ給へときゝつくる人なしかひなくて御とも

耳声阿累人之天宇太者世給
に声ある人してうたはせ給

安左保良希霧多川空濃末与比尓毛由幾春幾加
あさほらけ霧たつ空のまよひにもゆきすきか

多幾以毛可加止可那止二可遍利者可里宇多比多留丹与之
たきいもかかとかなと二かへりはかりうたひたるによし

阿類志毛川可遍遠以多之帝
あるしもつかへをいたして

【若紫】80

多知止末里霧濃末可幾乃春幾宇久盤草能戸
たちとまり霧のまかきのすきうくは草の戸

左之丹佐者利志毛勢之止以比可介帝以利怒又人毛以帝
さしにさはりしもせしといひかけていりぬ又人もいて

古祢者帰毛奈佐希奈遣礼者安介由久空毛波之太奈久天
こねは帰もなさけなければあけゆく空もはしたなくて

殿部於八之奴於可之可里川留人農奈己利恋之久悲止
殿へおはしぬおかしかりつる人のなこり恋しくひと

里衛三之川ゝ婦之給遍利日太可宇御止乃古毛利於幾天
りゑみしつゝふし給へり日たかう御とのこもりおきて

布見屋利給丹加久部幾己止葉毛礼以奈良祢八筆宇知
ふみやり給にかくへきこと葉もれいならねは筆うち

遠幾徒ゝ春左比為給遍利於可之幾恵奈止越屋利給可之
をきつゝすさひゐ給へりおかしきゑなとをやり給かし

古丹者遣婦之毛宮和多里太末遍利止之己呂与利裳
こにはけふしも宮わたりたまへりとしころよりも

己与那久阿連満左里日呂不毛乃婦利多累所農以止ゝ
こよなくあれまさりひろふものふりたる所のいとゝ

【若紫】81

人春久那尓左比之希礼八見王多之給天閑ゝ流所丹八以可
人すくなにさひしけれは見わたし給てかゝる所にはいか

帝可志者之裳於左奈幾人農寸久之給者无奈遠可之
てかしはしもおさなき人のすくし給はんなをかし

古仁王太之多天末川利天无奈仁乃所世幾保止尓毛安良春
こにわたしたてまつりてんなにの所せきほとにもあらす

女能止盤佐宇之奈登志帝左婦良比奈无君盤和可幾人〳〵
めのとはさうしなとしてさふらひなん君はわかき人〳〵

阿連者毛呂止毛仁安曽比天以止与宇毛乃之給奈武奈止
あれはもろともにあそひていとようものし給なむなと

乃給知可宇与飛与世給遍累丹加農御宇川利香以三之宇
の給ちかうよひよせ給へるにかの御うつり香いみしう

衣无丹志見可部利給部者於可之能御尓本比也御曽者以止奈部
えんにしみかへり給へはおかしの御にほひや御そはいとなへ

天登心具類之希仁於毛保之多里止之己呂毛安徒之
てと心くるしけにおもほしたりとしころもあつし

久佐多春幾太万遍累人丹曽比給遍累与利止幾〳〵
くさたすきたまへる人にそひ給へるよりとき〳〵

【若紫】82

加之古丹和多里天見奈良之給部奈止毛能世之遠安
かしこにわたりて見ならし給へなとものせしをあ

屋之宇宇止見給天人毛心遠久女里之遠可ゝ留於利
やしううとみ給て人も心をくめりしをかゝるおり

丹之毛物之給者无裳心久類之宇奈登乃給部者奈仁
にしも物し給はんも心くるしうなとの給へはなに

閑者心保曽久止毛志八之盤加久天於者之満之奈武春己之
かは心ほそくともしはしはかくておはしましなむすこし

物農古ゝ呂於毛保之志利奈无丹王多良勢給者无古曽
物のこゝろおもほししりなんにわたらせ給はんこそ

与久八侍部遣礼止幾己遊与流日累恋幾古衣給尓者可那幾
よくは侍へけれときこゆよるひる恋きこえ給にはかなき

毛能毛幾己之女左須止天遣仁以止以多宇於毛也世給部連止
ものもきこしめさすとてけにいといたうおもやせ給へれと

以登安天尓宇川久之倶中〳〵美衣給奈尓可左之裳於毛
いとあてにうつくしく中〳〵みえ給なにかさしもおも

保春以末波世丹奈幾人農御事八可比奈之遠乃連
ほすいまは世になき人の御事はかひなしをのれ

【若紫】83

阿連者奈登可多良比幾古衣給帝久流連八可遍良勢給遠以止
あれはなとかたらひきこえ給てくるれはかへらせ給をいと

心保曽之登於本比帝奈飛給部者宮宇知奈幾給帝以止加宇
心ほそしとおほひてなひ給へは宮うちなき給ていとかう

思奈以利給曽遣婦安春和多之多天末川良无奈登可遍春〳〵古
思ないり給そけふあすわたしたてまつらんなとかへす〳〵こ

之良部遠幾天出給奴奈己利裳奈久佐女加多宇奈幾井
しらへをきて出給ぬなこりもなくさめかたうなきぬ

給遍利由久左起農身濃安良无事奈止末天毛於毛保
給へりゆくさきの身のあらん事なとまてもおもほ

志ゝ良須多ゝ止之己呂多地者奈類ゝ於利那宇末川八之奈良
しゝらすたゝとしころたちはなるゝおりなうまつはしなら

比天以末波奈幾人止奈利給丹希流止於毛本春可以見之
ひていまはなき人となり給にけるとおもほすかいみし

幾丹於左那幾御心知奈礼止武祢川止布太可利天礼以乃屋宇
きにおさなき御心ちなれとむねつとふたかりてれいのやう

尓毛阿曽比給者須日累八左天毛満幾良波之給遠夕暮
にもあそひ給はすひるはさてもまきらはし給を夕暮

【若紫】84

止奈礼者以三之宇具之給部八可久天者以可天可過之給
となれはいみしうくし給へはかくてはいかてか過し給

者武止奈久佐女王比天免乃止毛奈幾安遍利君乃御
はむとなくさめわひてめのともなきあへり君の御

毛登与利八唯光遠多天末川連給遍利万以利久遍幾越
もとよりは惟光をたてまつれ給へりまいりくへきを

内与里免之安連者奈無心久流之宇見多天末川利之
内よりめしあれはなむ心くるしう見たてまつりし

毛志徒心奈久止天宿直人多天末川連給部利安知幾奈宇
もしつ心なくとて宿直人たてまつれ給へりあちきなう

裳阿累可那多者婦連尓天毛毛能ゝ者之免尓此御事与
もあるかなたはふれにてもものゝはしめに此御事よ

宮幾己之女之川計者左不良婦人〳〵能遠呂可奈累丹曽
宮きこしめしつけはさふらふ人〳〵のをろかなるにそ

左以奈満連无安那可之古毛能ゝ徒井帝仁以者希那宇宇
さいなまれんあなかしこものゝつゐてにいはけなうう

地以天幾古衣佐世給累奈奈止以婦毛曽礼遠者奈仁登毛
ちいてきこえさせ給るなといふもそれをはなにとも

【若紫】85

於毛保之多良奴曽阿左満之気也少納言盤惟光尓阿者礼
おもほしたらぬそあさましきや少納言は惟光にあはれ
奈累物可多里止毛之天安利遍天後也左流部幾御春久勢
なる物かたりともしてありへて後やさるへき御すくせ
乃可連幾古衣給者奴屋宇毛阿良无多ゝ以末者可計礼毛
のかれきこえ給はぬやうもあらんたゝいまはかけても
以止尓希奈幾御事止見多天末川累遠安也之宇於毛保
いとにけなき御事と見たてまつるをあやしうおもほ
之乃多万波春留毛以可奈留御心丹可思日与流可多奈宇見
しのたまはするもいかなる御心にか思ひよるかたなうみ
多礼侍希不毛宮和多良勢給帝宇之路也春宇徒可宇
たれ侍けふも宮わたらせ給てうしろやすうつかう
末川連心於左那久毛天那之幾己遊奈登乃給世川累毛
まつれ心おさなくもてなしきこゆなとの給せつるも
以止和徒良八之宇多ゝ奈類与利八可ゝ留御春幾事毛思
いとわつらはしうたゝなるよりはかゝる御すき事も思
以天良礼侍川累奈登以比天此人毛古止安利加保尓也於毛比
いてられ侍つるなといひて此人もことありかほにやおもひ

【若紫】86

太万者无奈止阿以奈遣連者以多宇奈計可之希仁毛以比奈佐
たまはんなとあいなけれはいたうなけかしけにもいひなさ
春多以婦毛以可奈流己止尓可阿良无止心衣加多宇思不万以利
すたいふもいかなることにかあらんと心えかたう思ふまいり
天安利左満奈止幾古衣希連者阿八連丹於保之屋良類連登
てありさまなと聞こえけれはあはれにおほしやらるれと
佐帝可与比太万者无毛佐春可尓春ゝ路奈留心知志天可累
さてかよひたまはんもさすかにすゝろなる心ちしてかる
可類之宇毛天比可女多流止人毛也毛利幾可无奈登徒ゝ万之
かるしうもてひかめたると人もやもりきかんなとつゝまし
希礼者多ゝ武可遍天无止於毛保春御不三盤多比〳〵多天末川
けれはたゝむかへてんとおもほす御ふみはたひ〳〵たてまつ
連給久累礼者連以乃太以不遠曽多天末川連給佐者流己止
れ給くるれはれいのたいふをそたてまつれ給さはること
止毛濃安利天盈万以利己奴遠ゝ路可尓也奈止安利宮
ともものありてえまいりこぬをゝろかにやなとあり宮
与利安須丹者可仁御武可遍尓止乃給者世多利徒連者心
よりあすにはかに御むかへにとの給はせたりつれは心

【若紫】87

阿者多ゝ志久天奈無止之己呂之蓬生遠可礼奈无毛佐春可
あはたゝしくてなむとしころの蓬生をかれなんもさすか
耳心保曽宇左不良婦人〳〵毛思美多連天止古止春久奈仁
に心ほそうさふらふ人〳〵も思みたれてとことすくなに
以比天於左〳〵安部之良者須物奴比以止奈無希者比以登
いひておさ〳〵あへしらはす物ぬひいとなむけはひいと
之累介礼者万以利怒君盤大殿尓於者之希留仁連以農
しるけれはまいりぬ君は大殿におはしけるにれいの
女君止見丹毛太以免之給者須物武徒可之宇於保衣給
女君とみにもたいめし給はす物むつかしうおほえ給
天安川末越春可ゝ幾帝常陸丹者田遠己曽徒久連止以婦
てあつまをすかゝきて常陸には田をこそつくれといふ
歌越己恵盤以止奈末免幾天春左比為給遍利万以利多礼者
歌をこゑはいとなまめきてすさひゐ給へりまいりたれは
女之与勢天阿利左満止比太末不志可〳〵奈止幾己由連者
めしよせてありさまとひたまふしか〳〵なときこゆれは
久地於之宇於保衣帝加乃宮丹和多里奈者王佐止武可遍
くちおしうおほえてかの宮にわたりなはわさとむかへ

【若紫】88

以天无裳春起〳〵之可留遍之於左那支人遠奴春見以帝
いてんもすき〳〵しかるへしおさなき人をぬすみいて
多里止毛止幾於比奈无曽濃左幾丹志者之人尓毛口可多
たりともときおひなんそのさきにしはし人にも口かた
免天和多之天无止於保之帝安可川幾可之古丹毛乃世无車
めてわたしてんとおほしてあかつきかしこにものせん車
乃佐宇曽久左那可良随身悲止利布多里於保世遠幾多礼
のさうそくさなから随身ひとりふたりおほせをきたれ
止乃給宇遣給天多知奴君以可尓世満之幾古衣阿利天
との給うけ給てたちぬ君いかにせましきこえありて
春幾加末之幾屋宇奈累部幾事人農保止多仁物思志利
すきかましきやうなるへき事人のほとたに物思しり
女農古ゝ呂加者之希留事止遠之波可良連奴部久盤世乃
女のこゝろかはしける事とをしはかられぬへくは世の
川祢奈利知ゝ宮農多川祢以帝給部良无毛者之太奈宇寸ゝ
つねなりちゝ宮のたつねいて給へらんもはしたなうすゝ
路奈累部幾遠止於毛保之見多留礼止佐帝者徒之天无八
ろなるへきをとおもほしみたるれとさてはつしてんは

【若紫】89

以止久地於之可部遣連者満多夜布可宇以天給女君礼以農
いとくちおしかへけれはまた夜ふかういて給女君れいの
志布〳〵耳心毛止希須毛能之給可之己丹以止世地尓美累
しふ〳〵に心もとけすものし給かしこにいとせちにみる
遍幾事乃侍遠思給部以帝ゝ奈无多知可遍利万以利
へき事の侍を思給へいてゝなんたちかへりまいり
幾奈無止天出太末遍者左不良婦人〳〵毛志良佐里希利
きなむとて出たまへはさふらふ人〳〵もしらさりけり
和可御可多尓天御奈遠之奈止八多天末川累惟光者可里遠
わか御かたにて御なをしなとはたてまつる惟光はかりを
馬尓乃世天於者之奴門宇知多ゝ可勢太万遍者心毛之良
馬にのせておはしぬ門うちたゝかせたまへは心もしら
怒毛能ゝ阿希多累尓御車遠也遠良比幾入左世天太以婦
ぬものゝあけたるに御車をやをらひき入させてたいふ
徒万戸遠奈良之天志者布計者少納言機ゝ志利帝以天
つま戸をならしてしはふけは少納言きゝしりていて
幾多里古ゝ尓於八之満春止以遍者於佐奈幾人盤御止乃古
きたりこゝにおはしますといへはおさなき人は御とのこ

【若紫】90

毛利天奈無奈止可以止夜布可宇八以天佐世太末遍累止物濃
もりてなむなとかいと夜ふかうはいてさせたまへると物の
太与利止思天以婦宮部和多良勢給遍留奈流遠曽濃左起尓
たよりと思ていふ宮へわたらせ給へるなるをそのさきに
幾古衣遠可无止天奈止乃給部者奈仁事尓可侍良无以可丹
きこえをかんとてなとの給へはなに事にか侍らんいかに
波可〳〵之幾御以良遍幾古衣左世給者无止天宇知和良比
はか〳〵しき御いらへきこえさせ給はんとてうちわらひ
天為多利君以利給部者以止可多八良以多久宇知止計天安
てゐたり君いり給へはいとかたはらいたくうちとけてあ
屋之幾布留人止毛乃侍尓止幾古盈左須未多於止呂比給
やしきふる人ともの侍にときこえさすまたおとろひ給
者之那止天以天御免左満之支古衣武可ゝ類安左霧遠之良
はしなとていて御めさましきこえむかゝるあさ霧をしら
天者奴累毛乃可止天入給遍者也止毛衣幾古衣須君盤奈尓
てはぬるものかとて入給へはやともえきこえす君はなに
心毛那久祢多万遍累遠以多幾於己之給丹於止呂幾天
心もなくねたまへるをいたきおこし給におとろきて

【若紫】91

宮濃御武可遍尓於者之多流止祢遠比連天於波之多利御久
宮の御むかへにおはしたるとねをひれておほしたり御く
之加幾徒久呂比奈止之給帝以左給部宮乃御徒可比尓天満
しかきつくろひなとし給ていさ給へ宮の御つかひにてま
以利幾川累曽登乃給丹阿良佐利遣利止安幾礼天於曽呂
いりきつるそとの給にあらさりけりとあきれておそろ
志止思多礼者安奈心宇末呂毛於那之人曽止天可起以多幾天
しと思たれはあな心うまろもおなし人そとてかきいたきて
出給部者太以婦少納言奈止波古者以可仁止幾己由古ゝ丹者川祢
出給へはたいふ少納言なとはこはいかにときこゆこゝにはつね
尓裳衣満以良奴可於保川可奈希連者心屋春幾所尓止幾古衣
にもえまいらぬかおほつかなけれは心やすき所にときこえ
志越古ゝ呂宇久和多里給部可奈礼者満之帝幾古衣加多可留部幾
しをこゝろうくわたり給へかなれはましてきこえかたかるへき
耳与里奈武人日止利万以良礼与可之登乃給部者心阿者
によりなむ人ひとりまいられよかしとの給へは心あは
多ゝ之倶天遣婦盤以止日无那久奈無侍部幾宮濃王多良世
たゝしくてけふはいとひんなくなむ侍へき宮のわたらせ

【若紫】92

給者无尓者以可佐万丹可幾古衣屋良无遠乃徒可良保止遍天
給はんにはいかさまにかきこえやらんをのつからほとへて
左流部幾仁於八之満左八登毛加宇毛侍利奈無遠以止思屋利奈
さるへきにおはしまさはともかうも侍りなむをいと思やりな
幾本登乃事尓侍連者左不良婦人〳〵久累之宇侍遍之
きほとの事に侍れはさふらふ人〳〵くるしう侍へし
止幾己由連者与之後尓毛人盤万以利奈武可之止天御車
ときこゆれはよし後にも人はまいりなむかしとて御車
与世左勢給部八阿左末之宇以可左満丹止思安部利和可君毛
よせさせ給へはあさましういかさまにと思あへりわか君も
安也之宇於毛本之天奈以給不少納言止ゝ免幾己盈无可多
あやしうおもほしてない給ふ少納言とゝめきこえんかた
奈希礼者与遍奴比之御曽止毛比幾左希天身徒可良裳
なけれはよへぬひし御そともひきさけてみつからも
与呂之幾幾奴幾可遍天乃利奴二條院盤知可希礼者
よろしききぬきかへてのりぬ二條院はちかけれは
満多阿可宇奈良奴丹於者之天丹之能多以丹御車与勢天
またあかうならぬにおはしてにしのたいに御車よせて

【若紫】93

於利給王可君遠者以止加累良可仁閑幾以多幾天於路之
おり給わか君をはいとかるらかにかきいたきておろし
給少納言奈越夢濃心知之侍遠以可尓之侍部幾事
給少納言なを夢の心ちし侍をいかにし侍へき事
尓可止天屋春良遍八曽波心奈利御身川可良八和多之太帝
にかとてやすらへはそは心なり御みつからはわたしたて
万徒利川連者帰奈武止阿良者遠久利世无可之止乃給丹
まつりつれは帰なむとあらはをくりせんかしとの給に
王利那久天於利怒丹者可仁安左末之宇武祢毛志徒可奈
わりなくておりぬにはかにあさましうむねもしつかな
良須宮濃於保之乃給者武己止以可仁奈利波天給部幾御
らす宮のおほしの給はむことかになりはて給へき御
安利左満尓可止天毛加久天毛太農毛之幾人〳〵丹遠久礼幾
ありさまにかとてもかくてもたのもしき人〳〵にをくれき
古衣給遍累可以三之佐止思不丹涙農止末良奴遠左須閑仁
こえ給へるかいみしさと思ふに涙のとまらぬをさすかに
遊ゝ之遣礼者祢武之為多里古奈多八春見給者奴対奈礼
ゆゝしけれはねむしゐたりこなたはすみ給はぬ対なれ

【若紫】94

者御帳奈止毛奈可里介利惟光女之天御帳御日也宇婦奈止
は御帳なともなかりけり惟光めして御帳御ひやうふなと
阿多里〳〵志多天佐世給御丁乃可多飛良比幾於路之御満之
あたり〳〵したてさせ給御丁のかたひらひきおろし御まし
奈止多飛支徒久呂布者可利尓天安礼者東乃対丹御止乃
なとたひきつくろふはかりにてあれは東の対に御との
井物女之尓徒可者之天御止乃古毛利奴和可君以止武久川
ぬ物めしにつかはして御とのこもりぬわか君いとむくつ
希宇以可仁春累事奈良武止布累者礼給遍止左須可尓声
けういかにする事ならむとふるはれ給へとさすかに声
多天ゝ裳衣奈幾給者須少納言加毛止尓祢無止乃給声以止
たてゝもえなき給はす少納言かもとにねむとの給声いと
和可之以末者佐盤御止乃古毛流末之幾曽与登遠之部幾古衣
わかしいまはさは御とのこもるましきそよとをしへきこえ
給部者以止王比之倶帝奈幾布之給部利女能止盤宇地裳
給へはいとわひしくてなきふし給へりめのとはうちも
布左礼春物毛於保衣春於幾井多利安計由久末仁見王多
ふされす物もおほえすおきゐたりあけゆくまに見わた

【若紫】95

世波於止ゝ乃徒久里左満志徒良比佐万左良尓毛以者須庭
せはおとゝのつくりさましつらひさまさらにもいはす庭
能春那己毛玉遠可左祢多良武屋宇仁美衣天加ゝ屋久心地
のすなこも玉をかさねたらむやうにみえてかゝやく心地
春流尓者之太奈久思多連止古那多尓者女房奈止毛左布良波
するにはしたなく思たれとこなたには女房ばともさふらは
佐利遣利宇止幾満良宇止奈止万以累於利婦之乃可多成
さりけりうときまらうとなとまいるおりふしのかた成
希礼者於止己止毛曽美春乃止尓安利介留加久人武可遍給部利
けれはおとこともそみすのとにありけるかく人むかへ給へり
止保乃幾久人盤多礼奈良舞於保呂希仁盤阿良之止佐ゝ
とほのきく人はたれならむおほろけにはあらしとさゝ
女久御天宇川御可遊奈止古那多尓万以累日多可宇祢於幾
めく御てうつ御かゆなとこなたにまいる日たかうねおき
給天人奈久天安之可女流遠左流部幾人〳〵夕川希天己曽盤
給て人なくてあしかめるをさるへき人〳〵夕つけてこそは
武可遍左勢給者女登乃給天太以丹和良波部女之仁川可者須
むかへさせ給はめとの給てたいにわらはへめしにつかはす

【若紫】96

知以左起閑幾利古止佐良丹満以連止阿利遣礼者以止於可之希
ちいさきかきりことさらにまいれとありけれはいとをかしけ
尓帝四人万以利多利君盤御春尓末止者礼天布之給遍留
にて四人まいりたり君は御すにまとはれてふし給へる
遠世免天於己之天閑宇心宇久那於者勢曽寸ゝ呂奈留人
をせめておこしてかう心うくなおはせそすゝろなる人
盤加宇者安利奈无也女者心屋者良加奈留与起奈止以万与利
はかうはありなんや女は心やはらかなるよきなといまより
遠之部幾古衣給御可多知八左之者那連天見之与利毛幾与
をしへきこえ給御かたちはさしはなれて見しよりもきよ
羅尓天奈徒可之宇宇地可多良比川ゝ於可之幾恵安曽比物止毛
らにてなつかしううちかたらひつゝおかしきゑあそひ物とも
止里丹徒可者之天美世多天末川利御心丹徒久事止毛遠
とりにつかはしてみせたてまつり御心につく事ともを
之給屋宇〳〵於幾為帝美給不尓尓比色濃古末也可奈
し給やう〳〵おきゐてみ給ふにひ色のこまやかな
累可宇知奈部多類止毛越幾天奈仁心奈久宇知衛三奈止
るかうちなへたるともをきてなに心なくうちゑみなと

【若紫】97

志天為給遍累可以止宇川久之幾尓和可御身裳宇知恵
してゐ給へるかいとうつくしきにわか御身もうちゑ

満連帝見給不東乃対尓和多里給遍累尓多地出帝
まれて見給ふ東の対にわたり給へるにたち出て

庭農木多地以希乃可多奈止能曽幾給部者霜枯乃世武
庭の木たちいけのかたなとのそき給へは霜枯のせむ

左以絵尓可希累屋宇尓於毛之路久天見毛之良努四位
さい絵にかけるやうにおもしろくて見もしらぬ四位

五位古幾末世尓比万那宇以天入川ゝ遣尓於可之幾所可奈
五位こきませにひまなういて入つゝけにをかしき所かな

止於毛保春御屏風止毛以止於可之幾恵遠三川ゝ奈久佐女天
とおもほす御屏風ともいとおかしきゑをみつゝなくさめて

於者須累毛者可那之屋君盤二日三日内部毛万以利給者天
おはするもはかなしや君は二日三日内へもまいり給はて

此人遠奈川希加多良比幾古衣給屋可天本尓止於保春尓也
此人をなつけかたらひきこえ給やかて本にとおほすにや

手奈良比絵奈止加幾川ゝ美世堂天末川里給以三之宇於可
手ならひ絵なとかきつゝみせたてまつり給いみしうをか

【若紫】98

志希仁可幾安川女給遍利武蔵野止以部者加己多礼怒登
しけにかきあつめ給へり武蔵のといへはかこたれぬと

武良左幾濃紙尓可以給遍累春見川幾乃以止古止奈流遠
むらさきの紙にかい給へるすみつきのいとことなるを

止利天見為給遍利春己之知以左久天
とりて見ゐ給へりすこしちいさくて

祢盤三祢止阿者礼止春思不武左之能ゝ露王希和不累
ねはみねとあはれとす思ふ武さしのゝ露わけわふる

草乃由可里遠登安利以帝君毛加以給部止安連者満多与
草のゆかりをとありいて君もかい給へとあれはまたよ

宇者加ゝ春止天見安計給部累可奈尓心奈久宇川久之希
うはかゝすとて見あけ給へるかなに心なくうつくしけ

奈礼者宇地保ゝ恵見天与可良祢止武希仁可ゝ怒己曽王呂
なれはうちほゝゑみてよからねとむけにかゝぬこそわろ

希連遠之部幾古衣无加之止乃給部者宇地曽波美帝
けれをしへきこえんかしとの給へはうちそはみて

加以給天川幾筆止利給部留佐万濃於左那遣奈留裳
かい給てつき筆とり給へるさまのおさなけなるも

【若紫】99

羅宇多宇能三於保遊連者心奈可良阿也之止於本春加幾曽
らうたうのみおほゆれは心なからあやしとおほすかきそ

古那比川止者地知帝加久之給遠世免天見給部者
こなひつとはちちてかくし給をせめて見給へは

可己川遍支由部遠之良祢者於保川可奈以可奈留草乃
かこつへきゆへをしらねはおほつかないかなる草の

由可里奈留良舞止以止和可希連止於飛佐支美衣天布久
ゆかりなるらむといとわかけれとおひさきみえてふく

与可仁可以給部利古阿万君乃丹曽似多利希留以万免可
よかにかい給へりこあま君のにそ似たりけるいまめか

之幾手本奈良波ゝ以登与宇加以給帝无止見給不
しき手本ならはゝいとようかい給てんと見給ふ

比ゝ奈奈止和左止屋止毛徒久利川ゝ希天毛呂止毛仁阿曽比
ひゝななとわさと屋ともつくりつゝけてもろともにあそひ

徒ゝ古与那支物思乃満幾良波之也可濃止末里尓之人〳〵
つゝこよなき物思のまきらはし也かのとまりにし人〳〵

宮和多利給天尋幾古衣給希留尓幾古衣屋累可夕奈久
宮わたり給て尋きこえ給けるにきこえやるかたなく

【若紫】100

天曽和比安部利介留志波之人尓志良勢之止君毛乃給比
てそわひあへりけるしはし人にしらせしと君もの給ひ

少納言毛於毛不事奈礼者世地尓久知可多免屋利多利多ゝ
少納言もおもふ事なれはせちにくちかためやりたりたゝ

遊久衛毛之良須少納言可以帝加久之幾古衣多類止乃見
ゆくゑもしらす少納言かいてかくしきこえたるとのみ

幾古衣佐春流尓宮毛以不可比奈久於保之天故尼君毛加之
きこえさするに宮もいふかひなうおほして故尼君もかし

古仁王多里給者无事越以止毛能之止於波之多利之事
こにわたり給はん事をいとものしとおはしたりし事

奈連者女乃止能以止佐之過之多流心者世濃安末利於以良
なれはめのとのいとさし過したる心はせのあまりおいら

可尓王多佐武遠日无那之奈止波以者天心丹満可世天以帝
かにわたさむをひんなしなとはいはて心にまかせていて

者婦良可之川留奈免利止奈久〳〵可遍利給奴毛之幾ゝ
はふらかしつるなめりとなく〳〵かへり給ぬもしきゝ

出多天末川良八川希与止乃給毛王川良波之久僧都乃
出たてまつらはつけよとの給もわつらはしく僧都の

【若紫】101

御毛止尓毛多川祢幾古衣給部止阿止者可那久天阿良亜之加利
御もとにもたつねきこえ給へとあとはかなくてあらあしかり

之御可多地奈止恋之宇可那之止於毛保春北乃可多毛者ゝ
し御かたちなと恋しうかなしとおもほす北のかたもはゝ

君遠丹久之止思幾古衣給希累心毛宇世天和可心丹満可
君をにくしと思きこえ給ける心もうせてわか心にまか

世川遍宇於毛保之希流尓太可比奴留八久地於之宇於保之
せつへうおもほしけるにたかひぬるはくちおしうおほし

給介利屋宇〳〵人万以利安川末里奴御安曽比可多幾濃
給けりやう〳〵人まいりあつまりぬ御あそひかたきの

和良者部知己止毛以登女川良可尓以万免可之幾御安利佐万
わらはへちこともいとめつらかにいまめかしき御ありさま

奈礼者思己止奈久天安曽比阿遍利君盤於止己君乃於者勢
なれは思ことなくてあそひあへり君はおとこ君のおはせ

春奈登之天佐宇〳〵志幾夕暮奈止計曽安万幾見遠恋
すなとしてさう〳〵しき夕暮なと計そあまきみを恋

幾古衣給帝宇地奈幾奈止之給部止宮遠者古止丹思以天幾
きこえ給てうちなきなとし給へと宮をはことに思いてき

【若紫】102

古衣給者須毛登与利見奈良比幾古盈給者天奈良飛給部連
こえ給はすもとより見ならひきこえ給はてならひ給へれ

者今盤多ゝ此乃知濃於也遠以三之宇武徒比末徒八之
は今はたゝ此のちのおやをいみしうむつひまつはし

幾古衣給物与里於者寸礼者末川出武可比天阿波礼丹
きこえ給物よりおはすれはまつ出むかひてあはれに

宇知可堂良比御布止己呂丹入為天以左ゝ加宇止久者徒
うちかたらひ御ふところに入ゐていさゝかうとくはつ

加之止毛思多良須左流可多丹以三之久羅宇多幾和左也
かしとも思たらすさるかたにいみしくらうたきわさ也

佐可志良心安利奈仁久礼止武川可之幾春地尓成奴礼者
さかしら心ありなにくれとむつかしきすちに成ぬれは

王可心地毛春己之多可婦布之裳以天ゝ久屋止心遠可連
わか心地もすこしたかふしもいてゝくやと心をかれ

人毛宇良見可知丹思乃外乃事遠乃徒可良以帝
人もうらみかちに思の外の事をのつからいて

久流遠以止於可之幾毛天阿曽比奈利武春免奈止者多
くるをいとおかしきもてあそひなりむすめなとはた

【若紫】103

加者可里尓奈礼者心屋春久宇知布類未比遍多天奈幾
かはかりになれは心やすくうちふるまひへたてなき

左満尓布之於幾奈止盤衣之裳須未之幾越古連盤
さまにふしおきなとはえしもすましきをこれは

以登佐満可八利多累可之川幾種止於毛保比多女利
いとさまかはりたるかしつき種とおもほひためり

【未摘花】1

【未摘花】2

【未摘花】3

春衛津武花

すゑつむ花

【末摘花】4

【末摘花】5

於毛遍止毛奈越阿可佐利之由不可本乃露尓遠久連之
おもへともなをあかさりしゆふかほの露におくれし

心知越止之月不連止於保之和春連寸己ゝ毛加之己
心ちをとし月ふれとおほしわすれすこゝもかしこ

毛宇知止計奴閑幾利乃遣之幾波三心不可幾可多乃
もうちとけぬかきりのけしきはみ心ふかきかたの

御以止満之佐尓介知可久奈津加之可利之安者連尓仁留
御いとましさにけちかくなつかしかりしあはれにる

物奈宇恋之久於毛保衣給婦以可天己止〳〵志幾於保衣
物なう恋しくおもほえ給ふいかてこと〳〵しきおほえ

者奈久以止羅宇多計奈良武人乃津ゝ末之幾事奈
はなくいとらうたけならむ人のつつましき事な

可良武美津遣天之可那止古利寸満尓於保之和多連八
からむみつけてしかなとこりすまにおほしわたれは

寸己之火川幾天幾己遊留和多利八御美ゝ止女給八奴久
すこし火つきてきこゆるわたりは御みゝとめ給はぬく

万奈幾尓佐天毛也止於保之与留波可利乃計八比安留阿
まなきにさてもやとおほしよるはかりのけはひあるあ

【末摘花】6

堂利尓己曽以日止久多利遠毛保能女可之給不女留耳
たりにこそいひとくたりをもほのめかし給ふめるに

奈比幾ゝ己衣寸毛天八奈連多留八於佐〳〵安留末之幾
なひきゝこえすもてはなれたるはおさ〳〵あるましき

曽以止女奈連多留也川連奈宇心川与幾八堂止之遍
そいとめなれたるやつれなう心つよきはたとしへ

奈宇奈左計遠久類ゝ満女也可佐奈止安末利毛能ゝ本止
なうなさけをくるゝまめやかさなとあまりものゝほと

志良奴也宇耳佐天之毛寸久之波天寸奈己利奈久
しらぬやうにさてしもすくしはてすなこりなく

久徒遠礼天奈越〳〵之幾可多尓佐多満利奈止
くつをれてなを〳〵しきかたにさたまりなと

寸累毛安連八能堂万比佐之津留毛於本可利
するもあれはのたまひさしつるもおほかり

遣利加能宇川世見越毛能ゝ於利〳〵尓者祢多
けりかのうつせみをものゝおり〳〵にはねた

宇於保之以川於幾乃葉毛佐利奴遍幾風乃太与
うおほしいつおきの葉もさりぬへき風のたよ

【末摘花】7

里安類時八於止路可之給婦於利毛阿累遍之保可計
りある時はおとろかし給ふおちもあるへしほかけ

能見多連多利之左満八末多佐也宇尓天毛見万保之久
のみたれたりしさまはまたさようにても見まほしく

於保寸於本可多奈己利奈幾物和春連遠曽衣志多
おほすおほかたなこりなき物わすれをそえした

満八佐利計留左衛門乃女乃止ゝ天大弐乃佐之川幾仁於毛
まはさりける左衛門のめのとゝて大弐のさしつきにおも

以多留可武寸女多以不乃命婦止天佐不良婦和可武止本利
いたるかむすめたいふの命婦とてさふらふわかむとほり

能兵部乃多以布奈留武寸女奈利計利以止以多宇以呂己乃
の兵部のたいふなるむすめなりけりいといたういろこの

女累和可人尓天阿利計留越君毛女之川可比奈止之多満不
めるわか人にてありけるを君もめしつかひなとしたまふ

波ゝ八知久世武乃可三乃女尓天久多利尓希連八知ゝ君乃毛
はゝはちくせんのかみのめにてくたりにけれはちゝ君のも

止越佐止尓天遊幾加与不故日多知乃美也能寸恵尓満
とをさとにてゆきかよふ故ひたちのみやのすゑにま

【末摘花】8

宇計天以見之宇加之津幾給之御武寸女心保曽久天
うけていみしうかしつき給し御むすめ心ほそくて

乃己利為多留越物乃津以天尓加多利幾己衣計連者
のこりゐたるを物のついてにかたりきこえけれは

阿八連乃事也止天御心止ゝ女天止比幾ゝ多満不心者
あはれの事やよて御心とゝめてとひきゝたまふ心は

遍加多知奈止不可幾可多八衣之里侍良寸加以比曽女
へかたちなとふかきかたはえしり侍らすかいひそめ

人宇止宇毛天奈之給部八佐部幾与比奈止毛乃己之尓天
人うとうもてなし給へはさへきよひなとものこしにて

曽加多良比侍留幾武越曽奈津可之幾加多良比人止於毛
そかたらひ侍るきむをそなつかしきかたらひ人とおも

遍留止幾己遊連八見川乃止毛尓天以万日止久佐也
へるときこゆれはみつのともにていまひとくさや

宇多天阿良无止天和連尓幾可世与知ゝ君乃佐也宇
うたてあらんとてわれにきかせよちゝ君のさやう

能可多仁以止与之川幾天毛乃之給婦遣連八越之奈部天
のかたにいとよしつきてものし給ふけれはをしなへて

【末摘花】9

乃天尓波安良之止於毛婦止加多良比給佐也宇尓幾
のてにはあらしとおもふとかたらひ給さやうにき

古之女寸波可梨仁者侍阿良寸也安良武止以遍八以多
このめすはかりには侍あらすやあらむといへはいた

宇計之幾八満之也己乃古呂乃於保呂月夜尓志乃比天
うけしきはましやこのころのおほろ月夜にしのひて

物世武満可天与止乃堂末遍八和徒良波之止於毛遍止
物せむまかてよとのたまへはわつらはしとおもゑと

宇知和多利毛乃止也可奈累春乃徒連〳〵尓満可天奴
うちわたりものとやかなる春のつれ〳〵にまかてぬ

知ゝ乃大輔乃君ハ保可尓曽寸美計留己ゝ仁者時ゝ曽
ちゝの大輔の君はほかにそすみけるこゝには時ゝそ

加与比計留命婦八満ゝ波ゝ乃安多利八寸美毛津可寸
かよひける命婦はまゝはゝのあたりはすみもつかす

飛女君乃阿多利越武津比天己ゝ仁久累奈利遣利
ひむ君のあたりをむつひてこゝにくるなりけり

乃多満比之裳志累久以佐与比乃月於加之幾保止尓
のたまひしもしるくいさよひの月おかしきほとに

【末摘花】10

於波之多利以止加多和良以多幾和佐可那毛乃ゝ祢寸武
おはしたりいとかたわらうたきわさかなものゝねすむ

遍幾夜乃佐万尓毛侍良佐女留耳止遣古遊連
へき夜のさまにも侍らさめるにときこゆれ

登奈越阿那堂耳和多利天堂ゝ比止古恵
となをあなたにわたりてたゝひとこゑ

毛与保之幾古衣与武那志具（天）加盈良武可祢多
もよほしきこえよむなしく（て）かえらむかねた

閑類遍幾越登能堂万遍波宇知登気多
かるへきをとのたまへはうちとけた

類寸見閑耳寸衛堂天満津利天宇之呂
るすみかにすえたてまつりてうしろ

女多宇加堂之計那之登於毛遍止志無天
めたうかたしけなしとおもへとしむて

無耳満以利堂連波満多加宇之毛佐那
むにまいりたれはまたかうしもさな

閑良武免乃香於加之幾越見以多之天毛乃
からむめの香おかしきを見いたしてもの

【末摘花】11

志堂万婦与幾於利可那止於毛比天御古止能祢以可
したまふよきおりかなとおもひて御ことのねいか

尓満佐利侍良無止思給不良留ゝ与能遣八比尓佐曽
にまさり侍らむと思給へらるゝよのけはいにさそ

八連侍利天奈武心安八多ゝ之幾以天以利尓衣宇計堂
はれ侍りてなむ心あはたゝしきいていりにえうけた

万八良奴古曽久知越之遣連止以不八安者連志留人こ
まはらぬこそくちをしけれといへはあはれしる人こ

曽女奈連毛ゝ志幾尓遊幾可部人能幾久波可利也八
そめなれもゝしきにゆきかふ人のきくはかりやは

止天女之与寸留毛安以那宇以可ゝ幾ゝ給八無止武祢
とてめしよするもあいなういかゝきゝ給はむとむね

徒婦留保能可尓可幾奈良之給婦於可之宇幾己遊奈耳
つふるほのかにかきならし給ふおかしうきこゆなに

波可利婦可幾天奈良祢止毛能ゝ祢可良能寸知古止那留
はかりふかきてならねとものゝねからのすちことなる

物奈連者幾ゝ仁久ゝ裳於保左連寸以止以多宇安連和
物なれはきゝにくゝもおほされすいといたうあれわ

【末摘花】12

堂里天佐飛之幾所尓佐者可利能人能婦留女加之宇
たりてさひしき下にさはかりの人のふるめかしう

止古路世久加之徒幾寸恵堂利遣武奈己利奈久以
ところせくかしつきすゑたりけむなこりなくい

可尓於毛保之能己寸事奈可良無可屋宇能止古呂尓己曽（八）
かにおもほしのこす事なからむかやうのところにこそは

武可之毛能可多里尓毛安王連奈留事止毛安利遣連
むかしものかたりにもあわれなる事ともありけれ

奈止於毛比津ゝ遣天毛物也以比与良末之止於保世止
なとおもひつゝけても物やいひよらましとおほせと

宇知徒遣丹也於保佐无止心者川可之久天也寸良比給婦
うちつけにやおほさんと心はつかしくてやすらひ給ふ

命婦可止安留毛能丹天以多宇美ゝ奈良佐勢堂天末川
命婦かとあるものにていたうみゝならさせたてまつ

良之止於毛比遣連者久毛利可知尓侍女利末良宇止乃
らしとおもひけれはくもりかちに侍めりまらうとの

己無止侍利津留以止比可保尓毛己曽以万心能止可耳
こむと侍りつるいとひかほにもこそいま心のとかに

【末摘花】13

越見可宇之満以利奈無止天以多宇毛曽ゝ能可佐天加遍利
をみかうしまいりなむとていたうもそゝのかさてかへり
堂連波奈可〳〵奈留保止尓手毛也美奴留可奈毛乃幾ゝ和久
たれはなか〳〵なるほとにてもやみぬるかなものきゝわく
保止尓毛阿良天祢多宇止乃多末不計之幾於可之止於保之
ほとにもあらてねたうとのたまふけしきおかしとおほし
堂利於奈之久八遣知可幾保止乃多知幾ゝ佐世与止乃多
たりおなじくはけちかきほとのたちきゝさせよとのた
末遍止心尓久ゝ天止思遍者以天也以止可寸可奈累安利左満尓
まふと心にくゝてと思へはいてやいとかすかなるありさまに
於毛比幾恵天心久類之遣仁物之給婦女留越宇之呂女
おもひきゑて心くるしけに物し給ふめるをうしろめ
堂幾佐万尓也止以遍者計尓佐毛安留事尓八可尓我毛
たきさまにやといへはけにさもある事にはかに我も
人毛宇知止計天可多良婦部幾人乃幾八ゝ幾八止古曽安連
人もうちとけてかたらふへき人のきはゝきはとこそあれ
奈止安者礼尓於保佐留ゝ人乃御保止奈連八奈越佐与宇乃
なとあはれにおほさるゝ人の御ほとなれはなをさようの

【末摘花】14

計之幾越保乃女可勢止加堂良比多満不満多知幾利堂
けしきをほのめかせとかたらひたまふまたちきりた
万遍留加多也安良武以止志乃日天加遍利堂末不宇部乃
まへるかたやあらむいとしのひてかへりたまふうへの
満女尓於八之末須止毛天奈也見幾己衣左勢多満不
まめにおはしますともてなやみきこえさせたまふ
己楚於可之宇於毛不給遍良累ゝ於利〳〵侍連加也宇乃御
こそおかしうおもふ給へらるゝおり〳〵侍れかやうの御
也徒連寸可多越以可天可御良武之徒計武止幾古遊連
やつれすがたをいかてか御らむしつけむときこゆれ
波多知可部里宇知和良比天己止人乃以波武也宇仁止加
はたちかへりうちわらひてこと人のいはむやうにとか
奈安良八佐連曽己連越安多〳〵志幾不留末比止以波ゝ
なあらはされそこれをあた〳〵しきふるまひといはゝ
女乃阿利佐満久累之加良武止乃多末遍八安万利以呂
女のありさまくるしからむとのたまへはあまりいろ
女以多利止於保之天於利〳〵加宇乃多満不越波徒可之止
めいたりとおほしてをり〳〵かうのたまふをはつかしと

【末摘花】15

思比天毛乃毛以者須志武殿能可多仁人乃遣波比幾
思ひてものもいはすしむ殿のかたに人のけはひき
久也宇毛也止於保之天也越良多知以天給婦春以可以乃
くやうもやとおほしてやをらたちいて給ふすいかいの
多ゝ寸己之於連乃己利堂留加久連乃可多尓多知与利
たゝすこしおれのこりたるかくれのかたにたちより
給婦尓毛止与利多天留於止己安利計利多連奈良武心可
給ふにもとよりたてるおとこありけりたれならむ心か
計多留寸起物安利計利止於保之天加計尓川幾天多知加
けたるすき物ありけりとおほしてかけにつきてたちか
久連多満部八止宇乃中将奈利計利己乃由不徒可多宇
くれたまへはとうの中将なりけりこのゆふつかたう
知与利毛呂止毛耳万可天給比計留越也可天大殿尓
ちよりもろともにまかて給ひけるをやかて大殿に
毛与良寸二条乃院尓毛安良天比幾和可連給計留
もよらす二条の院にもあらてひきわかれ給ける
越以徒知奈良武止多ゝ奈良天和連毛行加多安連
をいつちならむとたゝならてわれも行かたあれ

【末摘花】16

止安止尓津幾天宇加ゝ以遣利安屋之幾武万仁可利幾奴
とあとにつきてうかゝいけりあやしきむまにかりきぬ

寸可多乃奈以可之呂尓天幾計連八衣之里多満八奴尓佐春
すかたのないかしろにてきけれはえしりたまはぬにさす

可尓加宇己止加多尓以利多満比奴連者心毛衣寸止思比
かにかうことかたにいりたまひぬれは心もえすと思ひ

計留保止毛乃ゝ祢耳幾ゝ津以天多天留仁可遍利也以天給
けるほとものゝねにきゝついれたてるにかへりやいて給

不止志多満徒奈利計利君八誰止毛衣見和幾給八天和
ふとしたまつなりけり君は誰ともえ見わき給はてわ

連止之良連之止奴幾安之尓安遊三乃幾多満不尓不止
れとしられしとぬきあしにあゆみのきたまふにふと

与利天不利春天佐世多満部留津良左仁御遠久利徒可宇
よりてふりさせたまへるつらさに御をくりつかう

万津利徒留八
まつりつるは

毛呂止毛仁於保宇知也万八以天川連止以累可多見
もろともにおほうちやまはいてつれといるかた見

【末摘花】17

世奴以佐与比乃月止宇良武留毛祢多計連止己能君止
せぬいさよひの月とうらむるもねたけれとこの君と

美多未不尓寸己之於可之宇奈利奴人乃於毛比与良奴事
みたまふにすこしおかしうなりぬ人のおもひよらぬ事

与止仁久武〳〵
よとにくむ〳〵

佐止和可奴可計遠八見連止由久月乃以留左乃也万越
さとわかぬかけをはみれとゆく月のいるさのやまを

多連可多徒奴留加宇志多比安利可八以可尓世佐世給八
たれかたつぬるかうしたひありかはいかにせさせ給は

武止幾己衣給満己止以可也宇乃御阿利幾尓八寸以之无可
むときこえ給まことかやうの御ありきにはすいしんか

良己曽波加〳〵志幾己止毛安累遍遣連越久良世佐世給八
らこそはか〳〵しきこともあるへけれをくらせさせ給は

天己曽安良女也徒連多留御安利幾八加累〳〵之幾事毛
てこそあらめやつれたる御あるきはかる〳〵しき事も

以天幾奈武止遠之可部之天以佐女多天末津留加宇乃三見
いてきなむとをしかへしていさめたてまつるかうのみみ

【末摘花】18

見津計良累ゝ越祢多之止於保世止可能奈天之己八衣多
みつけらるゝをねたしとおほせとかのなてしこはえた

徒祢志良奴遠ゝ毛幾古宇仁御心乃宇知尓於保之以徒
つねしらむをゝもきこうに御心のうちにおほしいつ

越乃〳〵知幾連留閑多仁毛安万衣天恵由幾和可連
をの〳〵ちきれるかたにもあまえてゑゆきわかれ

給八寸日止川久累満尓乃利天月乃於可之幾保止尓
給はすひとつくるまにのりて月のおかしきほとに

雲可久連多留道乃本止不衣不幾安和世天於保以止乃
雲かくれたる道のほとふえふきあわせておほいとの

尓於八之津幾奴佐万奈止越毛越和世給八寸志乃比以
におはしつきぬさまなとをもをわせ給はすしのひい

里天人美奴良宇尓御奈越之止毛女之天幾可部給
りて人みぬらうに御なをしともめしてきかへ給

徒連奈宇以末久留也宇尓天御不衣止毛不幾寸左比
つれなういまくるやうにて御ふえともふきすさひ

天於者寸連八於止ゝ連以乃幾ゝ寸久之給者天古万
ておはすれはおとゝれいのきゝすくし給はてこま

【末摘花】19

不衣止利以天給遍利以止上寸耳於八寸連者以止
ふえとりいて給へりいと上すにおはすれはいと

於毛志呂宇不幾給御古止女之天宇知尓毛己乃
おもしろうふき給御ことめしてうちにもこの

加多仁心衣堂留人〳〵尓比可世給婦中務乃君和左
かたに心えたる人〳〵にひかせ給ふ中務の君わさ

止比八ゝ飛計止頭乃君心可計多留越毛天波奈連天多ゝ
とひはゝひけと頭の君心かけたるをもてはなれてたゝ

己乃堂満佐可那留御計之幾乃奈津可之幾越八衣曽武幾ゝ
このたまさかなる御けしきのなつかしきをはえそむきゝ

古衣奴耳於乃津可良加久連奈久天大宮奈止毛与呂之
こえぬにおのつからかくれなくて大宮なともよろし

加良寸於保之奈利多連八毛乃於毛波之久波之堂菜幾
からすおほしなりたれはものおもはしくはしたなき

心知之天寸左満之計尓与利不之多利多衣天見多天末川良
心ちしてすさましけによりふしたりたえて見たてまつら

奴所尓加計波奈連奈無毛佐寸可仁心保曽久於毛比見
ぬ所にかけはなれなむもさすかに心ほそくおもひみ

【末摘花】20

堂連多利君多知八安利徒留幾武乃祢越於保之以天ゝ安者
たれたり君たちはありつるきむのねをおほしいてゝあは

連計奈利徒留寸満井乃左満奈止毛夜宇加遍天於加之宇
れけなりつるすまゐのさまなともやうかへておかしう

於毛比津ゝ計阿良末之事仁以止於可之宇羅宇多幾人
おもひつゝけあらまし事にいとおかしうらうたき人

乃佐天止之月越加佐祢為多良武止幾美曽女天以美之宇心
のさてとし月をかさねゐたらむときみそめていみしう心

久類之久八人尓毛毛天佐者可累波可利也和可心毛佐末安
くるしくは人にもてさはかるはかりやわか心もさまあ

志可良武奈止佐部中将八思非遣利己乃君乃可宇計之幾波見
しからむなとさへ中将は思ひけりこの君のかうけしきはみ

阿利幾給越満左仁佐天八寸久之給日天武也止奈万祢多
ありき給をまさにさてはすくし給ひてむやとなまねた

宇安也宇可利計利曽乃ゝ知己奈多加奈多与利不三奈止也利給遍之
うあやうかりけりそのゝちこなたかなたよりふみなとやり給へし

以川連毛加部利事美衣寸於保津可奈久心也末之幾仁安万利宇多天毛安留
いつれもかへり事みえすおほつかなく心やましきにあまりうたてもある

【末摘花】21

閑那佐也宇奈留寸万比寸留人尓毛乃思比志利多留計之幾
かなさやうなるすまひする人にもの思ひしりたるけしき

波可奈幾木久佐曽良乃計之幾尓津介天毛止利奈之
はかなき木くさそらのけしきにつけてもとりなし

奈止之天心波世遠之波可良累ゝ於利〳〵安良武己楚安者礼
なとして心はせをしはからるゝおり〳〵あらむこそあはれ

奈留部遣連遠毛之止天毛以止可宇安末利宇毛連多良武八
なるへけれをもしとてけいとかうあまりうもれたらむは

心川幾奈久和留比多利止中将八万以天心以良連之計利
心つきなくわるひたりと中将はまいて心いられしけり

連以乃部多天幾己良給八奴心尓天志加〳〵乃可部利事者
れいのへたてきこえ給はぬ心にてしか〳〵のかへり事は

見給也心美尓加寸女多利之己曽波之多奈久天也三耳
み給や心みにかすめたりしこそはしたなくてやみに

加止宇連婦連八佐連八与以比与利尓計留遠也止本ゝ恵
かとうれふれはされはよいひよりにけるをやとほゝゑ

末連天以佐三武止之毛思八祢八尓也見留止之毛奈之止
まれていさみむとしも思はねはにや見るとしもなしと

【末摘花】22

以良遍給越人和幾之計利止思不尓以止祢多之君八不可
いらへ給を人わきしけりと思ふにいとねたし君はふか

宇之毛於毛八奴事乃可宇奈左計奈幾遠寸左満之久於
うしもおもはぬ事のかうなさけなきをすさましくお

毛比奈利給丹之可止可宇己乃中将乃以比安利幾計留遠
もひなり給にしかとかうこの中将のいひありきけるを

己止於保久以比奈連多良武方尓曽奈比可武可之志多利可
ことおほくいひなれたらむ方にそなひかむかししたりか

保尓毛止乃事越於毛比波奈知多良武介之幾己曽宇連（王）
ほにもとの事をおもひはなちたらむけしきこそうれ（わ）

志可留遍遣礼止於本之天命婦遠満女也可尓可多良以給
しかるへけれとおほして命婦をまめやかにかたらい給

於保徒可奈宇毛天波奈連多留御遣之幾奈武以止心宇
おほつかなうもてはなれたる御けしきなむいと心う

幾寸幾〳〵之起加多尓宇多可比与世給不尓己曽安良女
きすき〳〵しきかたにうたかひよせ給ふにこそあらめ

佐利止毛美之可幾心波衣津可八奴毛乃越人乃心濃能止也可
さりともみしかき心はえつかはぬものを人の心ののとやか

【末摘花】23

奈留事奈久天思波寸耳乃三阿累尓奈武遠能徒可良
なる事なくて思はすにのみあるになむをのつから

和可安也未知仁毛奈利奴部幾心乃止可尓天於也波良可良
わかあやまちにもなりむへき心のとかにておやはらから

乃毛天安徒可比宇良武留毛奈宇心也寸可良武人八中〳〵
のもてあつかひうらむるもなう心やすからむ人は中〳〵

奈武良宇多可留部幾遠止乃多末偏八以也天佐也宇尓於
なむらうたかるへきをとのたまへはいてやさやうにお

加之幾可多乃御加佐也止利仁八衣之毛也止津幾奈計尓己
かしきかたの御かさやとりにはえしもやとつきなけにこ

曽美衣侍連日止部尓毛乃津ゝ美之比幾以利多留加多波之毛
そみえ侍れひとへにものつゝみしひきいりたるかたはしも

安利可多宇毛乃之給布人尓奈武止美留阿利左満閑多利幾
ありかたうものし給ふ人になむとみるありさまかたりき

己遊良宇〳〵志宇加止女幾多留心者奈幾奈女利以止己女
こゆらう〳〵しうかとめきたる心はなきなめりいとこめ

加之宇於保止可奈良武己曽良宇多久八安留遍遣礼止
かしうおほとかならむこそらうたくはあるへけれと

【末摘花】24

於保之和春連春乃多末不和良八也三仁者川良比給人
おほしわすれすのたまふわらはやみにはつらひ給人

志連奴物於毛比乃末幾連毛御心乃以止末奈幾也宇
しれぬ物おもひのまきれも御心のいとまなきやう

尓天春夏寸幾奴秋乃己呂本比志徒可尓於保之津ゝ
にて春夏すきぬ秋のころほひしつかにおほしつゝ

遣天可能幾奴多乃音毛美ゝ尓川幾天幾ゝ仁久可利左部
けてかのきぬたの音もみゝにつきてきゝにくかりさへ

恋之宇於保之以天良留ゝ満ゝ尓比多知乃宮耳波志者〳〵
恋しうおほしいてらるゝまゝにひたちの宮にはしはは

幾己衣給部止猶本津可奈宇乃三安連者与津可寸心
きこえ給へと猶ほつかなうのみあれはよつかす心

也末之宇満計天八也左志乃御心左部曽比天命婦越
やましうまけてはやさしの御心さへそひて命婦を

世女太末不以可那留也宇曽以止可ゝ留事己曽満多之良
せめたまふいかなるやうそいとかゝる事こそまたしら

祢止以止毛乃之止於毛比天乃堂末部八以止於之止於毛比天
ねといともものしとおもひてのたまへはいとおしとおもひて

【末摘花】25

毛天波奈連天尓計奈幾御事止毛於毛武計侍良春多ゝ
もてはなれてにけなき御事ともおもむけ侍らすたゝ

於保可多乃御毛乃津ゝ三乃和利奈幾尓天遠衣佐之以天給
おほかたの御けのつゝみのわりなきにてをえさしいて給

八奴止奈武美給不留止幾己由連八曽礼己曽与津可怒
はぬとなむみ給ふるときこゆれはそれこそよつかぬ

事奈連毛乃於毛比志留満之幾程日止利身越衣心尓
事なれものおもひしるましき程ひとりみをえ心に

末可世奴保止己曽佐也宇尓加ゝ也可之幾己止八利奈連
まかせぬほとこそさやうにかゝやかしきことはりなれ

奈尓事毛思志津末利給良武止於毛不己曽曽己波可
なに事も思しつまり給らむとおもふこそそこはか

止奈久川連〳〵尓心本曽宇乃三於本由留越於奈之心尓
となくつれ〳〵に心ほそうのみおほゆるをおなし心に

以良部給者無八祢可比可奈不心知奈武春部幾奈尓也可也
いらへ給はむはねかひかなふ心ちなむすべきなにやかや

止与徒計留寸知奈久天曽乃安連多留春乃己尓多ゝ寸満ゝ
とよつけるすちなくてそのあれたるすのこにたゝすまゝ

【末摘花】26

保之幾奈利以止宇多天心衣奴心知寸留越可乃御遊留之奈
ほしきなりいとうたて心えぬ心ちするをかの御ゆるしな

久止毛多八可連可之心以良連志宇多天安留毛天奈之仁盤
くともたはかれかし心いられしうたてあるもてなしには

与毛阿良之奈止加多良比給婦猶世尓安留人乃阿利左満
よもあらしなとかたらひ給ふ猶世にある人のありさま

遠大可多奈留也宇尓天幾ゝ安津女美ゝ止ゝ女給久世濃
を大かたなるやうにてきゝあつめみゝとゝめ給くせの

津幾給部留遠佐宇〳〵之幾与比丰奈止尓波可奈幾津
つき給へるをさう〳〵しきよひゐなとにはかなきつ

以天丹佐留人己曽止八可利幾己衣以天多利志尓可久和左止
いてにさる人こそとはかりきこえいてたりしにかくわさと

可満之宇乃多満比和多連者奈満和津良波之久遠无奈
かましうのたまひわたれはなまわつらはしくをんな

君乃御安利左満毛与津可波之宇与之女幾奈止毛安良奴
君の御ありさまもよつかはしうよしめきなともあらぬ

遠中〳〵奈留道比幾耳以止於之幾事也美衣奈武止於
を中〳〵なる道ひきにいとおしき事やみえなむとお

【末摘花】27

毛比計連止君乃可宇満女也可尓乃多末不尓幾ゝ以連左
もひけれと君のかうまめやかにのたまふにきゝいれさ

良武毛比可〳〵之加留遍之知ゝ美己於八之介留於利仁多尓不利
らむもひか〳〵しかるへしちゝみこおはしけるおりにたにふり

仁多留安多利止天遠止奈比幾己遊留人毛奈可利計留遠末
にたるあたりとてをとなひきこゆる人もなかりけるをま

志天以満八阿左知和久留人毛阿止多衣多留仁可久世丹
していまはあさちわくる人もあとたえたるにかく世に

女津良之幾御計八比乃毛利仁本比久留越八奈満女者良
めつらしき御けはひのもりにほひくるをはなま女はら

奈止毛恵三満計天奈遠幾古衣給部止曽ゝ能可之多天
なともゑみまけてなをきこえ給へとそゝのかしたて

末徒連止安左満之宇物津ゝ三之給婦心尓天比多不留
まつれとあさましう物つゝみし給ふ心にてひたふる

尓美毛以連給八奴奈利遣利命婦八佐良八左利奴部可良
にみもいれ給はぬなりけり命婦はさらはさりぬへから

武於利尓毛乃己之尓幾己衣多満八武保止御心尓津可寸八
むおりにものこしにきこえたまはむほと御心につかすは

【末摘花】28

佐天毛也三祢可之又佐留部幾尓天可利仁毛於八之可与八武遠
さてもやみねかし又さるへきにてかりにもおはしかよはむを

止可女給遍幾人奈之奈止安多女幾多留波也里心者
とかめ給へき人なしなとあためきたるはやり心は

宇知思比天知ゝ君尓毛閑ゝ留事奈止毛以者佐利気利
うち思ひてちゝ君にもかゝる事なともいはさりけり

八月廿与日与比寸久留末天満多留ゝ月乃心毛止奈幾
八月廿よ日よひすくるまてまたるゝ月の心もとなき

尓保之乃比可利八可利佐也計久松乃己寸恵不久風乃遠止
にほしのひかりはかりさやけく松のこすゑふく風のをと

心保曽久天以尓之遍乃事加多利以天ゝ宇知奈幾奈止之
心ほそくていにしへの事かたりいてゝうちなきなとし

給以止与幾於利可奈止於毛比天御世宇曽己也幾古衣
給いとよきおりかなとおもひて御せうそこやきこえ

津良武連以乃以止志乃比天於波之多利月也宇〳〵以天ゝ
つらむれいのいとしのひてはしたり月やう〳〵いてゝ

安連多留末可幾乃保止宇止満之久宇知奈可女多満不尓
あれたるまかきのほとうとましくうちなかめたまふに

【末摘花】29

幾武曽ゝ乃可左連天保乃可尓加幾奈良之給保止計之宇八
きむそゝのかされてほのかにかきならし給ほとけしうは

安良春寸己之計知可宇以満女幾多留計遠徒遣計也止
あらすすこしけちかういまめきたるけをとけけやと

曽美多連多留心尓八心毛止奈久思比為多留人女之奈幾
そみたれたる心には心もとなく思ひゐたる人めしなき

所奈連八心也寸久以利給婦命婦遠与八世多満不以末之
所なれは心やすくいり給ふ命婦をよはせたまふいまし

毛於止呂幾可本尓以止可多波良以多幾和左可奈志可〳〵己曽於
もおとろきかほにいとかたはらいたきわさかなしか〳〵こそお

八之満之多奈連川祢尓加宇宇良美幾己衣給婦遠心尓
はしましたなれつねにかううらみきこえ給ふを心に

加奈八奴与之越乃三以奈比幾己衣侍連八見津可良己止八利
かなはぬよしをのみいなひきこえ侍れはみつからことはり

毛幾己衣志良世無止乃多末比和多留奈利以可ゝ幾己衣可部
もきこえしらせむとのたまひわたるなりいかゝきこえかへ

佐武奈三〳〵乃多和也春幾御不留末比奈良祢八心久留
さむなみ〳〵のたわやすき御ふるまひならねは心くる

【末摘花】30

志幾遠物己之尓天幾古衣給八武事遠幾己之女世登
しきを物こしにてきこえ給はむ事をきこしめせと

以部八以止波津可之止思天人尓物幾己衣武也宇毛志良奴遠
いへはいとはつかしと思て人に物きこえむやうもしらぬを

止天於久左満部為佐利以利給左満以止宇飛〳〵之計奈利
とておくさまへゐさりいり給さまいとうひ〳〵しけなり

宇知和良以天以止和可〳〵志宇於波之末寸己曽心久留之遣礼
うちわらいていとわか〳〵しうおはしますこそ心くるしけれ

可幾利奈幾人毛於也奈止於八之天安川可比宇志呂美幾
かきりなき人もおやなとおはしてあつかひうしろみき

古衣給婦保止己曽和可比多満不毛事八利奈礼可波可利心
こえ給ふほとこそわかひたまふも事はりなれかはかり心

保曽幾御安利左満尓奈越与遠川幾世寸於保之者ゝ可
ほそき御ありさまになをよをつきせすおほしはゝか

流八津幾奈宇己曽止遠之部幾古遊佐寸可尓人乃以不
るはつきなうこそとをしへきこゆさすかに人のいふ

事波津与宇毛以奈比奴御心尓天以良部幾古衣天多
事はつようもいなひぬ御心にていらへきこえてた

【末摘花】31

堂幾計止安良八加宇之奈登佐之天八安利奈武止乃給春
たきけとあらはかうしなとさしてはありなむとの給す

乃己奈止八比无奈宇侍奈無遠之多知天安波〳〵之幾御心
のこなとはひんなう侍なむをしたちてあはく〳〵しき御心

奈止八与毛奈止以止与久以比奈之天不多末乃幾者奈留佐
なとはよもなといとよくいひなしてふたまのきはなるさ

宇之天津可良以止川与久佐之天御志良祢宇知遠幾
うしてつからいとつよくさして御しらねうちをき

津久呂不以止徒ゝ末之計尓於保之多連止加也宇乃人尓
つくろふいとつゝましけにおほしたれとかやうの人に

物以不良武心八部奈止毛夢志利給八佐利計連八命婦乃
物いふらむ心はへなとも夢しり給はさりけれは命婦の

可宇以不遠安留也宇己曽八止於毛比天毛乃之多満不女乃止多川
かういふをあるやうこそはとおもひてものしたまふめのとたつ

於以人奈止八佐宇之尓以利不之天夕末止比志多留本止奈利
おい人なとはさうしにいりふして夕まとひしたるほとなり

和可幾人二三人安留八与尓女天良連給布御阿利佐満
わかき人二三人あるはよにめてられ給ふ御ありさま

【末摘花】32

遠遊可之幾物尓思比幾古衣天心計左宇之安部利与呂之幾
をゆかしき物に思ひきこえて心けさうしあへりよろしき

御曽多天末津利可部津久呂比幾己由連八佐宇之美者
御そたてまつりかへつくろひきこゆれはさうしみは

奈尓乃心計左宇毛奈久天於八寸於止己八以止川幾世奴御
なにの心けさうもなくておはすおとこはいとつきせぬ御

左満遠宇知志乃比与宇以之給部留御遣八比以見之宇奈満
さまをうちしのひよういし給へる御けはひいみしうなま

女幾天美之良武人尓己曽美世女波部安留末之幾和多利越
めきてみしらむ人にこそみせめはへあるましきわたりを

安奈以止於之止命婦八於毛部止多ゝ於保止可尓毛乃之給婦
あないとおしと命婦はおもへとたゝおほとかにものし給ふ

遠空宇之呂也春宇佐之寸幾多留事八美衣多天末津利
を空うしろやすうさしすきたる事はみえたてまつり

給八之止於毛比介留和可津祢尓世女良連多天末津累
給はしとおもひけるわかつねにせめられたてまつる

津三佐利己止仁久累之幾人乃御毛乃思比也以天古武
つみさりことにくるしき人の御もの思ひやいてこむ

【末摘花】33

奈止也春可良寸於毛比為多利君八人乃御程遠於保世八左連
なとやすからすおもひゐたり君は人の御程をおほせはされ

久津可部留以末也宇乃与之波三与利八古与奈宇於久布可之宇止
くつかへるいまやうのよしはみよりはこよなうおくふかしうと

於本佐留ゝ尓以多宇曽ゝ乃可左連天井佐利与利給部留計八比
おほさるゝにいたうそゝのかされてゐさりより給へるけはひ

志乃比也可尓衣比乃可以止奈津可之宇可本利以天ゝ於本止可奈留遠
しのひやかにえひのかいとなつかしうかほりいてゝおほとかなるを

左連八与止於本春年頃於毛比和多留左満奈止以止与久乃給
されはよとおほす年頃おもひわたるさまなといとよくの給

川ゝ久連止末之天知可幾御以良部八多衣天奈之和利奈乃和左也
つゝくれとましてちかき御いらへはたえてなしわりなのわさや

止宇知奈計幾多満不
とうちなけきたまふ

以久曽多比君可志ゝ末尓末計奴良无物奈以比曽止
いくそたひ君かしゝまにまけぬらん物ないひそと

以八奴多乃美尓止乃多末比毛寸天ゝ与可之多満多寸幾久留
いはぬたのみにとのたまひもすてゝよかしたまたすきくる

【末摘花】34

志止乃多末不女君乃御女乃止己志ゝ宇止天波也利可奈留和可
しとのたまふ女君の御めのとこしゝうとてはやりかなるわか

人以止心毛止奈宇可多波良以多之止於毛比天佐之与利天幾己由
人いと心もとなうかたはらいたしとおもひてさしよりてきこゆ

加祢津幾天止知女武事八佐春可尓天己多衣満宇幾曽
かねつきてとちめむ事はさすかにてこたえまうきそ

加津八安也奈幾止和可比多留声乃己止仁於毛里可奈良奴遠
かつはあやなきとわかひたる声のことにおもりかならぬを

人徒天尓安良奴也宇尓幾己衣奈世波保止与利安万盈天止
人つてにあらぬやうにきこえなせはほとよりあまえてと

幾ゝ給部止女津良之幾可中〳〵久知不多可留和左可奈
きゝ給へとめつらしきか中〳〵くちふたかるわさかな

以者奴遠毛以不尓満左留止志利奈可良遠之己女多留者
いはぬをもいふにまさるとしりなからをしこめたるは

久累不之可利遣利奈尓也可也止波可奈幾事奈礼止於可之幾左満
くるふしかりけりなにやかやとはかなき事なれとおかしきさま

尓毛満女也可尓毛乃給部止奈仁乃可比奈之以止可ゝ留毛左満可八利
にもまめやかにもの給へとなにのかひなしいとかゝるもさまかはり

【末摘花】35

於毛不方己止仁毛乃之給人尓也止祢多久天也遠良越之安計天
おもふ方ことにものし給人にやとねたくてやをらをしあけて

以利給比尓遣利命婦安奈宇多天多由女多満部留止以止於之遣
いり給ひにけり命婦あなうたてたゆめたまへるといとおしけ

連八志良春可本尓天和可ゝ多部以尓遣利己乃和可人止毛波多
れはしらすかほにてわかゝたへいにけりこのわか人ともはた

世尓多久比奈幾御安利左満乃遠止幾於ゝ仁津三由留之幾己衣
世にたくひなき御ありさまのをときおゝにつみゆるしきこえ

天於止呂〳〵志宇毛奈計可連寸多ゝ思比毛与良寸仁者可尓天左留
ておとろ〳〵しうもなけかれすたゝ思ひもよらすにはかにてさる

御心毛奈幾遠曽思比計留佐宇之美八多ゝ和連仁毛安良春波川可
御心もなきをそ思ひけるさうしみはたゝわれにもあらすはつか

志久津ゝ末之幾与利保可乃事又奈計連者以末波閑ゝ流
しくつゝましきよりほかの事又なけれはいまはかゝる

曽安者連奈留可之末多与奈連奴人乃宇知加之川可連多留
そあはれなるかしまたよなれぬ人のうちかしつかれたる

止美遊留之多満不物可良心衣春奈満以止於之止於本遊留御左満也
とみゆるしたまふ物から心えすなまいとおしとおほゆる御さま也

【末摘花】36

奈尓事尓津遣天可八御心乃止末良武宇知宇女可連天与
なに事につけてかは御心のとまらむうちうめかれてよ

不可宇以天給日奴命婦八以可奈良武止目佐女天幾ゝ不世利
ふかういて給ひぬ命婦はいかならむと目さめてきゝふせり

計連止志利可本奈良之止御遠久利尓止毛己以津久良寸君
けれとしりかほならしと御をくりにともこいつくらす君

毛也遠良志乃比天以天給尓介利二条乃院尓於八之天宇知
もやをらしのひていて給にけり二条の院におはしてうち

婦之給日天毛猶於毛比尓可奈比可多幾与尓己曽止於本之
ふし給ひても猶おもひにかなひかたきよにこそとおほし

津ゝ遣天閑留良可奈良奴人乃御程遠心久留之止曽於本之
つゝけてかるらかならぬ人の御程を心くるしとそおほし

計留思比美多連天於八寸留尓頭中将於波之天古与奈幾御
ける思ひみたれておはするに頭中将おはしてこよなき御

安左以可奈由部安良武可之止己曽於毛比給部良留連止以部八於
あさいかなゆへあらむかしとこそおもひ給へらるれといへはお

幾安可利給天心也春幾日止利祢乃床尓天由留比尓介利
きあかり給て心やすきひとりねの床にてゆるひにけり

【末摘花】37

也宇知与利可止能給部八志可満可天侍留末ゝ奈利寸左久
やうちよりかとの給へはしかまかて侍るまゝなりすさく

院乃行幸介不奈武閑久人末比日止佐多女良累部幾与
院の行幸けふなむかく人まひひとさためらるへきよ

志与遍宇計多満八利之越於止ゝ尓毛津多部申左武止天奈武末
しよへうけたまはりしをおとゝにもつたへ申さむとてなむま

可天侍留也可天可部里満以利奴部宇侍利止以曽可之計奈連者
かて侍るやかてかへりまいりぬへう侍りといそかしけなれは

佐良八毛呂止毛尓止天御可遊己八以比女之天満良宇止仁毛万以
さらはもろともにとて御かゆこはいひめしてまらうとにもまい

里給天日幾津ゝ遣多礼止日止川尓多天末津利天奈遠以
り給てひきつゝけたれとひとつにたてまつりてなをい

止祢不多計奈利止ゝ可女（以）天津ゝ加久以給事於本可利止曽宇
とねふたけなりとゝかめ（い）てつゝかくい給事おほかりとそう

良美幾己衣給不己止ゝ毛於本久左多女良留ゝ日尓天宇知尓佐
らみきこえ給ふことゝもおほくさためらるゝ日にてうちにさ

不良飛久良之給津可之己尓波不見遠多尓止以止越之久於本
ふらひくらし給つかしこにはふみをたにといとをしくおほ

【末摘花】38

志以天ゝ夕津可多曽阿利計留雨不利以天ゝ所世久毛安留
しいてゝ夕つかたそありける雨ふりいてゝ所せくもある

尓加佐也止利世武止波多於本左連寸也安利計武可之己尓
にかさやとりせむとはたおほされすやありけむかしこに

八末川保止寸幾天命婦毛以止〳〵遠之幾御左満可那止心宇久
はまつほとすきて命婦もいと〳〵をしき御さまかなと心うく

於毛比遣利左宇之美八御心乃宇知尓波川可之宇思比給
おもひけりさうしみは御心のうちにはつかしう思ひ給

天計左乃御不三乃久連奴礼止奈加〳〵登可止毛思比和幾
てけさの御ふみのくれぬれとなか〳〵とかとも思ひわき

給八佐利遣利
給はさりけり

由不幾利能波留ゝ介之幾毛満多三奴尓以不世佐曽不留
ゆふきりのはるゝけしきもまたみぬにいふせさそふる

与比乃雨可奈久毛末満知以天武本止以可尓心毛止奈宇
よひの雨かなくもままちいてむほといかに心もとなう

止阿利於波之末寸満之幾御計之幾越人〳〵武祢津婦
とありおはしますましき御けしきを人〳〵むねつふ

【末摘花】39

連天於毛部止猶幾己衣佐世給部止楚ゝ乃可之安部連止
れておもへと猶きこえさせ給へとそゝのかしあへれと

以止ゝ於毛比見堂礼給遍留保止尓天衣加多乃也宇尓毛
いとゝおもひみたれ給へるほとにてえかたのやうにも

津ゝ計多満八祢者与不計奴止天志ゝ宇曽連以乃遠之部幾
つゝけたまはねはよふけぬとてしゝうそれいのをしへき

己遊留
こゆる

波連奴夜乃月末川佐止遠思屋連於奈之心尓
はれぬ夜の月まつさとを思やれおなし心に

奈可女世寸止裳久知〳〵尓世女良連天武良佐幾乃可三
なかめせすともくち〳〵にせめられてむらさきのかみ

能年遍尓遣連者波比遠久連不留女以多留尓天八佐春可
の年へにけれははひをくれふるめいたるにてはさすか

尓毛之津与宇中佐多乃寸知尓天可美之毛日止之久可以
にもしつよう中さたのすちにてかみしもひとしくかい

給遍利美留可比奈宇宇知遠幾給婦以可尓於毛不良无止於
給へりみるかひなううちをき給ふいかにおもふらんとお

【末摘花】40

毛比也留毛也春加良寸加ゝ留己止遠久屋之奈止八以不尓也
もひやるもやすからすかゝることをくやしなとはいふにや

安良武佐利止天以可ゝ八世武和連者佐利止毛心奈可久美者
あらむさりとていかゝはせむわれはさりとも心なかくみは

天ゝ武止於本之奈寸御心越志良祢八可之己仁八以美之宇
てゝむとおほしなす御心をしらねはかしこにはいみしう

曽奈計以給計留於止ゝ夜尓以利天万可天給尓飛可連多天
そなけい給けるおとゝ夜にいりてまかて給にひかれたて

末津利天大殿尓於波之末之奴行幸乃己止遠介不安利
まつりて大殿におはしましぬ行幸のことをけふあり

止於毛保之天君多知安津末利天乃給日遠乃〳〵末比止毛
とおもほして君たちあつまりての給ひをの〳〵まひとも

奈良飛給不遠曽乃己呂能事尓天過行毛乃ゝ祢止毛川年
ならひ給ふをそのころの事にて過行ものゝねともつね

与利毛美ゝ可之可満之久天加多〳〵以止三津ゝ連以乃御安曽
よりもみゝかしましくてかた〳〵いとみつゝれいの御あそ

比奈良春大日知里幾佐久波知乃不恵奈止乃於保声
ひならす大ひちりきさくはちのふゑなとのおほ声

【末摘花】41

遠不幾阿計津ゝ太以己遠佐部可宇良武乃毛止尓満呂波之
をふきあけつゝたいこをさへかうらむのもとにまろはし

与世天天津可良宇知奈良之安曽比於八佐不春御以止満奈
よせててつからうちならしあそひおはさふす御いとまな

幾也宇尓天世知尓於保春所八可利尓己曽奴春万八連
きやうにてせちにおほす所はかりにこそぬすまはれ

給部連可乃和多利尓八以止於本津可奈久天秋久連八天
給へれかのわたりにはいとおほつかなくて秋くれはて

奴奈越多乃三己之可比奈久天春幾行行幸知可久奈利
ぬなをたのみこしかひなくてすき行行幸ちかくなり

天志可久奈止乃ゝ志留己呂曽命婦八末以連留以可尓曽
てしかくなとのゝしるころそ命婦はまいれるいかにそ

奈止ゝ飛給天以止於之止八於本之多利阿利左満幾己衣天以止
なとゝひ給ていとおしとはおほしたりありさまきこえていと

可宇毛天者奈連多留御心波部八美多末不留人佐部心久
かうもてはなれたる御心はへはみたまふる人さへ心く

流之久奈止奈幾奴八可利思遍利心尓久ゝ毛天奈之天也見
るしくなとなきぬはかり思へり心にくゝもてなしてやみ

【末摘花】42

奈武止於毛遍利之事遠久多以天計留心毛奈久己乃人農
なむとおもへりし事をくたいてける心もなくこの人の

於毛不良武遠佐部於保春佐宇之三乃毛乃八以波天於保之宇
おもふらむをさへおほすさうしみのものはいはておほしう

津毛連給良武左満於毛比也利多満不毛以止於之介連者
つもれ給らむさまおもひやりたまふもいとおしけれは

以止万奈幾本止曽也和利奈之止宇知奈計以給天毛乃思比
いとまなきほとそやわりなしとうちなけい給てもの思ひ

志良奴也宇奈留心左満遠古良佐武止於毛不曽可之登本ゝ恵三
しらぬやうなる心さまをこらさむとおもふそかしとほゝゑみ

給部留和可宇宇川久之介奈礼八和連毛宇知恵万留ゝ心知之天
給へるわかうつくしけなれはわれもうちゑまるゝ心ちして

和可奈乃人尓宇良美良連多満不御与八比也於毛比也
わかなの人にうらみられたまふ御よはひやおもひや

里寸久奈宇御心乃末ゝ奈良无毛己止和利止思不己乃御
りすくなう御心のまゝならんもことわりと思ふこの御

以曽幾乃保止寸久之天曽時〳〵於波之介留可乃武良佐幾
いそきのほとすくしてそ時〳〵おはしけるかのむらさき

【末摘花】43

能遊可利多川祢止利給天曽乃宇津久志美尓心以利給天
のゆかりたつねとり給てそのうつくしみに心いり給て

六条和多利尓多仁加連満左利太末不女連八満之天安連多
六条わたりにたにかれまさりたまふめれはましてあれた

流也止八安者礼尓於保之越己多良春奈可良毛乃宇幾曽和利
るやとはあはれにおほしをこたらすなからものうきそわり

奈可利計留所世幾御物波知越美安良八佐武乃御心毛己止
なかりける所せき御物はちをみあらはさむの御心もこと

尓奈久天寸幾行遠宇知加部之美万左利春留也宇毛安利
になくてすき行をうちかへしみまさりするやうもあり

可之天佐久利乃多止〳〵之幾尓安也志宇心衣奴事毛安留
かしてさくりのたと〳〵しきにあやしう心えぬ事もある

尓也美天之可那止於毛保世止計左也可尓止利奈左武毛満八
にやみてしかなとおもほせとけさやかにとりなさむもまは

由之宇知止計多留与比（為）乃保止也遠良以利給天可宇之乃波左満
ゆしうちとけたるよひ（ゐ）のほとやをらいり給てかうしのはさま

与利美多末比計利佐連止三津可良八美衣給遍久毛安良春
よりみたまひけりされとみつからはみえ給へくもあらす

【末摘花】44

幾丁奈止以多久曽己那八連多留毛乃可良止之遍尓計留多
き丁なといたくそこなはれたるものからとしへにけるた

知止可八良春於之也里奈止美多連祢者心毛止奈久天己堂
ちとかはらすおしやりなとみたれねは心もとなくてこた

知四五人以多利御多以比曽久也宇乃毛呂己之乃物奈礼止
ち四五人いたり御たいひそくやうのもろこしの物なれと

日登和呂幾仁奈仁乃久佐者比毛奈久阿八連計奈留満可
ひとわろきになにのくさはひもなくあはれけなるまか

天ゝ人〳〵久不春三乃万八可利仁世曽以止佐武計奈留女者良
てゝ人〳〵くふすみのまはかりに世そいとさむけなる女はら

志呂幾幾奴乃以比志良春寸ゝ遣多留尓幾多奈計奈留
しろききぬのいひしらすすゝけたるにきたなけなる

志比良日幾由比津計多留己之津幾可多久奈之遣奈利
しひらひきゆひつけたるこしつきかたくなしけなり

佐春可仁久之遠志多連天佐之多留比多以川幾奈以計宇者宇
さすかにくしをしたれてさしたるひたいつきないけうはう

内侍所乃保止尓可ゝ留物止毛安留波也止於可之可計天毛人乃
内侍所のほとにかゝる物ともあるはやとおかしかけても人の

【末摘花】45

安多里尓知可宇不留末不毛乃止毛志利多満八佐利介利安八
あたりにちかうふるまふものともしりたまはさりけりあは

連佐毛左無幾止之可那以乃知奈可計連八閑ゝ留世尓毛安不
れさもさむきとしかないのちなかけれはかゝる世にもあふ

物奈利遣利止天宇知奈久毛安利己宮於八之末之ゝ世遠
物なりけりとてうちなくもありこ宮おはしましゝ世を

奈止天可良之止於毛比遣武閑久多乃三奈久天毛寸久留物奈
なとてからしとおもひけむかくたのみなくてもすくる物な

里遣利止天止比多知奴遍久不留不毛安利佐末〳〵尓人和呂
りけりとてとひたちぬへくふるふもありさま〳〵に人わろ

幾事止毛遠宇連部安部留遠幾ゝ給毛加多波良以多遣礼者
き事ともをうれへあへるをきゝ給もかたはらいたけれは

多知乃幾天多ゝ以万於者春留也宇尓天宇知多ゝ幾多満不
たちのきてたゝいまおはするやうにてうちたゝきたまふ

曽ゝ也奈止以比天火止利奈遠之加宇志波奈知天以連多天
そゝやなといひて火とりなをしかうしはなちていれたて

末川留志ゝ宇八左以院尓満以利可与不和可人尓天己乃比盤
まつるしゝうはさい院にまいりかよふわか人にてこの比は

【末摘花】46

奈可利遣利以与〳〵安也志宇比奈比多留加幾利尓天美奈良
なかりけりいよ〳〵あやしうひなひたるかきりにてみなら

八奴心知曽春留以止ゝ宇連不奈利津留由幾可起多連以
はぬ心ちそするいとゝうれふなりつるゆきかきたれい

美之宇不利介利空乃遣之幾波計之宇風不幾安連天於
みしうふりけり空のけしきはけしう風ふきあれてお

保止安不良幾衣仁介留越止毛之津久留人毛奈之可乃物耳
ほとあふらきえにけるをともしつくる人もなしかの物に

遠曽八連之於利於本之（以）天良連天安連多留左満八於止
をそはれしおりおほし（い）てられてあれたるさまはおと

良佐女留越保止乃世波宇人気乃春己之安留奈止尓奈久
らさめるをほとのせはう人けのすこしあるなとになく

左女多連止寸己宇多天以佐止幾心知春留夜乃左満奈利
さめたれとすこうたていさとき心ちする夜のさまなり

於可之宇毛安八連尓毛也宇可遍天心止満利奴部幾安利左満越
おかしうもあはれにもやうかへて心とまりぬへきありさまを

以止武毛連寸久与宇尓天奈尓乃波部奈幾越曽久地遠之
いとむもれすくようにてなにのはへなきをそくちをし

【末摘花】47

宇於保春可羅宇之天安計奴留介之幾奈連波可宇之天川可良
うおほすからうしてあけぬるけしきなれはかうしてつから

安計多満比天未遍乃世无佐以乃由幾越見多満不不三安計
あけたまひてまへのせんさいのゆきをみたまふふみあけ

多留阿止毛奈久波留〳〵止阿連和多利天以見之宇佐日之計
たるあともなくはる〳〵とあれわたりていみしうさひしけ

奈留尓不利以天ゝ由可武事毛阿者礼尓天於可之幾程乃空
なるにふりいてゝゆかむ事もあはれにておかしき程の空

毛美多末部津幾世奴御心乃遍多天己曽和利奈介礼止宇良
もみたまへつきせぬ御心のへたてこそわりなけれとうら

美幾己衣給末多本乃久良介連止雪乃日可利尓以止ゝ
みきこえ給またほのくらけれと雪乃ひかりにいとゝ

幾与良尓和可宇見衣多満不遠於以人止毛恵三佐可部天美多
きよらにわかうみえたまふをおい人ともゑみさかへてみた

天末津留波也以天佐世給部阿知幾奈之心宇津久之幾
てまつるはやいてさせ給へあちきなし心うつくしき

己楚奈止遠之部幾己由連八佐春可尓人乃幾古由留事
こそなとをしへきこゆれはさすかに人のきこゆる事

【末摘花】48

遠衣以奈比給八奴御心尓天止可宇比幾津久呂飛天井
をえいなひ給はぬ御心にてとかうひきつくろひてゐ

佐利以天給遍利美奴屋宇尓天止乃可多越奈可女給遍連
さりいて給へりみぬやうにてとのかたをなかめ給へれ

止志利女波多ゝ奈良寸以可尓曽宇知止計満佐利能以佐ゝ可
としりめはたゝならすいかにそうちとけまさりのいさゝか

毛阿良八宇連之加良武止於本春毛安奈可知奈留御心奈利
もあらはうれしからむとおほすもあなかちなる御心なり

也末川為多計乃太可宇越世奈可尓見衣給婦尓左礼八与
やまつゐたけのたかうをせなかにみえ給ふにされはよ

止武祢徒不連奴宇知川幾天阿奈可多和止美遊留毛乃八者
とむねつふれぬうちつきてあなかたわとみゆるものはは

奈那利遣利不止女曽止満留不遣無本左津乃ゝ里物止
ななりけりふとめそとまるふけむほさつのゝり物と

於本由阿左満之宇多可宇乃日良可仁左幾乃可多寸己之多利
おほゆあさましうたかうのひらかにさきのかたすこしたり

天色津幾多留事己止乃保可尓宇多天阿利以呂八由幾
て色つきたる事ことのほかにうたてありいろはゆき

【末摘花】49

波津可之久志呂宇天左於尓比多飛津幾己与那宇者礼
はつかしくしろうてさおにひたひつきこよなうはれ

多留仁奈越之毛可知奈留於毛也宇八於保可多於止呂〳〵之
たるになをしもかちなるおもやうはおほかたおとろ〳〵し

宇奈可幾奈累篇之也世太末篇留事以止越之計尓佐
うなかきなるへしやせたまへる事いとをしけにさ

良本日天加多乃保止奈止八以多遣那留末天幾奴乃宇部末
らほひてかたのほとなとはいたけなるまてきぬのうへま

天三遊奈尓ゝ乃己利奈宇見阿良波之津良无止思毛乃可良
てみゆなにゝのこりなう見あらはしつらんと思ものから

女津良志幾佐末乃志多連波佐春可尓宇知三也良連多
めつらしきさまのしたれはさすかにうちみやられた

末不加之良津幾加三乃加ゝ利波之毛宇津久之遣尓女天多之
まふかしらつきかみのかゝりはしもうつくしけにめてたし

止於毛比幾己由留人〳〵尓毛於佐〳〵於止留満之宇宇知幾
とおもひきこゆる人〳〵にもおさ〳〵おとるましううちき

乃寸曽仁多満利天比可連多留保止一尺八可利阿末利多良
のすそにたまりてひかれたるほと一尺はかりあまりたら

【末摘花】50

武止美遊幾給篇留毛乃止毛越佐部以比多川留毛ゝ乃
むとみゆき給へるものともをさへいひたつるもゝの

以比佐可奈幾也宇奈連止武可之毛乃加多利尓毛人乃御
いひさかなきやうなれとむかしものかたりにも人の御

佐宇曽久越己曽末徒以比多女連由留之以呂乃和利奈
さうそくをこそまついひためれゆるしいろのわりな

宇宇八志良三多累日止加佐祢奈己利奈宇久呂幾宇知起
ううはしらみたるひとかさねなこりなうくろきうちき

加佐祢天宇波幾尓波不留幾能可八幾奴以止幾与良仁加
かさねてうはきにはふるきのかはきぬいときよらにか

宇波之幾越幾給遍利己多以乃遊部津幾堂留御佐宇
うはしきをき給へりこたいのゆへつきたる御さう

曽久奈連止奈越和可也可奈留女乃御与曽飛尓八尓計奈
そくなれとなをわかやかなる女の御よそひにはにけな

宇於止呂〳〵志幾事以登毛天波也佐連多利佐連止計
うおとろ〳〵しき事いともてはやされたりされとけ

尓己乃可八奈宇天波多佐武計奈留越心久留之止見多満
にこのかはなうてはたさむけなるを心くるしとみたま

【末摘花】51

婦奈尓事毛以八連給八寸和連佐部久知止知多留
ふなに事もいはれ給はすわれさへくちとちたる

心知志多末遍止連以乃志ゝ末毛心三武止登可宇幾己
心ちしたまへとれいのしゝまも心みむととかうきこ

衣給婦尓以多宇波知良比天久知於保比志多末部留
え給ふにいたうはちらひてくちおほひしたまへる

佐部比奈飛不留女可之宇古止〳〵志久幾之幾官乃祢利
さへひなひふるめかしうこと〳〵しくきしき官のねり

以天多留比知毛知於保衣天佐春可尓宇知恵三給部累
いてたるひちもちおほえてさすかにうちゑみ給へる

遣之幾波之堂奈宇寸ゝ呂比多里以止遠之久安八礼
けしきはしたなうすゝろひたりいとをしくあはれ

丹天以止ゝ以曽幾以天多満不太乃毛之幾人奈幾御安
にていとゝいそきいてたまふたのもしき人なき御あ

里左満越見曽女多流人尓波宇止加良春於毛比武津比
りさまを見そめたる人にはうとからすおもひむつひ

多満八武己曽本以安累心知寸遍介連遊留之奈幾御
たまはむこそほいある心ちすへけれゆるしなき御

【末摘花】52

遣之幾奈連八津良宇奈止己止津遣天
けしきなれはつらうなとことつけて

安左日佐春能幾乃多留比八止計奈可良奈止可津良
あさ日さすのきのたるひはとけなからなとかつら

良能武春保ゝ留良武止乃給部止多ゝ武ゝ止宇知和良比天
らのむすほゝるらむとの給へとたゝむゝとうちわらひて

以止久知遠毛遣奈留毛以止於之遣連八以天給日奴御
いとくちをもけなるもいとおしけれはいて給ひぬ御

車与世多留中毛武乃以止以多宇由可美与呂保以天与
車よせたる中もむのいといたうゆかみよろほいてよ

女尓己曽志留幾奈可良毛与呂川可久呂部多留事於本
めにこそしるきなからもよろつかくろへたる事おほ

可利遣連以止阿八連尓左比之久阿連満止部留尓松
かりけれいとあはれにさひしくあれまとへるに松

乃由幾乃三安堂ゝ可計尓不利津女留山佐止能心知之
のゆきのみあたたかけにふりつめる山さとの心ちし

天毛能阿八連奈留越加乃人〳〵乃以比之武久良乃可止
てものあはれなるをかの人〳〵のいひしむくらのかと

【末摘花】53

八加宇屋宇奈留所奈利介武可之計尓（心）久留之久良宇
はかうやうなる所なりけむかしけに（心）くるしくらう

多計奈良武人越己ゝ仁寸恵天宇之路女多宇恋之止於毛
たけならむ人をこゝにすゑてうしろめたう恋しとおも

波ゝ也阿累末之幾毛乃於毛比八曽連仁末幾連奈武
はゝやあるましきものおもひはそれにまきれなむ

加之止思屋宇奈流寸美可尓阿八奴御阿利左満八止留部幾
かしと思やうなるすみかにあはぬ御ありさまはとるへき

所奈之止思比奈可良和連奈良奴人八満之天美志乃比天
所なしと思ひなからわれならぬ人はましてみしのひて

武也和可加宇天三奈連多留八己美己乃宇之路女多之止多久
むやわかかうてみなれたるはこみこのうしろめたしとたく

遍遠幾多末比遣武堂満之以乃志留部奈女利止曽於
へをきたまひけむたましいのしるへなめりとそお

保佐留ゝ多知花乃木乃宇川毛連多留美春以之无女之天
ほさるゝたち花の木のうつもれたるみすいしんめして

波良八世多万不宇良也三可本尓末川乃幾乃遠乃連於幾可部利
はらはせたまふうらやみかほにまつのきのをのれおきかへり

【末摘花】54

天佐止己保留ゝ雪毛名尓多川春恵乃止美遊留（奈止）越以登
てさとこほるゝ雪も名にたつすゑのとみゆる（なと）をいと

不可ゝ良寸止毛奈堂良加奈留保止仁安比之良八武人毛可
ふかゝらすともなたらかなるほとにあひしらはむ人もか

奈止見多満不御車以津遍幾加止八満多阿計佐利遣礼
なと見たまふ御車いつへきかとはまたあけさりけれ

八加幾乃阿津可利多川祢以天多連八於幾奈乃以止以美之
はかきのあつかりたつねいてたれはおきなのいといみし

幾曽以天幾多留武寸女尓也武末己尓也波之多奈留於保
きそいてきたるむすめにやむまこにやはしたなるおほ

幾佐乃女乃幾奴八由幾仁安比天寸ゝ計満止比佐武之止思部留
きさの女のきぬはゆきにあひてすゝけまとひさむしと思へる

遣之幾朮不可宇天阿屋之幾毛乃尓火越多ゝ保乃可尓以
けしきゆふかうてあやしきものに火をたゝほのかにい

連天曽天久ゝ美尓毛多利於幾奈可止越衣阿計屋良祢者
れてそてくゝみにもたりおきなかとをえあけやらねは

与利天比幾多寸久留以止可多久奈ゝ利御止毛乃人与利天曽阿計川留
よりてひきたすくるいとかたくなゝり御ともの人よりてそあけつる

【末摘花】55

不利仁遣留加之良乃雪越美留人毛於止良寸奴良春
ふりにけるかしらの雪をみる人もおとらすぬらす

安左乃袖可奈和可幾毛乃盤加多知可久連寸止宇知寸之給
あさの袖かなわかきものはかたちかくれすとうちすし給

日天花乃色尓以天ゝ以止佐武之止見衣津留御於毛可気不止
ひて花の色にいてゝいとさむしと見えつる御おもかけふと

思比出良連天保ゝ恵末連多満不頭中将尓己礼遠美世多
思ひ出られてほゝゑまれたまふ頭中将にこれをみせた

良武止幾以可奈留事越与曽部以八武川祢尓宇可ゝ以久連八
らむときいかなる事をよそへいはむつねにうかゝいくれは

以末美津遣良連奈武止寸部奈宇於本春世乃川祢奈留保止
いまみつけられなむとすへなうおほす世のつねなるほと

乃己止那留事奈左奈良波於毛比寸天ゝ毛也三奴部幾越佐多
のことなる事なさならはおもひすてゝもやみぬへきをさた

可尓美多末比天能知八中〳〵阿八連仁以美之久天満女也可
かにみたまひてのちは中〳〵あはれにいみしくてまめやか

奈留左満尓遠止川連給不留幾乃可八奈良奴幾奴阿也和多
なるさまにをとつれ給ふるきのかはならぬきぬあやわた

【末摘花】56

奈止於以人止毛乃幾留遍幾毛乃ゝ太九比可能於幾奈乃太
なとおい人とものきるへきものゝたくひかのおきなのた

女末天加三之毛於保之也利天多天末川里給可也宇乃満女也
めまてかみしもおほしやりてたてまつり給かやうのまめや

可事毛波津可之遣奈良奴遠心屋寸久佐留可多乃宇之路
か事もはつかしけならぬを心やすくさるかたのうしろ

美尓天波久ゝ万武止於毛保之止利天左満己止仁佐奈良奴宇知止
みにてはくゝまむとおもほしとりてさまことにさならぬうちと

計和左毛之給介利加乃宇川世美乃宇知止計堂利之与比乃曽
けわさもし給けりかのうつせみのうちとけたりしよひのそ

八女尓八以止和呂可利之可堂知左満奈連止毛天奈之尓可久左
はめにはいとわろかりしかたちさまなれともてなしにかくさ

連天久知於之宇八阿良佐利幾加之於止留遍幾保止乃人奈利
れてくちおしうはあらさりきかしおとるへきほとの人なり

也者計尓志奈尓毛与良奴和左奈利遣利心八世乃奈多良可
やはけにしなにもよらぬわさなりけり心はせのなたらか

尓祢多計奈里之越末計天也美尓之可奈止物乃於利己止仁八
にねたけなりしをまけてやみにしかなと物のおりことには

【末摘花】57

於保之以津年毛暮奴内乃止乃為所尓於八之末寸尓太以不
おほしいつ年も暮ぬ内のとのゐ所におはしますにたいふ

乃命婦満以連利御遣津利久之奈止仁八計佐宇多川春知奈
の命婦まいれり御けつりくしなとにはけさうたつすちな

久心也春幾物乃佐春可尓乃給多和不連奈止之天川可比奈良之給
く心やすき物のさすかにの給たわふれなとしてつかひならし給

遍連八女之奈幾時毛幾己由部幾事安累於利八満宇乃本利介利
へれはめしなき時もきこゆへき事あるおりはまうのほりけり

阿屋之幾事乃侍越幾己衣佐世左良武毛比加〳〵之宇於毛比給部
あやしき事の侍をきこえさせさらむもひか〳〵しうおもひ給へ

和川良以天止保ゝ恵三天幾己衣也良奴遠奈尓左満乃事曽和連仁
わつらいてとほゝゑみてきこえやらぬをなにさまの事そわれに

盤津ゝ武事安良之止奈無思不止乃給部八以可ゝ八美津可良乃宇連
はつゝむ事あらしとなむ思ふとの給へはいかゝはみつからのうれ

遍八可之己久止毛末津己曽八己連八以止幾己盈佐世尓久ゝ奈
へはかしこくともまつこそはこれはいときこえさせにくゝな

武止以多宇己止己女多連八連以乃衣武奈留止仁久三給可乃宮
むといたうことこめたれはれいのえむなるとにくみ給かの宮

【末摘花】58

与里侍御不見止天止利以天多利満之天美連八止利可久
より侍御ふみとてとりいてたりましてみれはとりかく

寸遍幾事可八止天登利給婦毛武祢津不留美知乃久
すへき事かはとてとり給ふもむねつふるみちのく

尓加三乃阿津古衣多留尓仁本比波可利八不可宇志女給
にかみのあつこえたるにほひはかりはふかうしめ給

遍利以止与宇可幾於本世多利宇多毛
へりいとようかきおほせたりうたも

閑良衣君可心乃津良遣礼者太毛止八加久曽ゝ
から衣君か心のつらけれはたもとはかくそゝ

本知津ゝ乃三心衣春宇知加多婦幾多満部留仁津ゝ美尓
ほちつゝのみ心えすうちかたふきたまへるにつゝみに

古呂毛波己乃於毛里可仁己太以奈留宇知遠幾天越之
ころもはこのおもりかにこたいなるうちをきてをし

以天多利己連越以可天可八加多八良以多久於毛比給部佐
いてたりこれをいかてかはかたはらいたくおもひ給へさ

良武左連止津以多知乃御与曽比止天和左止侍女留越
らむされとついたちの御よそひとてわさと侍めるを

【末摘花】59

波之多奈宇波衣可遍之侍良春比止利比幾己女侍良武
はしたなうはえかへし侍らすひとりひきこめ侍らむ

毛人乃御心多可比侍遍介連八御良武世佐世天己楚
も人の御心たかひ侍へけれは御らむせさせてこそ

八止幾古遊連八比幾己女良連奈武八可良加利奈満之
はときこゆれはひきこめられなむはからかりなまし

袖末幾保左武人毛奈幾身仁以止宇連之幾心佐之
袖まきほさむ人もなき身にいとうれしき心さし

尓己曽八止乃多末比天己止仁物以者連多満八寸佐天毛
にこそはとのたまひてことに物いはれたまはすさても

阿左満之乃久知津幾也己連己曽八天津可良乃御事
あさましのくちつきやこれこそはてつからの御事

乃可幾利奈女連侍従己曽止利奈遠春遍可女連又婦
のかきりなめれ侍従こそとりなをすへかめれ又ふ

天乃志利止留波可世曽奈可遍幾止以不可比奈久於本春
てのしりとるはかせそなかへきといふかひなくおほす

心遠津久之天与美以天給部良武保止越於本春尓以止毛
心をつくしてよみいて給へらむほとをおほすにいとも

【末摘花】60

加之己之止八己礼越毛以不遍加利遣利止保ゝ恵美天美多末
かしこしとはこれをもいふへかりけりとほゝゑみてみたま

不越命婦於毛天安可三天美多天末津留以末也宇色
ふを命婦おもてあかみてみたてまつるいまやう色

乃衣遊留春満之久津也奈宇不留女幾多留奈越之乃
のえゆるすましくつやなうふるめきたるなをしの

宇良宇部日止志宇己満也可奈留以止奈越〳〵志宇津万〳〵曽
うらうへひとしうこまやかなるいとなを〳〵しうつま〳〵そ

美衣多留阿左満之止於本寸尓己乃不三越日呂計奈可良
みえたるあさましとおほすにこのふみをひろけなから

波之尓天奈良比春佐比給布越曽波女尓美連波
はしにてならひすさひ給ふをそはめにみれは

奈津可之幾色止毛奈之仁奈尓ゝ己乃春恵川無
なつかしき色ともなしになにゝこのすゑつむ

花越曽天仁布連遣無色己幾花止毛止見之可止毛
花をそてにふれけむ色こき花とも見しかとも

奈止可幾計可之給布者奈乃止可女越奈越安留也宇安
なとかきけかし給ふはなのとかめをなをあるやうあ

【末摘花】61

良武止於毛比阿八春留於利〳〵乃月可希奈止遠以登
らむとおもひあはするおり〳〵の月かけなとをいと
於之幾物可良於可之宇於毛比奈利奴
おしき物からおかしうおもひなりぬ
久礼奈井乃日止花己呂毛宇寸久止毛比多寸良
くれなゐのひと花ころもうすくともひたすら
久多寸奈越之多天寸波心久留之乃与也止以登以多宇
くたすなをしたてすは心くるしのよやといといたう
奈礼天日止利己津越与幾仁八安良祢止可宇也宇乃可以奈
なれてひとりこつをよきにはあらねとかうやうのかいな
天二多仁安良末之可八止加遍春〳〵久地遠之人乃保止
てにたにあらましかはとかへす〳〵くちをし人のほと
乃心久留之幾仁奈乃久知奈武八佐春可奈利人〳〵末以
の心くるしきになのくちなむはさすかなり人〳〵まい
連波止利加久佐武也加ゝ留和左波人乃寸流物尓也安良
れはとりかくさむやかゝるわさは人のする物にやあら
武止宇知宇女幾給婦奈尓ゝ御良武世佐世津良無和
むとうちうめき給ふなにゝ御らむせさせつらむわ

【末摘花】62

連佐部心奈幾屋宇尓止以止波津可之久天也遠良於利
れさへ心なきやうにといとはつかしくてやをらおり
奴又乃日宇部尓佐不良遍八多以波武所尓佐之乃曽幾
ぬ又の日うへにさふらへはたいはむ所にさしのそき
給天久者也幾乃不乃可遍利事阿屋之久心者見
給てくはやきのふのかへり事あやしく心はみ
寸久佐留ゝ止天奈計給遍利女波宇多知奈仁事奈
すくさるゝとてなけ給へり女はうたちなに事な
良武止遊可之加留多ゝ梅能花乃色能己止見可左
らむとゆかしかるたゝ梅の花の色のことみかさ
能山乃遠止女越者寸天ゝ止宇多比寸佐比天以天給
の山のをとめをはすてゝとうたひすさひていて給
奴累越命婦者以止於可之止於毛不心志良奴人〳〵八奈曽
ぬるを命婦はいとおかしとおもふ心しらぬ人〳〵はなそ
御日止利恵三波止ゝ可女安遍利安良春左武幾之毛
御ひとりゑみはとゝかめあへりあらすさむきしも
安左仁加以祢利己乃女留者奈乃以呂安比也美衣津良
あさにかいねりこのめるはなのいろあひやみえつら

【末摘花】63

武御津ゝ志利宇多乃於可之幾登以遍者阿奈可知奈留
む御つゝしりうたのおかしきといへはあなかちなる
事可那己乃奈可尓八仁本遍留花毛奈可女梨佐古武乃
事かなこのなかにはにほへる花もなかめりさこむの
命婦比己乃宇祢女也万志良比津良武奈止心毛衣春以
命婦ひこのうね女やましらひつらむなと心もえすい
比之呂婦御可遍利多天末津利多連波宮尓波女者宇
ひしろふ御かへりたてまつりたれは宮には女はう
津止日天美女天遣利
つとひてみめてけり
安八奴与越遍多津留奈可乃衣天仁加左祢天以止ゝ
あはぬよをへたつるなかの衣てにかさねていとゝ
美毛之見与止也志路幾可美尓寸天可以給遍留之毛曽
みもし見よとやしろきかみにすてかい給へるしもそ
奈加〳〵於可之計奈留津己毛利乃日遊不津可多可乃御
なか〳〵おかしけなるつこもりの日ゆふつかたかの御
古路毛波己仁御連宇止天人乃多天末津連留御曽比
ころもはこに御れうとて人のたてまつれる御そひ

【末摘花】64

止久太利衣比曽女能越利毛乃ゝ御曽又也末不幾可奈尓
とくたりえひそめのをりものゝ御そ又やまふきかなに

曽色〳〵美衣天命婦曽多天末津利多留阿利之以呂安比
そ色〳〵みえて命婦そたてまつりたるありしいろあひ

越和呂之止也美多末比介武止於毛比志良流連止可礼者多
をわろしとやみたまひけむとおもひしらるれとかれはた

久連奈井乃於毛〳〵之加利越也佐利止毛幾衣之止祢比
くれなゐのおも〳〵しかりをやさりともきえしとねひ

人止毛波佐多武留御宇多毛己連与利乃八己止和利幾己衣
人ともはさたむる御うたもこれよりのはことわりきこえ

天志多ゝ可仁古曽阿連御可遍利八多ゝ於可之幾加多仁
てしたゝかにこそあれ御かへりはたゝおかしきかたに

己曽那止久知〳〵尓以不比女君毛於本呂希奈良天志以
こそなとくち〳〵にいふひめ君もおほろけならてしい

天給遍留和左奈連波毛乃尓可幾津遣天遠幾給部利
て給へるわさなれはものにかきつけてをき給へり

遣利津以多知乃保止春幾天己止之於止己多宇可阿留部
けりついたちのほとすきてことしおとこたうかあるへ

【末摘花】65

遣礼八連以乃所ゝ阿曽比乃ゝ志利給不尓毛佐王可之介連登
けれはれいの所ゝあそひのゝしり給ふにもさわかしけれと

佐日之幾所乃安者礼二於本之也良留連波奈奴可乃日（乃）世知
さひしき所のあはれにおほしやらるれはなぬかの日（の）せち

恵波天ゝ夜二以利天御世武与利満可天給計留遠御止乃井
ゑはてゝ夜にいりて御せむよりまかて給けるを御とのゐ

所二也可天止満利給奴留也宇二天夜不可之天於八之多利連以乃
所にやかてとまり給ぬるやうにて夜ふかしておはしたりれいの

阿利左満与利（八）計八比宇知曽与女幾与徒以多利君毛春己之多遠
ありさまより（は）けはひうちそよめきよついたり君もすこしたを

也幾給部留計之幾毛天津遣給部利以可尓曽安良多女天比幾
やき給へるけしきもてつけ給へりいかにそあらためてひき

加遍多良武止幾仁止曽於本之津ゝ遣良留ゝ日佐之以津留程
かへたらむときにとそおほしつゝけらるゝ日さしいつる程

尓也春良比奈之天以天多満不比武可之乃徒万止遠之阿計多
にやすらひなしていてたまふひむかしのつまとをしあけた

連波武可比多留良宇乃宇部毛奈久阿八連多礼八日乃安之
れはむかひたるらうのうへもなくあはれたれは日のあし

【末摘花】66

保止奈久佐之以利天雪春己之不利多留光尓以止計左也可
ほとなくさしいりて雪すこしふりたる光にいとけさやか

尓美以連良留御奈越之奈止多天末津留越見以多之天
にみいれらる御なをしなとたてまつるを見いたして

春己之佐之以天ゝ加多八良不之給部留加之羅津幾己保連以天
すこしさしいてゝかたはらふし給へるかしらつきこほれいて

多留保止女天多之於比奈越利見以天多良武時止於本左礼天
たるほとめてたしおひなをりみいてたらむ時とおほされて

加宇之比幾阿計給遍利以止於之加利之毛乃己利仁阿計毛者天
かうしひきあけ給へりいとおしかりしものこりにあけもはて

給八天計宇曽久越ゝ之与世天宇知可計天御日无久幾乃
給はてけうそくをゝしよせてうちかけて御ひんくきの

志止希奈幾越津久呂比給不和利奈久不留女幾多留幾
しとけなきをつくろひ給ふわりなくふるめきたるき

也宇太以乃可良久之遣加ゝ計乃波己奈止取利以天多利佐春
やうたいのからくしけかゝけのはこなと取りいてたりさす

可尓於止己乃御久佐部保乃〳〵安留越佐連天於可之止美給婦
かにおとこの御くさへほの〳〵あるをされておかしとみ給ふ

【末摘花】67

女乃御佐宇曽久遣不盤与川幾多利止三由留者阿利之波己
女の御さうそくけふはよつきたりとみゆるはありしはこ

乃心波部越佐奈可良奈利遣利佐毛於保之与良春遣不阿累
の心はへをさなからなりけりさもおほしよらすけふある

毛武津幾天志留幾宇八幾波可利曽阿屋之止八於本之
もむつきてしるきうはきはかりそあやしとはおほし

遣留己止之多仁己恵春己之幾可世多満部加之満多留ゝ物八
けることしたにこゑすこしきかせたまへかしまたるゝ物は

佐之遠可連天御介之幾乃阿良多満良無奈武由可之幾止
さしをかれて御けしきのあらたまらむなむゆかしきと

能多満遍波左衣津留波留八止加良宇之天和奈ゝ可之以天多
のたまへはさえつるはるはとからうしてわなゝかしいてた

里佐利也年遍奴留志累之与止宇知和良比給天夢可止
りさりや年へぬるしるしよとうちわらひ給て夢かと

曽美留止宇知寸之天以天給不越美越久利天曽比不之給部
そみるとうちすしていて給ふをみをくりてそひふし給へ

里久知於本比乃曽波女与利奈越可乃春恵津武花乃以
りくちおほひのそはめよりなをかのすゑつむ花のい

【末摘花】68

止尓本比也可二佐之以天多利見久留之乃和左也止於本佐留
とにほひやかにさしいてたり見くるしのわさやとおほさる

二条院尓於波之多連波武良左幾乃君以止毛宇津久之幾
二条院におはしたれはむらさきの君いともうつくしき

可多於比尓天久連奈井八可宇奈津可之幾毛阿利計利止
かたおひにてくれなゐはかうなつかしきもありけりと

美遊留尓武毛无乃佐久良乃保曽奈可奈与良可仁幾奈之
みゆるにむもんのさくらのほそなかなよらかにきなし

天奈尓心毛奈久天毛乃之多満不佐末以美之宇良宇多之
てなに心もなくてものしたまふさまいみしうらうたし

己多以乃越八君乃御奈己利二天波久路女毛末多之可利
こたいのをは君の御なこりにてはくろめもまたしかり

遣留越比幾津久呂八世給部連者末遊乃計左也可尓奈利
けるをひきつくろはせ給へれはまゆのけさやかになり

多留毛宇津久之宇幾与良奈利心可良奈止可加宇宇幾世越
たるもうつくしうきよらなり心からなとかかううき世を

見安津可不良武閑久心久留之幾毛乃越美天為多良天
見あつかふらむかく心くるしきものをみてゐたらて

【末摘花】69

止於本之津ゝ連以乃毛呂止毛尓比ゝ奈阿曽比之給恵奈止可
とおほしつゝれいのもろともにひゝなあそひし給ゑなとか

幾天色止利給与路津尓於可之宇寸左比知良之給計利
きて色とり給よろつにおかしうすさひちらし給けり

和連毛加幾曽部給布可美以止奈可幾女越可幾給以天者
われもかきそへ給ふかみいとなかき女をかき給いては

奈尓部尓越川遣天美多末不尓可多仁可幾天毛美末宇幾佐
なにへにをつけてみたまふにかたにかきてもみまうきさ

末之多利和可御可計乃幾也宇多以尓宇川連留可以止幾与良
ましたりわか御かけのきやうたいにうつれるかいときよら

奈留越美多末以天ゝ津可良己乃阿可者奈遠可幾津計
なるをみたまいてゝつからこのあかはなをかきつけ

尓本波之天見給尓加久与幾可本多仁左天末之連良武八
にほはして見給にかくよきかほたにさてましれらむは

美久留之加留遍可利遣利比女君美天以美之久和良飛給末
みくるしかるへかりけりひめ君みていみしくわらひ給ま

呂可可久加多波尓奈利奈武止幾以可奈良武止乃多末部者宇
ろかかくかたはになりなむときいかならむとのたまへはう

【末摘花】70

多天己曽阿良女止天左毛也志三津可武止阿也宇久思比給
たてこそあらめとてさもやしみつかむとあやうく思ひ給

部利曽良乃古比越志天佐良尓己曽志呂万祢与宇奈幾
へりそらのこひをしてさらにこそしろまねようなき

寸左比和左奈利也宇知仁以可尓能多満者武止寸良武止以止
すさひわさなりやうちにいかにのたまはむとすらむといと

末女也可尓乃給越以止〳〵於之止於本之天与利天乃古比
まめやかにの給をいと〳〵おしとおほしてよりてのこひ

給部波遍以知宇可也宇仁色止利曽部給奈阿可ゝ良武八安
給へはへいちうかやうに色とりそへ給なあかゝらむはあ

衣奈武止多和不連給左末以止於可之幾以毛世止美衣給
えなむとたわふれ給さまいとおかしきいもせとみえ給

遍利日乃以止宇羅ゝ可奈留尓以津之可止霞和多連留己
へり日のいとうらゝかなるにいつしかと霞わたれるこ

春恵止毛乃心毛止奈幾中尓毛武女波遣之幾波三本
すゑともの心もとなき中にもむめはけしきはみほ

保恵三和多連留止利和幾天美遊波之可久之乃毛止乃古
ほゑみわたれるとりをきてみゆはしかくしのもとのこ

【末摘花】71

宇波以以止ゝ久佐久花尓天色津幾二遣利
うはいいとゝくさく花にて色つきにけり

久連奈井乃花曽安也奈久宇止満留ゝ梅乃多知
くれなゐの花そあやなくうとまるゝ梅のたち

衣波奈津可之遣連止以天也止安以奈久宇知宇女可連
えはなつかしけれといてやとあいなくうちうめかれ

多満不閑ゝ留人〳〵乃春恵〳〵以可奈利遣無
たまふかゝる人〳〵のすゑ〳〵いかなりけむ

【末摘花】72

依或人求染陋筆畢

博陸候　花押